

徳島県立博物館年報

第15号 (平成17年度)

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum
No. 15 (for the fiscal year of 2005)



目 次

I 資料の収集・保存と活用

1. 採集資料……………2
2. 購入資料……………2
3. 寄贈資料……………3
4. 寄託資料……………4
5. 資料の貸し出し……………4
6. 資料の交換……………5
7. 資料の提供……………5
8. 館蔵資料数……………5
9. 資料収集委員会……………5
10. 文献資料の収集……………5
11. 資料の燻蒸……………6

II 調査研究

1. 課題調査……………7
2. 分野別（個別）調査研究……………8
3. 科学研究費補助金等による研究……………10
4. 他機関との共同研究……………10
5. 研究成果の公表……………10

III 展 示

1. 常設展……………15
2. 企画展……………17
3. 特別陳列……………21
4. 館外での展示……………23
5. 常設展の更新及び活性化に向けての取
り組み……………24
6. 展示関係出版物……………24

IV 普及教育

1. 普及行事……………25
2. 学校教育支援事業……………28
3. 博物館友の会……………30
4. 普及教育関係出版物……………31

V シンクタンクとしての社会貢献

1. 各種委員会委員等の受諾……………33
2. 講師の派遣……………34
3. 大学教育への寄与……………34
4. 学会・研究会等の運営への寄与……………35
5. 博物館ネットワーク……………36

VI 情報の発信と公開

1. 博物館の広報活動……………38
2. テレビ・ラジオへの出演等……………38
3. インターネットによる情報提供……………39
4. 外部ネットワークとの連携……………40
5. 情報システムの更改……………40

VII 管理運営・マネージメント

1. 組織・職員……………42
2. 予算……………43
3. 博物館協議会……………43
4. 県民参加の仕組みづくり、博物館運営
支援組織のあり方等の検討……………43
5. 平成17年度文化庁芸術拠点形成事業
「元気な博物館づくりプロジェクト」
の実施……………45
6. 視察等博物館関係来訪者……………46

VIII 中期活動目標と自己点検・評価……………47

- 17年度実績と自己点検・評価……………51

IX 観覧者統計……………59

X 施設の概要

1. 沿革……………63
2. 施設の概要……………63
3. 博物館各室面積……………65

XI 例規……………67

I 資料の収集・保存と活用

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。当館では開館以来次の4つを基本方針として資料を収集している。

- 1) 徳島の自然と人文に関する資料のすべてを収集の対象とする。
- 2) 地域に根ざしたテーマを設定し、計画的かつ集中的な収集をする。
- 3) 徳島の概要あるいは特性を把握するため、世界を対象とした比較資料の収集をめざす。
- 4) 一次資料のみならず、すべての二次資料をも収集する。

資料の収集手段としては、採集・購入・寄贈・交換など様々な方法で行っている。学芸員自らが積極的に収集しているほか、最近では、県民や官公庁からの資料の寄贈も増えてきている。

収集した資料は、調査研究に役立っているだけでなく、展示や教育活動、他の博物館や研究者への貸し出しなどを通じて有効に活用している。

平成17年度は6名(人文3、自然3)の文化推進員・臨時補助員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

1. 採集資料

●動物

園瀬川産魚類	7点
エゾシカ頭骨	辻野泰之 1点
ヒラズゲンセイ・セミほか昆虫	多数

●植物

県内各地の標本	多数
海浜生植物標本	多数

●地学

モササウルス歯	1点
大分県産岩石	2点
県内および北海道産白亜紀動物化石	多数
高知県・長崎県産第三紀～第四紀貝化石	多数
栗坂層座二枚貝化石	1点

2. 購入資料

なし

3. 寄贈資料

●動物(脊椎動物)

イノシシ頭骨	1点	阿部保夫氏
オオアカゲラ	1点	松本久市氏
ニホンカモシカ	1点	徳島県文化財課
コルリ	1点	東條秀徳氏
四国産イシドジョウ標本	6点	洲澤 譲氏
ヤツメウナギの一種写真	3点	徳島新聞社阿南支局
アナグマ写真	2点	徳島新聞社牟岐支局
岡山県産アユモドキ画像	7点	岡山淡水魚研究会
マムシ黒色個体	1点	徳島新聞社小松島支局
スズメ	1点	尾方めぐみ氏
コウモリ的一种	1点	佐藤南海氏
牟岐川産アユカケ画像	2点	徳島新聞社牟岐支局
徳島南環状道路調査魚類標本	多数	国土交通省徳島河川国道事務所
ヤマカガシ写真	2点	福永里子氏
オオタカ	1点	吉田和人氏
ヤマドリ	1点	桜谷小学校
アオバト	1点	吉田和人氏
タシギほか鳥類	4点	曾良寛武氏
江湖川南地区ほか魚類標本	多数	徳島県農山村整備課
野村ダム湖産ミドリガメ	2点	高橋弘明氏
スッポン	1点	岸渕隆一氏
佐那河内村産シコクトガリネズミ	1点	井口光二氏
那須産ヒメヒミズ	1点	佐藤 亮氏
オオウナギ	1点	葛木憲二氏
キジバト	1点	文化の森保安センター
アカネズミほか	2点	田渕武樹氏
西祖谷山村産ヨシゴイ画像	1点	徳島新聞池田支局

竹須賀地区(川内町)産ほか魚類標本 多数
 徳島県農山村整備課
 ニホンジカ剥製 1点 榊 実氏
 ゴクラクチョウほか 多数 天羽一夫氏
 福井川産ナガレホトケドジョウ標本ほか
 多数 大川健次氏
 タシギ 1点 宮本 勇氏
 鳴門市カワバタモロコ調査ほか魚類標本
 多数
 徳島県農山村整備課
 キジ 1点 手塚喜久雄氏
 ヤマドリ 1点 森 芳雄氏
 ハイタカ 1点
 牟岐少年自然の家
 岡川産魚類標本 多数 徳島県河川課
 ハイタカ 1点 長尾碩修氏
 フクロウ 1点 石川茂夫氏
 動物による樹皮剥ぎ跡写真 2点 岡崎秀一氏
 徳島南環状道路調査魚類標本 多数
 国土交通省徳島河川国道事務所
 那賀川西部地区ほか調査魚類標本
 多数 徳島県農山村整備課
 キジバト 1点
 文化の森保安センター
 コミミズク 1点 神野 忠氏
 ハイタカ 1点 吉田和人氏
 ツクシガモ剥製 1点 渡辺 誠氏
 奥の池(脇町)産魚類標本 多数
 徳島県農山村整備課
 ヤマネ 1点 森本利幸氏
 ヒミズ 1点
 徳島県立農業大学校
 蜂須賀正氏蔵書 7点 蜂須賀正子氏
 徳島県農山村整備課「田んぼの生きもの調査」魚類標本
 多数 徳島大学大学院エコシステム研究科
 新居浜市東川産魚類標本 多数
 高橋弘明・渋谷雅紀氏
 暮越池(小松島市)産魚類標本 多数
 徳島県農山村整備課
 イシドジョウ標本 多数 洲澤 譲氏
 マミチャジナイ 1点 石川茂夫氏
 オキナワオオコウモリ 1点 佐々木健志氏
 徳島県産ツキノワグマほか哺乳類剥製(旧徳島県立
 県民の森資料館収蔵) 25点 徳島県林業振興課
 水田魚道調査魚類標本 多数
 徳島大学大学院エコシステム研究科

●動物(無脊椎動物)

吉野川河口産無脊椎動物標本 多数
 徳島県都市道路整備局
 徳島市川内町産甲殻類標本 多数
 徳島県農山村整備課
 吉野川河口産無脊椎動物標本
 366点 徳島県都市道路整備局
 ナガミミズ亜目の一つ 4点 高橋忠雄氏
 徳島南環状道路調査底生動物標本
 多数 国土交通省徳島河川国道事務所
 那賀川西部地区ほか調査底生動物標本
 多数 徳島県農山村整備課

●昆虫

エゾゼミ♀ 1点 吉田正隆氏
 フコシヤク 2点 永井洋三氏

●植物

徳島県産標本 多数 木下 覚氏
 徳島県産標本 多数 田淵武樹氏
 徳島県産標本 18点
 佐治まゆみ・成田愛治氏
 インドネシア産種子 9点 西山保典氏
 フィリピン及びタイ産種子果実
 5点 船越英伸氏
 ススキ標本 1点 木場英久氏
 沖縄県石垣島産植物 2点 村上構三氏
 トキワススキ 美馬町産 1点 真鍋邦男氏
 オオニワゼキショウ 1点 斉藤 正氏
 ミャンマー産イネ科標本 51点
 高知県立牧野植物園
 旧徳島県立県民の森資料館収蔵植物標本
 多数 徳島県林業振興課
 土地改良関連調査証拠標本 多数
 徳島県土地改良事業団体連合会

●地学

徳島県内産化石標本ほか 19点
 徳島大学地学教室
 蝦夷層群産二枚貝化石 28点 辻野泰之氏
 愛媛県産束沸石 1点 田邊一郎氏
 イノセラムスおよびヒメバラモミ
 2点 竹田秀雄氏
 硫黄および石膏 2点 佐藤陽一氏
 黒曜岩 7点 魚島純一氏
 珪化木および鉄砲石 34点 中根 昭氏
 唐ノ浜層群産貝化石 15点 三本健二氏
 三葉虫、アンモナイトほか 8点 天羽一夫氏
 植物化石 4点 加藤正明氏

4 資料の収集・保存と活用

鳴門海峡海底産貝化石	1点	小野守、澤靖彦氏
植物化石	1点	小川 誠氏
栗坂層産アンモナイトほか	14点	水野吉昭・蜂矢喜一郎氏
小松島市産完新世貝化石	4点	石田啓祐氏
栗坂層産アンモナイト	1点	水野吉昭氏
羽ノ浦層産ウミシダ化石	1点	鎌田誠一氏
羽ノ浦層産ウミシダ化石	4点	大路樹生氏
岡山県産マクガイ類化石	1点	西川忠行氏
中生代化石および岩石	6点	糸魚川幸次氏

●考古

樋殿谷出土蔵骨器関係資料(徳島県指定有形文化財考古資料)	18点	竹内 進氏
------------------------------	-----	-------

●歴史

棟札	5点	北原国雄氏
----	----	-------

●民俗

カメラ	1点	佐藤正年氏
昭和33年の徳島市街のプリント写真	4点	高田豊輝氏
婚礼衣装打掛・長襦袢	2点	葛佐ふみ子氏
笠・目籠・蓑	7点	北原国雄氏
竹籠	2点	渡部武雄氏
唐竿	1点	阿芸克子氏
人寄せ用具	10点	増谷重之氏
海女用具	4点	ハン・チュンセン氏
肥桶	1点	小林哲夫氏
盥	1点	坂崎初雄氏

●美術工芸

須木一胤資料	877点	須木成芳氏
蒔絵提重	1点	近藤 豊氏

4. 寄託資料 (新規分のみ)

●美術工芸

薄蒔絵煙草盆ほか	2点	鬼田洋一氏
亀画賛 閑々子筆	1点	今川一夫氏
木造十一面観音立像ほか	2点	青蓮院
梅竹蒔絵重箱ほか	3点	三谷昌敬氏
仮面ほか	25点	藤野安信氏

5. 資料の貸し出し

学校への資料の貸し出しは「学校教育支援事業」の項に記載した。

●動物

昆虫標本	10箱	池田町教育委員会
マダラギンボ標本	1点	東京海洋大学海洋科学部
イタチ骨格標本・仮剥製	18点	京都大学理学研究科
ウミタナゴ標本	10点	京都大学総合博物館
タモロコ標本	5点	高橋弘明氏

●植物

ウシノシッペイ属標本	97点	人間環境大学
コウボウムギ属標本	48点	Washington St. Univ.

●地学

メタセコイアの球果および産状写真	23点と11枚	夕張市石炭博物館
唐ノ浜産二枚貝化石	3種	筒井牧子氏(国立科学博物館)
自然金(山金および砂金)	2点	特別展Go!Go!ゴールド実行委員会
和泉層群スッポン化石および新生代貝化石	10点	きしわだ自然資料館
勝浦町産イグアノドンの歯化石(写真)	1点	小学館出版局
ジュラ系栗坂層産アンモナイト	6点	深田地質研究所
羽ノ浦層産ウミシダ化石	7点	大路樹生氏(東京大学大学院理学研究科)
チラノサウルス骨格(写真)	1点	小学館

●考古

田村谷銅鐸〔複製〕ほか	27点	海南町立博物館
古屋岩陰出土遺物ほか	30点	愛媛県歴史文化博物館
鮎川西ノ宮遺跡出土白玉ほか	19点	徳島市立考古資料館
若杉山遺跡出土石臼ほか	19点	徳島市立考古資料館
忌部山古墳群出土資料	23点	ガレの森美術館

●歴史

近代部落史関係資料	12点	松茂町歴史民俗資料館
徳島大空襲関係資料	37点	川内中学校
灯火管制用電球笠ほか	6点	鳴門教育大学附属図書館
阿波忌部関係資料	7点	ガレの森美術館

●民俗

鬼神面	1点	高知県立歴史民俗資料館
瑠璃看板ほか	37点	徳島市立徳島城博物館

●美術工芸

森崎春旦筆	松に鷹図下絵ほか	3点	徳島市立徳島城博物館
村瀬魚親筆	みとものつら絵巻	1点	徳島市立徳島城博物館
須木一胤筆	徳島城図	1点	名古屋市秀吉清正記念館
渡辺広輝筆	祖谷山絵巻	1点	徳島市立徳島城博物館

6. 資料の交換

●植物（受入数）

オレゴン州立大学（OSC）	140点
東北大学（TUS）	225点

7. 資料の提供

●動物

スズメ	2点	北海道大学大学院地球環境科学研究科
ツキノワグマほか体毛	5点	名古屋大学環境学研究科
高知県産レッドデータ魚類データ	34点	高知大学理学部自然環境科学科

8. 館蔵資料数

平成18年3月末日現在の分野別館蔵資料数は下表のとおり。

収蔵資料については、整理、標本作製等がすんだものから順次コンピュータ入力し、資料データベースを

●分野別収蔵資料数（平成18年3月31日現在）

分野	点数	内 訳			
		実 物	レ プ リ カ	模 型 ・ 模 写	文 献
動物(脊 椎)	18,227	18,153	55	13	6
（無脊椎）	36,873	36,815	0	58	0
（昆 虫）	186,215	185,815	0	3	397
植 物	188,027	187,677	61	8	281
地 学	7,939	7,842	95	2	0
考 古	3,426	3,281	73	13	59
歴 史	9,421	8,633	26	4	758
民 俗	8,415	8,405	5	5	0
美術工芸	9,751	9,742	0	4	5
合 計	468,294	466,363	315	110	1,506

作成している。

9. 資料収集委員会

館長の諮問に応じて博物館における購入資料について審査する機関として、博物館資料収集委員会が設置されている。本委員会は、平成17年3月末での徳島県美術品等取得基金の廃止に伴う資料購入手順の見直しにより、1件100万円以上の資料について審査することになっている。

委員は常任委員（5名以内・任期2年）と特別委員（3名以内）から構成されており、特別委員は、購入資料に応じて特に必要がある場合にその都度委嘱される。

17年度は、委員会に諮るべき資料について教育委員会内での事前了解を得るに至らず、委員会は開催できなかった。

●博物館資料収集委員会委員

（◎委員長、○副委員長）

氏 名	役 職（専門分野）
◎石田啓祐	徳島大学総合科学部教授（地学）
米澤義彦	鳴門教育大学学校教育学部教授（生物）
○福原健生	元徳島市立徳島城博物館長（美術工芸）
坂本憲一	徳島県郷土文化会館阿波木偶資料館主幹（民俗）
桑原 恵	徳島大学総合科学部教授（歴史）

10. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究にはもちろんのこと、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌のほか、徳島

県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。

●購入図書冊数（データベース登録数）

12,048冊（平成17年度分 108冊）

●購入雑誌

自然史系（27タイトル）：生物科学、科学、日経サイエンス、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、プラント、月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌、月刊地球、American Journal of Botany, Cladistics, Episodes, Evolution, Geology, Journal of Evolutionary Biology, Journal of Paleontology, Nature, Paleobiology, Science, Systematic Botany, The American Naturalist, Trends in Ecology and Evol., Lethaia, Palaeontology

人文系（32タイトル）：美術研究、美術史、佛教芸術、地方史研究、地理、芸術新潮、芸能史研究、月刊考古学ジャーナル、月刊文化財、月刊文化財発掘出土情報、季刊考古学、考古学と自然科学、古文化財の科学、古代文化、古代学研究、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、九州考古学、文化人類学、日本の美術、日本民俗学、日本歴史、日本史研究、歴史学研究、歴史評論、歴史と地理、歴史地理学、史林、史学雑誌、信濃

●当館刊行物の定期発送先（平成18年3月末現在）

博物館ニュース	1,408ヶ所
博物館年報	471ヶ所
研究報告 国内	555ヶ所
国外	152ヶ所
展示解説	235ヶ所
企画展図録 自然	132ヶ所
人文	242ヶ所

11. 資料の燻蒸

収集した資料、貸し出し後返却された資料は、原則としてすべて収蔵庫への搬入、展示に先だって燻蒸を行う。

当館では資料の形態や量などによって、次の3種類の燻蒸を行っている。

●減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受け入れのつど、担当学芸員が減圧燻蒸装置を使って行う。減圧燻蒸装置の有効内寸は、たて130cm×よこ120cm×奥行140cm（約2.3 m^3 ）である。

2005年1月からはこれまでの燻蒸剤に代わって酸化エチレン製剤を使用する予定である。

17年度は減圧燻蒸装置による燻蒸は実施していな

い。

●常圧燻蒸庫での燻蒸

減圧燻蒸装置に入れることができない大型の資料は、一時保管庫（24時間空調）に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫で燻蒸する。

常圧燻蒸庫は床面積20 m^2 ×高さ3m（約60 m^3 ）であり、燻蒸は文化財専門の燻蒸業者に委託している。

2005年1月からはこれまでの燻蒸剤に代わって酸化エチレン製剤を使用している。

17年度は2回の常圧燻蒸庫での燻蒸を行った。

●収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにもなると、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのために、原則として3年に1回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行っている。

17年度は、生物収蔵庫、歴史民俗収蔵庫（特別収蔵庫1・2、馴化室を含む）において、酸化エチレン製剤の燻蒸剤を使用した全室密閉燻蒸を行った。燻蒸後、使用したガスは大型の活性炭吸着装置で回収した。また、燻蒸剤の使用量をできるだけ少なくするために、考古収蔵庫と地学収蔵庫ではエムペントリン製剤による簡易燻蒸を実施した。

Ⅱ 調査研究

調査研究は、博物館における諸活動の根底をなすものである。それは、質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や質の高いコレクションの収集、内容豊かな普及活動が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、複数の学芸員グループで、必要に応じては館外の研究者も含めて、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

平成17年度は、館長を含む15名の学芸スタッフがこの業務に携わった。

1. 課題調査

平成17年度は、次の4つの課題調査を行った。

(1) 徳島県における水平社運動史の基礎資料調査

水平社は、近代日本における部落解放運動団体として著名であり、その活動が人権確立に向けて果たした役割は大きい。徳島県においても1924年に水平社が結成され、以後80年を経た。

近年、全国的には関係資料の調査研究が進められており、水平社の歴史的意義を問い直す動きが盛んであるが、徳島県においては十分な資料調査が行われておらず、組織・運動の実態も曖昧なままである。それはこれまでの地域社会史研究の大きな欠落ともいえる。

そこで、徳島県における水平社運動関係資料の調査・検討を行うことにより、徳島県の歴史像をより豊かにしていくことはもちろん、常設展における近代史関係コーナーを充実させていく足がかりとしたいという考えから、本調査を実施した。

●調査メンバー

博物館学芸員：長谷川賢二（歴史）

館外調査員：朝治 武（大阪人権博物館）、関口寛（四国大学経営情報学部）、生駒佳也（徳島市立高等学校）、松山隆博（徳島県立総合教育センター）

●調査日程と調査地

4月～5月：井藤家資料の撮影、デジタルデータ整理

9月17日～18日：第1回調査会

3月12日～13日：第2回調査会

●調査概要および結果

徳島県における部落解放運動史の中心人物である井藤正一の関係資料（日記、書簡等）について、遺族の理解を得て撮影し、基礎資料を得ることができた。また、過去の関連研究文献をたどり、徳島県における近代部落史研究の現状と課題を確認した。その結果、今後は井藤が先導した融和運動の実態をとらえることが重要課題であることを確認した。

(2) カワバタモロコの生息調査

2004年9月に吉野川下流域の用水路において、コイ科の淡水魚、カワバタモロコの生息が58年ぶりに確認された。これまで、徳島県版レッドデータブックでは「絶滅」したものとして扱われていた。本種を保全するうえで必要不可欠な生息範囲と生息環境を明らかにする目的で、現地調査およびデータの解析を行った。

●調査メンバー

博物館学芸員：佐藤陽一（動物）

●調査の概要および結果

第1発見場所を中心に、隣接域の水路をセグメント単位で56地点を設定し、カワバタモロコを含む魚類相および物理環境（水深、流速、濁度、溶存酸素量、水路形状、周辺環境など）を測定した。

56地点中20地点で生息が確認された。生息環境を明らかにするために、因子分析、ロジスティック回帰分析、判別分析および分類木分析を行った。その結果、護岸形状や植物カバーがカワバタモロコの生息に関係していることが示唆された。

(3) 徳島県のヤスデ類

ヤスデ類は森林落葉の消費者として重要な位置を占めていることから、ある地域にどのようなヤスデ類が生息しているか、すなわちヤスデ類相の解明は、その地域の生態系を理解する上で欠かせないものである。徳島県のヤスデ類相については今まで断片的な報告があるのみで、まとまった報告はなされていない。よって、本課題では徳島県のヤスデ類相について総合的な調査を計画した。

●調査メンバー

博物館学芸員：田辺 力（動物）

●調査の概要及び成果

徳島県の山間部を中心に調査を行い、ミドリババヤステ、ノコバシロハダヤステ等の生息を確認した。また、過去に採集された徳島県産ヤステ類の標本の同定や文献調査も行った。これらの結果を総合すると、徳島県には少なくとも50種のヤステ類が生息しているものと思われるが、全貌を解明するにはさらに詳細な調査が必要である。

ヤステ類の生息環境についても調査を行ったところ、杉の植林が適したものと考えられた。人為的な環境がこの群の生息に適した環境であることは注目に値するであろう。

(4) 徳島県の海岸植物群落の昆虫相

現在、徳島県では吉野川河口部や那賀川河口部の干潟をはじめ、海岸線に関係した道路や護岸工事が計画あるいは施工中であり、周辺の物理環境や動植物への影響調査、モニタリング手法の研究などを行っている。

このような工事等によって影響を受けやすい海浜性植物群落や干潟、海岸林などに生息する生物相の調査は、県立博物館として情報や資料の集積を行っておく必要があると考え、課題調査として計画した。

●調査メンバー

博物館学芸員：大原賢二（動物）

館外調査者：林 正美（埼玉大学教育学部教授）

●調査の概要及び成果

5月24日：阿南市椿町

6月17日：海部郡海部町

8月20日：松茂町笹木野

9月30日：海部郡由岐町

10月25日：徳島市川内町小松海岸

2006年3月28日～30日：吉野川河口干潟、沖洲干潟；那賀川河口、大潟干潟、海部川河口部など。

（館外調査者の都合で、今年度は3月末の1回しか調査に参加できなかったため、そのほかの時期は、大原が単独での調査を行った）。

・各調査地点共に、砂の中に生息する半翅目昆虫を主な指標種として調査を行った。シバやその他のイネ科に依存するカメムシや、ツチカメムシなどを各地点で採集できたが、これらは徳島での記録はない。

・一昨年の台風後の影響がまだ残っているところも多く、砂が流出したり、逆に砂に覆われて植物が見えなくなっている所など、回復にはもうしばらく時間がかかりそうである。

・海岸樹林の中の昆虫相の調査が十分にできていないため、次年度は樹林の調査も重点的に行いたいと考えている。

2. 分野別（個別）調査研究

大原賢二（動物・昆虫）

①日本産ハナアブ科の分類学的研究

②徳島県のヒラズゲンセイの分布調査

徳島県のヒラズゲンセイの分布調査を行った。17年度も新たに2カ所で発生を確認できたが、昨年度と同様に発生地や個体数などの公表は行わなかった。

③アサギマダラの移動調査

アサギマダラの移動に関する標識再捕法による調査を17年度も継続した。春の記録は得られなかったが、秋の移動記録は非常に多く得られた。特に明神山から鹿児島県の南西諸島の喜界島や小宝島への記録や、沖縄県与那国島への約1600kmの長距離移動が確認されたことは特筆すべき記録となった。

佐藤陽一（動物・脊椎動物）

①那賀川における回遊型カジカの保全に関する研究
徳島大学工学部建設工学科との共同研究。

②矢作川河口周辺海域における仔アユの分布要因に関する研究

豊田市矢作川研究所の山本敏哉との共同研究。
データ解析を担当した。

③ナガレホトケドジョウの生息環境に関する研究

復建調査設計株式会社の若宮慎二氏との共同研究。
データ解析を担当した。

田辺 力（動物・無脊椎動物）

①県産無脊椎動物相の調査

鳴門市及び徳島市にて海産及び汽水産無脊椎動物相の調査を行った。

②ババヤステ属の種分化及び形態進化についての研究を進めた（曾田貞滋氏らと共同）。

小川 誠（植物）

①藍住町の植物相調査

平成17年度阿波学会の調査の一環として、藍住町の植物相調査を行った（木下 覚氏と共同）。

②ヨモギ属の分布調査

日本産ヨモギ属の分化と分布の現状を探るため、石川県での分布調査を行った。

③インターネットでの情報公開に関する研究

インターネットで高精度画像を公開する方法について検討した。

④県内産絶滅危惧種の保全に関する調査

徳島県内の湿地生絶滅危惧植物の分布調査を行い、ポテンシャルハビタットマップを作成した(徳島大学大学院工学研究科エコシステム専攻との共同)。

茨木 靖 (植物)

①県産植物相の調査

徳島市を中心に、徳島県の植物相の調査を行った。

②ススキ属他イネ科植物の比較研究

国内外各地のイネ科植物について、その異同、分布などに関する調査を行い成果を報告した。

③県内における海流種子等の漂着状況を調査し、報告した(池淵正明氏と共同)。

両角芳郎 (地学)

①日本の上部白亜系の化石層序に関する研究

阿讃山地の和泉層群から産出するノストセラス科アンモナイトの分類学的検討を行った。

中尾賢一 (地学)

①浅海成鮮新統～更新統の堆積環境と貝化石相の調査

高知県と長崎県で堆積構造の観察と貝化石の採集を行った。高知県では、貝化石の分類学的検討を行った(高知県分は三本健二氏と共同)。

②藍住町の地形発達史に関する研究

平成17年度阿波学会の調査の一環として、藍住町地域の地形発達史に関する研究を行った(西山賢一氏らと共同)。

③国会議事堂に使われた内装用石灰岩の調査

国会議事堂の石材調査(東京都永田町)を行った(石田啓祐氏らと共同)。

④日本産アワジチヒロ属二枚貝の系統と分類に関する研究

各地から産出するアワジチヒロ属化石の計測を行った(横川浩治氏と共同)。

辻野泰之 (地学)

①上部白亜系の軟体動物化石に関する研究

異常巻きアンモナイト：バキュリテス類の分類の検討を行った。

②アンモナイト類の気室一連室細管系破損に対する生体反応様式に関する研究

笹川科学研究助成を受けて、アンモナイト類の気室一連室細管系破損に対する生体反応様式の解明を行った。

③上部ジュラ系坂州層群栗坂層に関する研究

那賀町に分布する上部ジュラ系坂州層群栗坂層から産出する動物化石や堆積相の調査を行った(佐藤正氏らと共同)。

高島芳弘 (考古)

①石井町前山古墳群の報告書作成に向けた調査

発掘調査時に作成した図面類の整理と20m前後の小さな前方後円墳の類例を調査した。

②那賀川流域で採集した石器類の集成。

③若杉山遺跡を中心とする徳島県における朱採掘遺跡の確認調査。

魚島純一 (保存科学・考古)

①臭化メチル燻蒸に替わる燻蒸法の研究

昨年までの実験を引き継ぎ、小型の窒素発生装置を使った中型資料までの低酸素濃度処理法による殺虫処理を行った。また、大型資料に応用可能であると思われる大型の窒素発生装置の有効性を確認するための実験を行った。

②展示室内等における害虫の生息調査

昨年に引き続き、展示室内等での害虫の生息調査を実施し、どの時期にどの場所でどのような害虫が捕獲できるかを調査した。今後も継続して行い、害虫被害の防除に役立てる予定である。

③鳥居記念博物館の資料保存環境の調査

鳴門市にある徳島県立鳥居記念博物館において、適切な保存環境づくりのための基礎資料とするために、収蔵庫や展示室などの温湿度環境の調査を行った。

④外部依頼による調査、保存処理等

・徳島市教育委員会、海部町教育委員会、高松市教育委員会、高知県埋蔵文化財センター、愛媛県埋蔵文化財調査センターなどの依頼を受け、出土文化財の蛍光 X 線分析による材質調査を行った。

・徳島市教育委員会の依頼を受け、出土文化財の X 線透過撮影を行った。

・つるぎ町の依頼を受け、棟札の赤外線 TV カメラでの調査を行った。

・つるぎ町教育委員会(旧貞光町教育委員会)の依頼を受けて行っていた江ノ脇古墳出土金属製品の保存処理を完了した。

●徳島県危機管理局・消防防災航空隊の協力を得て、徳島県内の遺跡等の空撮を行った。(8月3日)

山川浩實 (歴史)

①蜂須賀家の御家騒動の調査

蜂須賀家における最大の御家騒動について、当館所蔵の史料から御家騒動の実態を調査した。

②近世地主の経営に関する調査

板野郡大代村の豪農岡家の経営について、当館所蔵の岡家文書をもとに、小作経営や醸造業などから近世地主の経営について調査した。

長谷川賢二（歴史）

①熊野信仰史に関する調査

旧木沢村の熊野権現縁起の成立に関連する文献調査を行ったほか、鎌倉期の熊野信仰と四国辺路に関する資料の所在調査・検討を行った。

②中世期書写大般若経の調査

香川県東かがわ市の若王寺所蔵大般若経の調査を行い、修験道や阿波に関係する記載について検討した。

③利用効果の検証を含めた博物館評価のあり方の検討
文化庁芸術拠点形成事業「元気な博物館づくりプロジェクト」の一環として、博物館の利用効果の検証を中心に、アンケート調査の実施・分析を行い、利用の質的側面からの評価のあり方を検討した。

庄武憲子（民俗）

①岡田式渡船に関する資料の整理

特別陳列「失われた交通路 吉野川の渡し」を開催するにあたって、保存されている岡田式渡船の分権契約書等の資料の整理を行った。

②徳島県内の八朔行事に関する資料の収集と整理

宍喰で行われている八朔の雛祭り習俗の特異性を検討するために、県内の八朔行事の事例を収集、整理し比較した。

③海部地方における年棚・盆棚習俗の事例収集と整理
海部という地域において、年中行事の中心である正月と盆のまつり場、年棚と盆棚の事例に地域の特徴が見られるか確認することを目的に、これまで報告されてきた事例の収集、整理を行った。

磯本宏紀（民俗）

①潜水漁及び漁村構造に関する研究

県南部の漁村を中心に展開される潜水漁について、その環境利用、労働慣行、生業の複合性に関する調査を継続中である。漁村における生業選択の論理探り、近代における移住や出稼ぎから生じた労働慣行について検討した。

②伊島潜水漁民の出稼ぎ・移住に関する民俗学的研究
阿南市伊島からの近代以降の出稼ぎ・移住に関する調査を行った。器械潜水漁を生業とすることによって生じた出稼ぎ移住の実態と、それにともなった文化伝播の痕跡を明らかにすることを目的として検討した。

③唐竿の地域差に関する調査

藍住町における唐竿の形態、材質、使用形態などの特質について調査した。また、これらのデータをもとに地域差についての検討も行った。なおこれらのデータは、県内を含む四国唐竿調査の一部をなすものである。

大橋俊雄（美術工芸）

①県下所在美術工芸品の調査

②須木一胤資料の調査

徳島師範学校教師であった須木一胤の業績を調べ、遺品を整理調査した。

③飯塚桃葉の研究

阿波藩御用蒔絵師飯塚桃葉について、最新の研究動向をふまえつつ伝記と作品の調査研究を行った。

3. 科学研究費補助金等による研究

●若手研究(B)：伊島潜水漁民の出稼ぎ・移住に関する民俗学的研究（平成17年度～19年度）

研究代表者：磯本宏紀

●笹川科学研究助成：アンモナイト類の気室一連室細管系破損に対する生体反応様式の解明

研究代表者：辻野泰之

4. 他機関との共同研究

●日本博物館協会・常盤大学大学院「博物館の業務改善・経営改革に資する自己点検の支援方法に関する調査研究」プロジェクト（平成16～17年度）

研究代表者：水嶋英治（常盤大学教授）

当館の研究分担者：長谷川賢二

●若王寺所蔵大般若波羅多経調査会「財団法人赤澤記念財団奨励助成 若王寺所蔵大般若波羅多経調査」（平成17～18年度）

研究代表者：山西 仁（東かがわ市文化財保護審議会副会長）

当館の研究分担者：長谷川賢二

5. 研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第16号

2006年3月31日発行、B5判164ページ、900部

（*は館外研究者）

三本健二*・中尾賢一：高知県の鮮新統唐ノ浜層群穴内層から新たに確認された貝類化石(2). p. 1-14.

清水孝昭*：愛媛県伊予灘島嶼部沿岸域より得られた魚類. p. 15-64.

清水孝昭*・高橋弘明*・渋谷雅紀*：愛媛県西条市の淡水魚類. p. 65-114.

小川誠・田渕武樹*：徳島県産植物ノート(2)ー徳島県新産4種ー. p. 115-120.

大原賢二：アサギマダラの移動に関する徳島県の記録(2005年). p. 121-155.

茨木 靖・佐治まゆみ*・成田愛治*：徳島県から新たに発見された帰化植物アメリカカニツリ *Danthonia spicata* (L.) P. Beauv. ex Roem. & Schult. (イネ科). p. 157-158.

魚島純一：徳島県立鳥居記念博物館の展示室および収蔵庫における温湿度変化—空調設備のない博物館施設における湿度制御の可能性について— p. 159-164.

(2) 公表論文・報告・記事等一覧(*印:館外研究者)

●動物

〈論文・調査報告〉(☆:査読付学術雑誌)

☆Dusek-Soo Choi*, Kenji Ôara and Ho-Yeon Han* (2006). Taxonomic notes on the *Volucella pellucens* species group (Diptera: Syrphidae) with a description of one species from the Eastern Palaearctic. *Zootaxa*, (1185) : 1-19.

大原賢二 (2006.3). アサギマダラの移動に関する徳島の記録 (2005年). 徳島県立博物館研究報告, (16) : 121-155.

☆Shelley*, R. M., C. T. McAllister*, T. Tanabe (2005. 12) A synopsis of the milliped genus *Brachycybe* Wood, 1864 (Platydesmida: Andrognathidae). *Fragmenta Faunistica*, 48(2) : 137-166.

Sato, Y. and T. Okabe. 2005. 05. Influences of benthic fine particulate matter on stream fishes. The 7th Indo-Pacific Fish Conference Abstract Book : 196.

Tashiro, Y., Y. Kozuki, Y. Sato, M. Okubo and H. Murakami. 2005. 07. Influence of connectivity of irrigation canal with a river on fish community in a suburban area. 3rd annual Joint Seminar between Japan and Korea on Ecology and Civil Engineering annexed to Workshop on International Network for River Restoration (Nagoya University) : 35-40.

☆田代優秋・上月康則・佐藤陽一・大久保美知子・村上仁士. 2006. 都市近郊農業水路の魚類群集に及ぼす水路構造と河川との連続性の影響. 水工学論文集, 50 : 1219-1224.

〈普及的記事〉

大原賢二 (2005.6) キュウシュウエゾゼミ. 徳島県立博物館ニュース (館蔵品紹介), (59) : 4.

大原賢二 (2005.9)「似ている?似ていない?」擬態はどこまで効くか. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club). (60) : 2-3.

佐藤陽一. 2005.05. さかな博士の吉野川魚図鑑 連

載 第13回:カワバタモロコ. 四国三郎吉野川, 19 : 5.

佐藤陽一. 2005.07. さかな博士の吉野川魚図鑑 連載 第14回:ボウズハゼ. 四国三郎吉野川, 20 : 10.

佐藤陽一. 2005.12. さかな博士の吉野川魚図鑑 連載 第15回:シマドジョウ. 四国三郎吉野川, 21 : 6.

佐藤陽一 (協力). 2005.12. 「さかな博士の川魚かんさつ」に約30名が参加. 時間を忘れて魚を追いかけてました. 四国三郎吉野川, 21 : 6.

佐藤陽一. 2006. 03. 駿河湾での深海魚採集. 研究職評 ニュース, (91) : 1.

田辺 力 (2005.6) クラゲ, サンゴ, イソギンチャクは同じグループなのに形が違って不思議です. 徳島県立博物館ニュース (Q&A), (59) : 7.

●植物

〈論文・調査報告〉(☆:査読付学術雑誌)

茨木 靖:出土植物遺体について. 徳島県教育委員会・徳島大学埋蔵文化財調査室編, 庄 (庄・蔵本) 遺跡—徳島大学蔵本団地体育館建設に伴う発掘調査報告書—, p. 41-43.

☆茨木 靖・木場英久* (2005.10) 日本新産帰化植物イネ科ヒツパリガヤ. 植物研究雑誌. 80(4) : 250-251.
池淵正明*・茨木靖 (2005.12) 徳島県由岐町鹿ノ首岬東浜へ漂着したプラスチック浮子の季節変化. 漂着物学会誌 3 : 13-17.

Ibaragi, Y. (2006.3). Gramineae. In : N. Tanaka *et al* (eds.) The Flowering plants of Mt. Popa, Central Myanmar. MAKINO A : 83-88.

木下 覚*・茨木 靖・植北ちず子*・小川 誠・片山泰雄*・木村晴夫*・小松研一*・佐治まゆみ*・成田愛治* (2005.3) 木沢村の植物. 阿波学会紀要 第51号 木沢村総合学術調査, 阿波学会 : 37-53.

茨木 靖・佐治まゆみ*・成田愛治* (2006.3). 徳島県から新たに発見された帰化植物アメリカカニツリ *Danthonia spicata* (L.) P. Beauv. ex Roem. & Schult. (イネ科). 徳島県立博物館研究報告, (16) : 157-158.

☆Funamoto T.* & M. Ogawa (2004). A comparative study in cytological characters of Japanese species of *Leucosceptrum*, Lamiaceae (Labiatae). *Chromosome Science* 8 : 109-113.

小川 誠・田淵武樹* (2006.3). 徳島県産植物ノート (2)—徳島県新産4種—. 徳島県立博物館研究報告, (16) : 115-120.

〈普及的記事〉

小川 誠 (2005.12) ナルトサワギクとヒロハフウリンホオズキ. 博物館ニュース (館蔵品紹介), (61) : 4.

茨木 靖 (2005.6) 標本交換:オレゴンの花がやって

きた。徳島県立博物館ニュース（情報ボックス）、(59)：6.

●地学

〈単行本・図書〉

中尾賢一・石田啓祐* (2005.8)：徳島県の沖積層。日本の地質増補版編集委員会編，日本の地質増補版，p.303.

〈論文・調査報告〉(☆：査読付学術雑誌)

中尾賢一：庄遺跡徳島大学蔵本団地体育館地点から出土した貝類についてのコメント。徳島県教育委員会・徳島大学埋蔵文化財調査室編，庄（庄・蔵本）遺跡－徳島大学蔵本団地体育館建設に伴う発掘調査報告書一，p.38-40.

石田啓祐*・元山茂樹*・吉岡美穂*・岡本治香*・西山賢一*・橋本寿夫*・森江孝志*・中尾賢一・小澤大成*・香西 武*・辻野泰之。徳島県木沢村地域の秩父－黒瀬川帯海底火山噴出物の組成と随伴層の微化石年代。阿波学会紀要，(51)：p.9-16.

石田啓祐*・岡本治香*・吉岡美穂*・辻野泰之・中尾賢一・香西 武*。南部黒瀬川帯の坂州不整合と上部三畳系寒谷層。阿波学会紀要，(51)：p.17-23.

石田啓祐*・岡本治香*・辻野泰之・中尾賢一・香西武*・HIRSCH Francis* (2005.12)：四国東部の南部黒瀬川帯上部三畳系寒谷層と坂州不整合：層序，堆積相，フォーナ。徳島大学総合科学部 自然科学研究 19：19-29.

三本健二*・中尾賢一：高知県の鮮新統唐ノ浜層群穴内層から新たに確認された貝類化石(2)。徳島県立博物館研究報告，(16)：1-14.

〈普及的記事〉

両角芳郎(2005.9)昨年，園瀬川沿いで噴砂が見られたというのはほんとうですか？徳島県立博物館ニュース(Q & A)，(60)：7.

辻野泰之(2005.9)ナノナビス類の化石（白亜紀二枚貝）。徳島県立博物館ニュース(館蔵品紹介)，(60)：4.

●考古

〈論文・調査報告〉(☆：査読付学術雑誌)

魚島純一(2006.3)芝遺跡から出土した遺物に付着した赤色顔料の蛍光X線分析について。芝遺跡 海部小学校体育館・校舎建設に伴う発掘調査報告書，海部町教育委員会：120-121.

魚島純一：徳島県立鳥居記念博物館の展示室および収蔵庫における温湿度変化－空調設備のない博物館施設における湿度制御の可能性について－。徳島県立博物館研究報告，(16)：159-164.

〈普及的記事〉

高島芳弘(2005.5)縄文の美 ①赤漆塗り壺形土器(重

文) 徳島新聞夕刊記事

高島芳弘(2005.5)縄文の美 ②赤漆塗り櫛 徳島新聞夕刊記事

高島芳弘(2005.5)縄文の美 ③遮光器土偶(重文) 徳島新聞夕刊記事

高島芳弘(2005.5)縄文の美 ④石刀 徳島新聞夕刊記事

高島芳弘(2005.5)縄文の美 ⑤腰飾り 徳島新聞夕刊記事

高島芳弘(2005.5)縄文の美 ⑥喜田貞吉と是川遺跡 徳島新聞夕刊記事

高島芳弘(2006.3)加茂谷川沿いの遺跡。徳島県立博物館ニュース(野外博物館)，(62)：4.

魚島純一(2005.6)保存するということ。徳島県立博物館ニュース(Culture Club)，(59)：2-3.

●歴史

〈単行本・図書〉

長谷川賢二(2005.7)水主神社経函の材木。唐木裕志・橋詰 茂編「中世の讃岐」，美巧社：198-199.

〈論文・調査報告〉(☆：査読付学術雑誌)

長谷川賢二(2005.5)四国山系における山地利用の歴史。鎌田磨人編，「二次草地の保全に向けた施策立案のための学際的・保全生態学的研究(平成14年度～平成16年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2)研究成果報告書)」：17-23.

小串重治*・鎌田磨人*・長谷川賢二(2005.5)徳島県東祖谷山村合峠における利用・管理形態の変化とそれに伴う植生の変化。鎌田磨人編，「二次草地の保全に向けた施策立案のための学際的・保全生態学的研究(平成14年度～平成16年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2)研究成果報告書)」：25-43.

長谷川賢二(2005.8)一四世紀の阿波における三宝院流熊野長床衆の痕跡とその周辺－徳島県神山町勧善寺所蔵大般若経巻二〇八奥書をめぐって－。四国中世史研究，(8)：1-18.

長谷川賢二(2006.3)阿波足利氏の守札。朱，(49)：54-66.

長谷川賢二(2006.3)第1章 元気な博物館づくりプロジェクトの経過；第2章 アンケート調査から見た徳島県立博物館の意義と課題。元気な博物館づくりプロジェクト実行委員会編，「元気な博物館づくりプロジェクト－親しまれる博物館を目指す評価手法の開発－報告書」，元気な博物館づくりプロジェクト実行委員会：9-20，21-96.

〈普及的記事〉

山川浩實(2005.9)焼け野原の徳島市街。徳島県立博物館ニュース(情報ボックス)，(60)：6.

山川浩實 (2006.3) 蜂須賀家のお家騒動. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (62): 2-3.

長谷川賢二 (2005.4) 江戸時代に大衆化した四国八十八カ所巡り. 日経マスタース, (34): 42-43.

長谷川賢二 (2005.4) 徳島水平社創立八〇周年記念展を終えて. (財)徳島県同和対策推進会編, 「人権問題テキスト 展望2005年度」, (財)徳島県同和対策推進会: 18-24.

長谷川賢二 (2005.11) 紙碑 小山靖憲先生を偲んで. 山岳修験, (36): 94.

長谷川賢二 (2005.12) 南北朝時代の写経と山伏—神山町勧善寺所蔵大般若経を例として—. 博物館ニュース (Culture Club), (61): 2-3.

●民俗

〈単行本・図書〉

庄武憲子 (2006.3) 図版解説 動物を描いた小絵馬, (財)徳島県文化振興財団徳島県郷土文化会館民俗文化財編集委員会編「民俗文化財集 第20集—館蔵品—石井真之助小絵馬コレクション」, (財)徳島県文化振興財団徳島県郷土文化会館: 129-133.

〈論文・調査報告〉 (☆: 査読付学術雑誌)

庄武憲子 (2006.3) 海部地方の年棚と盆棚—特集「海部地方の民俗」にむけて. 徳島地域文化研究(4), 徳島地域文化研究会: 74-83.

磯本宏紀 (2005.10) 季節労務と器械潜水漁—徳島県伊島からの出稼ぎ. 四国民俗, (38), 四国民俗学会: 10-35.

磯本宏紀 (2006.3) 漁場選択・漁法選択の論理から—伊島・出羽島における里海利用. 徳島地域文化研究, (4), 徳島地域文化研究会: 19-36.

〈普及的記事〉

庄武憲子 (2006.3) 新刊紹介 阿南市女性ボランティア文化財愛護コース『ふるさと阿南 むかしばなし』. 徳島地域文化研究(4), 徳島地域文化研究会: 129-130.

磯本宏紀 (2005.7) 第5番札所 無尽山地蔵寺; 第6番札所 温泉山安楽寺; 第7番札所 光明山十楽寺; 第8番札所 普明山熊谷寺; 第23番札所 医王山薬王寺. 郵趣サービス社編, 「四国八十八ヶ所の文化財遺産シリーズ切手コレクション」第2集, 郵趣サービス社.

磯本宏紀 (2005.12) 阿波踊りはもともと, 死者の霊を慰めるための踊りだと聞いたことがありますが…県内にはほかにどんな盆踊りがありますか? 博物館ニュース (Q & A), (61): 7.

●美術・工芸

〈普及的記事〉

大橋俊雄 (2005.12) 須木一胤の資料が寄贈されました. 博物館ニュース (情報ボックス), (61): 6.

(4) 学会・研究会等での発表 (*印: 館外研究者)

市川俊英*・大原賢二 (2005.07) 落葉性コナラ属植物の樹液・樹洞を利用するハナアブ類について. 日本昆虫学会四国支部第44回大会 (徳島).

大原賢二 (2005.09) 徳島県における指定管理者制度の考え方. 日本昆虫学会第65回大会, 小集会 (昆虫担当学芸員協議会) (岡山).

Sato, Y. and T. Okabe*. 2005.05. Influences of benthic fine particulate matter on stream fishes. The 7th Indo-Pacific Fish Conference (Taipei).

Tashiro, Y.*, Y. Kozuki*, Y. Sato, M. Okubo* and H. Murakami*. 2005.07. Influence of connectivity of irrigation canal with a river on fish community in a sub-urban area. 3rd annual Joint Seminar between Japan and Korea on Ecology and Civil Engineering annexed to Workshop on International Network for River Restoration (Nagoya).

唐沢重考*・佐々木健志*・肘井直樹*・B. Frederic*・B. Lucio*・萩野康則*・林 正美*・伊藤良作*・岸本年郎*・中村修美*・布村 昇*・須磨靖彦*・田中真悟*・田辺 力・谷川明男* (2005.5). ヤンバルの森における着生植物オオタニワタリの土壌動物群集Ⅱ. 日本土壌動物学会第28回大会 (名古屋).

田辺 力・曾田貞滋* (2005.6). 交尾器多様化による種分化: ミドリババヤステ種複合体. 日本動物分類学会第41回大会 (徳島).

田辺 力・曾田貞滋* (2005.7). 交尾器多様化による種分化: ミドリババヤステ種複合体. 第115回徳島生物学会公開シンポジウム (徳島).

田辺 力・曾田貞滋* (2005.8). 交尾器多様化による種分化: ミドリババヤステ種複合体. 第7回日本進化学会大会ワークショップ「交配形質の進化と種分化」(仙台).

田辺 力・曾田貞滋* (2005.9). ヤステにおける交尾器の鍵と鍵穴. 日本昆虫学会第65回大会 (岡山).

小川 誠 (2005.11) 徳島県産植物に関する2~3の新知見 その3. 四国植物研究会 (高知).

Harada, E.*, M. Ogawa, M. Kamada* & M. Mitsuhashi*. 2006.3. Mapping potential habitats of rare hygrophyte species for conservation planning in rural regions. The Second Scientific Congress of East Asian Federation of Ecological Societies (Niigata).

- 中尾賢一 (2005.4) 潮汐堆積物主体の堆積サイクルと貝化石群－更新統北有馬層 (長崎県) の例－. 日本堆積学会2005年例会 (福岡).
- 中尾賢一 (2005.11) 更新世前期と完新世の干潟～内湾棲貝類群集の比較－下部更新統加津佐層 (長崎県) を例にして－. 熊本地学会平成16年度総会 (熊本).
- 石田啓介*・岡本治香*・辻野泰之・中尾賢一・香西武*・Francis Hirsch* (2005.9) 南部黒瀬川帯の上部三畳系寒谷層と坂州不整合. 日本地質学会第112年学術大会 (京都).
- 魚島純一 (2006.3) 中四国地域の文化財保存ネットワークの現状と課題. 中四国九州保存修復研究会 (福岡)
- 長谷川賢二 (2005.6) 指定管理者制度との向き合い方. 徳島博物館研究会例会 (徳島).
- 長谷川賢二 (2005.12) 天正の法華騒動と三好長治. 阿波郷土史会例会 (徳島).
- 長谷川賢二 (2006.2) アンケート調査に見る博物館の意義と課題. 徳島博物館研究会例会 (徳島).
- 庄武憲子 (2005.4) 徳島県内の「数ヶ寺詣」について. 徳島民俗学会例会 (徳島).
- 庄武憲子 (2005.7) 八朔－徳島県の事例報告－. 四国民俗学会研究発表会 (徳島).
- 磯本宏紀 (2005.4) 鉄条打撃部をもつカラサオの受容. 四国民具研究会例会 (池田).

Ⅲ 展示

博物館での展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然、歴史、文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的なかかわりについても理解できるよう、様々なテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行っているが、開館15周年が過ぎても基本的な展示の構成は開館以来変わっていないことから、常設展の更新（リニューアル）が大きな課題となっている。しかし、厳しい財政状況のもとで、事業化のめどは立っていない。

企画展は、専用の企画展示室を使って年3回行うことにしている。各分野・分類群の館蔵コレクションの紹介、学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や歴史・文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がり資料の展示など様々なテーマをおりませ、2、3年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組んでいる。しかしながら、年々企画展予算が削減され、規模の大きな企画展の開催は難しくなっている。

1. 常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示およびプラタ記念ホールの展示の3つから構成されている。

●総合展示

「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の7つの大テーマにそって展示が展開されている。

1. 日本列島と四国のおいたち
2. 狩人たちの足跡
3. ムラからクニへ
4. 古代・中世の阿波
5. 藩政のもとで
6. 近代の徳島
7. 徳島の自然とくらし

●部門展示

総合展示とはちがった角度から、分野ごとの個別的、分類的な展示を行っている。

人文：焼物のうつりかわり／阿波の美術工芸／徳島の歴史・民俗資料 など

自然：いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生

物の生活と自然のしくみ など

●ラプラタ記念ホールの展示

アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された南アメリカ特有の更新世哺乳動物化石を展示している。

主な展示資料：

- メガテリウム全身骨格（レプリカ）
- パノクツス全身骨格及び甲羅
- マクラウケニア全身骨格（レプリカ）
- トクソドン全身骨格（レプリカ）
- スミロドン全身骨格（レプリカ）
- ヒッピディオオン全身骨格（レプリカ）
- ステゴマストドン頭骨（レプリカ）

(2) 部門展示の展示替え

部門展示（人文）では、テーマを決めて随時展示替えをしている。平成17年度は次の展示を行った。

●島のくらし

前年度～4月17日（火）

伊島・出羽島のくらしを民具と写真により紹介した。

●谷田蒔絵—はなやかな草花のデザイナー—

前年度～4月17日（火）

徳島独特の漆器である谷田蒔絵を、館蔵品によって紹介した。

●徳島城下町

4月19日（火）～6月19日（日）

徳島城下町絵図や錦絵版画などから、徳島城下町の構成や拡大の様子を紹介した。

●阿波忌部の世界

6月21日（火）～8月21日（日）

阿波忌部の実像と歴史について、考古・歴史資料によって紹介した。

●旅行みやげ—土鈴・郷土玩具—

8月23日（火）～10月30日（日）

故久米惣七氏のコレクションを中心に、全国各地の特色ある土鈴や郷土玩具を展示した。併せて、全国各地の銘菓の由来を、菓子箱・包装紙などにより紹介した。

●博物館の誕生

11月1日（火）～1月15日（日）

徳島県博物館の設立（1959年）を中心に、戦前から戦後までの徳島の博物館史について紹介した。

徳島県立博物館・2005年度年間展示予定
変わる展示室①～4-9月展示替えのご案内～

企画展	部門展示(人文)
4月 企画展 縄文の美 —亀ヶ岡文化の世界— 4/26(火)～5/29(日)	徳島城下町 4/19(火)～6/19(日) 
5月  国指定重要文化財 遮光器土偶 (亀ヶ岡遺跡) 東京国立博物館蔵	阿波忌部の世界 6/21(火)～8/21(日) 
6月 常設展示室内ラプラタ記念ホールでは、新着資料など展示中！ 随時展示替えをさせていただきます！	旅行みやげ —土鈴・郷土玩具— 8/23(火)～10/30(日) 
7月 企画展 絶滅 —生き物はなぜ滅びるのか— 7/22(金)～8/31(水)	
8月 	
9月 徳島県内で58年ぶりに生息が確認されたカワバタモロコ	

※部門展示(人文)の通年展示
 「豊田コレクションの庸八焼」「鳴門の塩田資料」
 ※展示期間、テーマは変更になることもあります。
 ※企画展・部門展示とも観覧料が必要です。

文化の森総合公園
徳島県立博物館
 〒770-8070 徳島市八万町向香山
 TEL:089-668-8636, FAX:089-668-7197
 http://www.museum.comet.go.jp/

場 所: 博物館1階企画展示室・2階常設展示室内
 時 間: 9:30～17:00
 月曜休館(月曜が祝日・振替休日の場合はその翌日が休館)
 観覧料: 一般200円、高校・大学生100円、小・中学生50円
 (割引・減免の規定があります)

徳島県立博物館・2005年度年間展示予定
変わる展示室②～10-3月展示替えのご案内～

企画展・特別陳列	部門展示(人文)
10月 企画展 文化の森開園15周年記念 ふるさと再発見 —15の人・もの・場所— 10/22(土)～11/27(日)	博物館の誕生 11/1(火)～1/15(日) 
11月 常設展示室内ラプラタ記念ホールでは、新着資料など展示中！ 随時展示替えをさせていただきます！	複製資料・復元資料 1/17(火)～4/9(日) 
12月 思い出のランドマーク 	出羽島写真展 1/17(火)～4/9(日) 
1月 特別陳列 トクシマ —木工芸の道具と技— 1/8(日)～1/29(日) 観覧無料	
2月 特別陳列 吉野川の渡し 2/18(土)～3/19(日) 観覧無料	
3月 岩津の渡し跡(阿波市岩津)	

※部門展示(人文)の通年展示
 「豊田コレクションの庸八焼」「近世の焼物」「鳴門の塩田資料」
 ※展示期間、テーマは変更になることもあります。
 ※トクシマ、吉野川の渡し以外は観覧料が必要です。

文化の森総合公園
徳島県立博物館
 〒770-8070 徳島市八万町向香山
 TEL:089-668-8636, FAX:089-668-7197
 http://www.museum.comet.go.jp/

場 所: 博物館1階企画展示室・2階常設展示室内
 時 間: 9:30～17:00
 月曜休館(月曜が祝日・振替休日の場合はその翌日が休館)
 観覧料: 一般200円、高校・大学生100円、小・中学生50円
 (割引・減免の規定があります)

企画展・部門展展示替え案内チラシ

●複製資料・復元資料

1月17日(火)～4月9日(日)

レプリカなどの複製資料や、元の状態を再現した復元資料が持っている役割を紹介した。

●出羽島写真展—写された島のくらし—

1月17日(火)～4月9日(日)

昭和20年代後半から約20年間にわたって出羽島で生活したアマチュアカメラマンによって撮影された写真を中心に、島の生活誌を紹介した。

(3) トピック展示

未公開資料の活用を中心として、常設展に変化をつけるため、ラプラタ記念ホール出口に展示ケースを設置して小展示を行っている。平成17年度は次の展示を行った。

●森のツキノワグマ

前年度～4月3日(日)

ツキノワグマの生態について紹介した。

●新収蔵資料紹介

4月5日(火)～5月15日(日)

平成16年度に歴史・民俗分野で新たに収蔵した資料を紹介した。

●きみは万博(ばんぱく/EXPO)を見たか

5月17日(火)～9月25日(日)

愛知万博の開催にちなみ、大阪万博(1970年)の関連資料を展示した。

●北アメリカの植物—オレゴン州立大学との標本交換から—

9月27日(火)～11月27日(日)

オレゴン州立大学との交換によって収蔵した植物標本を紹介した。

●雑草や木から作った紙

11月29日(火)～1月29日(日)

身近な植物から紙を作る方法と、いろいろな植物から作った紙を紹介した。

●御鷹狩図

1月31日(火)～2月26日(日)

幕末期の徳島藩主による鷹狩を描いた絵巻物を展示した。

●朱の精製の広がり

3月4日(土)～5月14日(日)

由岐水銀鉱山丹波坑口付近から採集した石杵を中心として、水銀の採掘・精製遺跡の分布調査の成果の一部を紹介した。

2. 企画展

平成17年度は、次の3回の企画展を行った。

(1) 第1回企画展「縄文の美—亀ヶ岡文化の世界—」

この企画展では、亀ヶ岡文化の中心地と考えられている東北地方北部の馬淵川、岩木川流域の資料を中心に、亀ヶ岡式土器や漆製品、骨角器と遮光器土偶などのまじないの道具などを展示した。あわせて、徳島県出身の歴史学者喜田貞吉と亀ヶ岡文化とのかかわりについても紹介した。

なお、文化庁の出品勧告を受け、重要文化財8件74点が出品された。

- 主催 徳島県立博物館・文化庁
- 期間 平成17年4月26日(火)～5月29日(日)
(34日間)
- 会場 博物館企画展示室
- 展示構成と主な展示資料

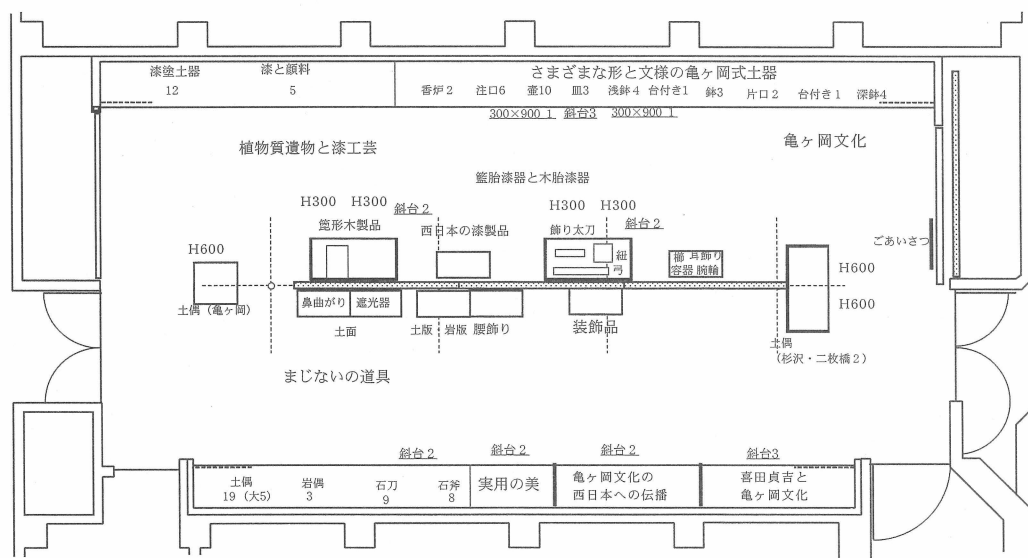
① 亀ヶ岡文化

- ・ 様々な形と文様の亀ヶ岡式土器：是川遺跡出土の亀ヶ岡式土器
- ・ 植物質遺物と漆工芸：是川遺跡出土の赤漆塗り飾り太刀・弓、漆と顔料、漆塗土器、籃胎漆器と木胎漆器、西日本の漆製品、篋形木製品
- ・ まじないの道具：亀ヶ岡遺跡出土の遮光器土偶、二枚橋(2)遺跡出土の土面・石刀、土偶・岩偶、土版・岩版、土面、石刀、腰飾り
- ・ 装飾品：朝日山(1)遺跡出土のひすいなどの勾玉、沼津貝塚出土の骨角製装飾品
- ・ 実用の美：今津遺跡出土の石鏃



「縄文の美」展チラシ

- ② 亀ヶ岡文化の西日本への伝播：檀原遺跡出土の亀ヶ岡式土器・遮光器土偶
- ③ 喜田貞吉と亀ヶ岡文化：日本石器時代 植物性遺物 図録
- 展示資料点数 合計241点(うち重要文化財8件74点)
- 観覧料 一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円
- 期間中の観覧者数 6,259人



「縄文の美」展示室配置図



「縄文の美」展示解説風景

●企画展関連行事

- ①展示解説（各日とも14：00～15：00）
 - 第1回：5月1日（日） 参加者52人
 - 第2回：5月15日（日） 参加者22人
- ②土偶スケッチ（各日とも10：00～16：00）
 - 第1回：5月1日（日） 参加者98人
 - 第2回：5月15日（日） 参加者184人
- ③記念講演会
 - 日時：5月8日（日）13：30～15：00
 - 講師：岡田康博氏（文化庁記念物課調査官）
 - 演題：『亀が岡文化の成立—三内丸山からは是川中居へ—』
 - 参加者：131人
- ④土製耳飾りをつくろう
 - 日時：5月29日（日）13：30～16：00
 - 参加者：15人

(2) 第2回企画展「絶滅」

絶滅の原因は様々であり、地質時代に起こった大規模な火山噴火や隕石の衝突に伴う環境の激変といった天変地異だけでなく、もっと小規模で緩やかな環境の変化や生物どうしの関係の変化によっても起こる。人類が誕生してからは、とりわけ他の生物に対する影響が大きく、多くの生物を絶滅させてきたと考えられる。その傾向は時代を経るに従ってますます強まり、現在では世界規模での対策が求められるようになってきた。この企画展では、地質時代の絶滅から現代の絶滅までを広く見渡すと共に、現在絶滅の危機にさらされているレッドデータ生物を多く取り上げ、生物の絶滅について考える機会を提供した。

- 期間 平成17年7月22日（金）～8月31日（水）
- 会場 博物館企画展示室

●展示構成

- ①絶滅とは？：ウシなど脊椎動物骨格標本（当館蔵）
- ②地質時代の絶滅：パラサウロロフス（愛媛県立総合科学博物館）、マンモスの牙、三葉虫ほか（当館蔵）
- ③生きた化石：オウムガイ、カブトガニほか（当館蔵）
- ④絶滅のおそれのある生きものたち：オニバス（宮崎県立総合博物館）、トキ、コウノトリ、ニホンカワウソ、カワバタモロコ（当館蔵）ほか
- ⑤野生生物を絶滅から救う：オオフウチョウ、アライグマほか（当館蔵）
- ⑥その他：お絵かきコーナー、らくがきコーナー

生きものはなぜ滅びるのか？

絶

▲コノトリ 1971年野生絶滅 繁殖地（日本産）

▲ニホンカワウソ 絶滅危惧I種（国産）

滅

▲オウゴンガメ 絶滅危惧II種（国産）

▲クワガタ 絶滅危惧II種（国産）

▲トキ 2003年絶滅（日本産）

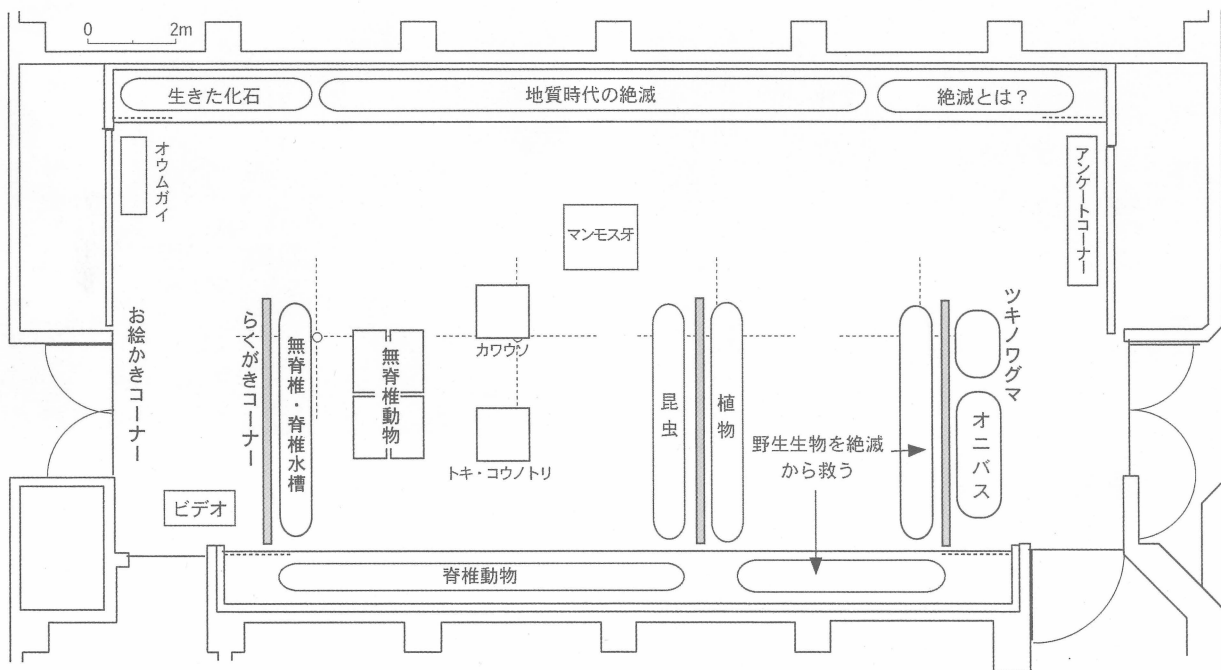
開催期間 7月24・31日(日)14:00～14:00
 観覧券アムトップ『滅びゆく動物たち』
 8月27日(土)13:30～15:00
 会場：文化庁 一宮地蔵堂博物館
 会場：博物館5階（貸受室）（入場無料）

企画展
 2005.7.22(金)～8.31(水)

文化の森総合公園
徳島県立博物館
 〒770-8070 徳島市八万町向寺山
 TEL 088-668-3636
 http://www.museum.comet.go.jp/

●開館時間：午前9時30分～午後5時
 ●休館日：7月25日(月)、8月1、8、22、29日(月)
 ●観覧料：一般200円(160円)/大学生100円(80円)
 高校生以下は無料(夏休み期間)
 () 内は20名以上の団体

「絶滅」展チラシ



「絶滅」展配置図

- 展示資料点数 合計289点
- 観覧料 一般200円／大学生100円／
高校生以下無料（夏休み期間）
- 期間中の観覧者数 9,140人
- 企画展関連行事

①企画展示解説

7月24日（日）14：00～14：30
7月31日（日）14：00～14：30

②ミュージアムトーク「滅びゆく魚たち」

8月27日（土）13：30～15：00
講師：佐藤陽一（徳島県立博物館）
会場：博物館講座室（入場無料）

(3) 第3回企画展（文化の森開園15周年記念）「ふるさと再発見—15の人・もの・場所」

この企画展では、文化の森開園15周年を記念して、図書館、博物館、近代美術館、文書館、21世紀館の5館が共催で、ふるさと徳島にゆかりの深い、15の人・もの・場所を取り上げ紹介した。

あわせて、文化の森5館の15年間のあゆみを出版物や展覧会ポスターなどで紹介した。

●期間 平成17年10月22日（土）～11月27日（日）
（36日間）

●会場 博物館企画展示室・21世紀館多目的活動室・近代美術館ギャラリー



「絶滅」展、展示室風景

文化の森開園15周年記念企画展

ふるさと再発見

—15の人・もの・場所—

人	もの	場所
蜂須賀正氏	太布織り	吉野川
中川虎之助	南海地震	鳴門
モラエス	農村舞台	眉山
岡本韋庵	四国遍路	離島
酒井弥蔵	郷土料理・菓子	思い出のランドマーク

観覧料
 一般：200円
 高校・大学生：100円
 小・中学生：50円

2005
10.22(土)~11.27(日)
 9:30~17:00 ※月曜日休館
 博物館企画展示室・21世紀館多目的活動室・近代美術館ギャラリー

徳島県立図書館・博物館・近代美術館・文書館・21世紀館
 〒770-8070 徳島市八万町向寺山 TEL 088-668-3636 (博物館) <http://www.museum.comet.go.jp/>

「ふるさと再発見」展チラシ

●展示構成と主な展示資料

①ふるさと再発見—15の人・もの・場所—

<人>

- ・蜂須賀正氏 (絶滅鳥ドードーに関する資料)
- ・中川虎之助 (砂糖づくり関係資料、国会における鳴門架橋建議案)
- ・モラエス (初版本)
- ・岡本韋庵 (自筆原稿)
- ・酒井弥蔵 (江戸時代の旅行・芝居に関する資料)

<もの>

- ・太布織り (全国唯一の伝統技法のすべて、実演あり)
- ・南海地震 (飯原和夫作絵本『シロのないた海』の原画)
- ・農村舞台
- ・四国遍路
- ・郷土料理・菓子

<場所>

- ・吉野川 (江戸時代の絵図、吉野川に架かる橋の写真パネル)
- ・鳴門 (消された地図)
- ・眉山



オープニング記念 三番叟

・離島

- ・思い出のランドマーク (一般から募集した15年以上前の写真)

②文化の森5館の15年間のあゆみ

文化の森5館の15年間の出版物、企画展ポスターなど

- 展示資料点数 650点 (一般公募写真「思い出のランドマーク」展示は260枚)

- 観覧料 一般200円/高校・大学生100円/小・中学生50円

- 期間中の観覧者数 3,045人

●企画展関連行事

①オープニング記念 三番叟

日時：10月22日(土) 午前9時30分~9時45分
 会場：文化の森3館棟エントランスホール
 出演：川内北小学校人形浄瑠璃クラブ・平成座
 参加者：86人

②記念講演会

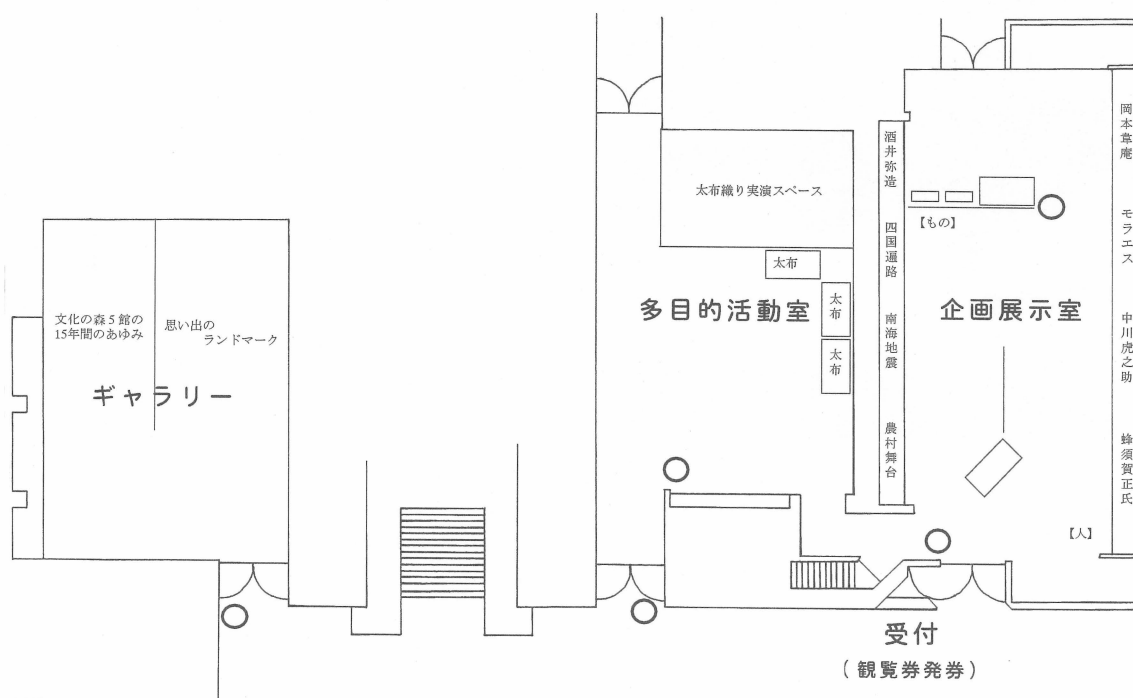
日時：10月23日(日) 午後1時30分~3時
 講師：瀬戸内寂聴氏(作家・徳島県立文学書道館長)
 演題：「若者と四国遍路」
 会場：文化の森・野外劇場
 参加者：500人

③徳島ゆかりの民謡大会

日時：10月30日(日) 午前10時30分~
 会場：文化の森・21世紀館イベントホール
 参加者：247人

④太布織り実演

日時：11月4日(金) 午前10時~午後5時
 11月5日(土) 午前10時~午後3時
 会場：企画展会場内
 実演者：木頭太布庵メンバー
 参加者：11月4日 223人、11月5日 51人



「ふるさと再発見」展配置図

⑤映画上映会

日時：11月12日（土） 午後2時～3時45分
 題目：「鳴門秘帖」（長谷川一夫主演、衣笠貞之助監督、大映1957年）
 会場：文化の森・21世紀館イベントホール
 参加者：183人

●展示資料（写真）の一般募集

この企画展では、15のテーマのうちの1つである「思い出のランドマーク」のコーナーに展示する15年以上前に撮影された写真で、今は見られなくなってしまったなつかしい風景や建物などが写ったものを一般から募集し、パネルにして展示する試みを実施した。

応募期間は平成17年4月15日から6月30日までで、39件約500点の応募があった。

●主な展示資料

- <職人大寺喜好氏のこと>
 - 削り台
 - 鏡台の飾り彫刻制作用の木型
- <木工芸の道具>
 - 前挽鋸、胴付鋸、平鉋、外丸鉋、内丸鉋、面取鉋、中薄鑿、壺丸鑿、裏丸鑿

3. 特別陳列

(1) トクシマ・木工芸の道具と技

平成16年度に寄贈を受けた木工職人の故大寺喜好氏の道具と平成16年度に収蔵した唐木仏壇彫刻制作に関係する資料を展示し、徳島の主な産業のひとつである木工の一端を紹介した。

- 会期 平成18年1月8日（日）～1月29日（日）
 （19日間）
- 会場 博物館企画展示室



「トクシマ・木工芸の道具と技」展チラシ



「トクシマ・木工芸の道具と技」展示室風景

＜唐木仏壇の彫刻＞

唐木仏壇彫刻型紙
唐木仏壇彫刻

●観覧料 無料

●観覧者数 3,475人

●展示解説

平成18年1月15日（日） 参加者30人

(2) 失われた交通路 吉野川の渡し

平成13～14年度にかけて行われた吉野川渡し研究会による調査の成果を中心に、現在確認されている吉野川の渡し場の紹介と渡船関係資料、昭和初期に架けられた吉野川の橋梁に関する資料を展示した。



「吉野川の渡し」展チラシ

- 主催 吉野川渡し研究会・徳島県立博物館
- 後援 国土交通省徳島河川国道事務所
- 会期 平成18年2月18日（土）～3月19日（日）
（26日間）

●会場 博物館企画展示室

●主な展示資料

＜上流域の渡し＞

岩屋の渡しから立石の渡しまで33箇所への渡しの説明と写真のパネル(国土交通省徳島河川国道事務所蔵)

＜中流域の渡し＞

毛田渡しから西条渡しまで38箇所への渡しの説明と写真のパネル(国土交通省徳島河川国道事務所蔵)

＜下流域・旧吉野川・今切川の渡し＞

・井内渡しから宮島渡しまで19箇所への渡しと巡航船の説明と写真のパネル(国土交通省徳島河川国道事務所蔵)

・旧吉野川の渡し21箇所への説明と写真のパネル(国土交通省徳島河川国道事務所蔵)

・今切川の渡し11箇所への説明と写真のパネル(国土交通省徳島河川国道事務所蔵)

＜渡船の姿＞

岡田式渡船資料(個人蔵)

増田淳氏資料(個人蔵)

●観覧料 無料

●観覧者数 3,848人

●展示解説

第1回：平成18年2月19日（日） 参加者21人

第2回：平成18年2月26日（日） 参加者20人



「吉野川の渡し」展示室風景

(3) 2005年度文化の森人権問題啓発展

文化の森5館と徳島県教育委員会(生涯学習政策課・人権教育課)との共催で、年2回の人権問題啓発展(同和問題啓発展標語ポスター入選作品展と識字学級生の作品展)を行った。

●主催 文化の森5館・徳島県教育委員会

●期間

①2005年度文化の森同和問題啓発展標語ポスター・資料展

平成17年8月6日(土)～8月14日(日)

入場者数 1,594人

②2005年度文化の森人権問題啓発展

平成17年12月6日(火)～11日(日)

入場者数 656人

●会場 近代美術館ギャラリー・ミニシアター(ビデオ上映)

●入場者数合計 2,250人

(4) 文化の森 阿波人形浄瑠璃ウィーク(展示の部)

阿波人形浄瑠璃に親しみ、魅力を再発見していただくことを目的として、神山町寄居座所蔵の人形浄瑠璃用衣装、小道具等を展示した。

●共催 徳島県立21世紀館・徳島県立文書館

●会期 平成18年8月12日(土)～8月20日(日)

●会場 21世紀館多目的活動室

●観覧料 無料

●観覧者数 1,824人

(5) 「佐那河内村いきものふれあいの里」展

佐那河内村大川原にある「いきものふれあいの里」の周辺の動植物を紹介し、大川原の魅力を知らうことを目的として共催事業として開催した。当館へ寄贈された哺乳類や鳥類のはく製などを展示した。

●主催 徳島県立いきものふれあいの里・徳島県立博物館

●会期 平成18年3月25日(土)～26日(日)

●会場 21世紀館多目的活動室

●観覧料 無料

●観覧者数 555人

4. 館外での展示

(1) 展示パッケージの貸し出し

県内博物館の支援及び収蔵資料の展示機会の増加を図るため、昨年度から展示パッケージ(テーマに応じた展示資料及びパネル、ラベルのセット)の貸し出しを行っている。

17年度は各分野から数テーマを挙げてリスト化したチラシを作成し、徳島県博物館協議会加盟館等に配布して周知を図った。その結果、次の2件の貸し出しがあった(パッケージ名称、貸出先、期間の順に表記)。

・徳島水平社(松茂町歴史民俗資料館)

平成17年8月2日～10月31日

・阿波忌部の世界(ガレの森美術館)

平成18年2月7日～2月28日

(2) 移動展

収蔵資料の活用を促進するため、前項の展示パッケージ貸し出しを始めたのにあわせ、当館が主体となって展示を企画・構成する移動展にも重点的に取り組むことにしている。17年度は、次のような実績となった。

■移動展「写真に撮られた島のくらしー写真民俗誌の試みー」

出羽島の住民の方が撮影されていた多くの写真が当館に寄贈された。それはこの島のいろいろな行事や暮らしを記録した貴重な資料である。

これらの写真を島の方々や関係町村においても展示して見ていただくよう計画し、次の2会場で開催した。

① 牟岐町海の総合文化センター(1階ロビー)

●主催 徳島県立博物館・牟岐町教育委員会

●会期 平成18年7月16日(土)～8月8日(月)

●展示品 出羽島に関する古写真(36点)

② 出羽島漁村センター(2階大会議室)

●主催 徳島県立博物館・牟岐町漁業協同組合出羽島支所・出羽島部落会

●会期 平成18年8月10日(水)～9月5日(月)

●展示品 出羽島に関する古写真(40点)

■移動展「戦争体験」

太平洋戦争末期の昭和20年7月4日未明に、徳島市周辺はアメリカ空軍のB-29爆撃機129機によって猛烈な焼夷弾攻撃を受けた。この空襲の様子を、写真や焼夷弾の破片、溶けてしまったビンなどの資料で紹介し、戦争の悲惨さを訴えた。

●主催 藍住町立図書館・徳島県立博物館

●期間 平成17年8月3日(水)～8月18日(木)

●会場 藍住町立図書館

●展示品 空襲関係資料 20点

●入場者数 2,342人

■移動展「世界の甲虫」

夏休み期間中に図書館を訪れる方々に、昆虫の色や形のおもしろさを見てもらうことを目指した。地球上でもっとも繁栄している生物である昆虫の代表として、南米や東南アジアの大型のカブトムシやクワガタムシ、徳島県の昆虫の一部を展示した。

- 主催 藍住町立図書館・徳島県立博物館
- 期間 平成17年8月19日（金）～9月11日（日）
- 会場 藍住町立図書館
- 展示品 東南アジアのカブトムシ標本など 3箱
- 入場者数 3,210人



「世界の甲虫」展示風景（藍住町立図書館）

■移動展「北アメリカの植物」

- 主催 松茂町歴史民俗資料館・徳島県立博物館
- 期間 平成18年2月4日（土）～3月5日（日）
- 会場 松茂町歴史民俗資料館
- 展示品 北米産植物標本および徳島産比較標本 16点
- 入場者数 1,867人

5. 常設展の更新及び活性化に向けての取り組み

(1) 常設展更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年をめどに常設展の全面更新を実現したいと考え、開館5年目にあたる平成7年度から館内での検討を行ってきたが、事業化は実現しなかった（年報7号参照）。その後、開館15周年目に当たる17年度にリニューアル・オープンする計画で、事業規模を縮小した基本案見直しを行い、予算積算など

を行ったが、厳しい財政状況等もあって、依然として事業化は認められていない。

今後、できるだけ早い時期での常設展更新が実現するよう、その方途を探るとともに、館内での検討を深めていく必要がある。また、最近開館した博物館や展示のリニューアルを行った館に対する調査も継続してきており、17年度には次の調査を行った。

- ・九州国立博物館、大阪人権博物館：新設館等の展示状況の調査

(2) 常設展の活性化に向けての取り組み

常設展の全面更新が困難な状況にあることから、現行常設展の手直しなどを進め、より利用しやすく、また、より変化の見えるかたちへと変えていくよう取り組みを始めた。

17年度は、次のようなことを行った。

①部門展示（人文）の計画的運営と広報

年度当初に年間展示替え計画を明確にし、案内チラシを配布して広報に努めた。

②展示解説の促進

日曜日とクイズラリーのない土曜日の午後に30分程度で受付案内員による展示解説ツアーを実施した。参加希望者が少なく、実施回数は14回だった。なお、これ以外の日には、要望があれば随時対応することになっている。

- ・部門展示（人文）における展示解説

「阿波忌部の世界」、「土鈴・旅行みやげ」開催中に、担当学芸員による展示解説を試行した。行事として周知されていなかったこともあり、参加者は少なかった。

③部門展示（人文）、トピック展示の活用

展示替えしたコーナーを、定例のクイズラリーの設問に取り組みなど、活用を進めた。

6. 展示関係出版物

■企画展図録・解説書

- 第1回企画展図録「縄文の美—亀ヶ岡文化の世界—」
2005年3月31日発行、A4判63ページ（全カラーページ）、700部+友の会増刷300部
- 第2回企画展解説書「絶滅」
2005年7月22日発行、A5判105ページ（93カラーページ）、700部+友の会増刷300部
- 第3回企画展（文化の森開園15周年企画展）図録「ふるさと再発見—15の人・もの・場所—」
2005年10月22日発行、A4判72ページ（64カラーページ）、900部+友の会増刷300部

IV 普及教育

普及教育事業、とくに普及行事は、「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接交流できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成17年度は、年間90回の普及行事を実施した（実施計画では93回、雨天などでの中止3回。他にクイズラリー24回を行った）。普及行事は県民のあいだに定着してきてはいるが、参加者は徳島市内とその近郊在住者に片寄っている。そのため、歴史散歩、野外自然かんさつ、移動講座において、郡部での開催を増やすなどの工夫をしているが、徳島市以外での行事に対しても参加者は徳島市、鳴門市、小松島市、及び名西郡石井町等からの参加者が多い。今後、広報の方法などにもさらに工夫が必要であると考えている。

1. 普及行事

■歴史体験

昔の人々の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

6月12日（日）	藍染めをしよう	参加者11人
7月18日（月）	火おこし①	28人
8月14日（日）	戦時中の食事・すいとんをつくろう	24人
8月21日（日）	火おこし②	33人
9月4日（日）	勾玉をつくろう①	47人
10月2日（日）	土器づくり①	18人
10月30日（日）	土器づくり②	17人
12月11日（日）	正月飾りをつくろう	29人
1月22日（日）	トンボ玉をつくろう	14人
2月5日（日）	ベーゴマをまわしてみよう	31人
3月5日（日）	勾玉をつくろう②	23人
3月26日（日）	わらざうりをつくろう	27人

■歴史散歩

県内の主な遺跡、町並み、建造物などを見学してまわるシリーズ。

5月29日（日）	伊島を歩こう	18人
6月5日（日）	徳島城の刻印をさがそう	31人
11月6日（日）	出羽島を歩こう	中止
11月13日（日）	美馬を歩こう	14人
12月18日（日）	一宮城を歩こう	中止

3月19日（日） 阿波忌部探訪ツアー 18人

■野外自然かんさつ

野外にでかけて行う季節に応じた動植物の観察や地質の見学会。17年度は文化の森周辺のほか、徳島市、鳴門市、阿波市、勝浦町、池田町、由岐町、宍喰町などで実施した。

4月30日（土）	眉山の地質ハイキング	32人
5月8日（日）	磯のいきもの①	78人
5月15日（日）	浜辺の植物	20人
5月22日（日）	磯のいきもの②	62人
6月12日（日）	鳴門の地層見学	23人
7月10日（日）	河口のいきもの	中止
7月30日（土）	水生昆虫のかんさつ	70人
7月31日（日）	漂着物をさがそう！	41人
8月20日（土）	川魚かんさつ	23人
9月10日（土）	鳴く虫のかんさつ	47人
9月25日（日）	白亜紀の地層を歩こう	30人
10月2日（日）	黒沢湿原に咲く花をさがそう	25人
10月9日（日）	アサギマダラをさがそう	15人
10月23日（日）	地層のかんさつ	6人
10月30日（日）	歩いて地図をつくろう	11人
11月20日（日）	土柱周辺の地質見学	19人

■室内実習

主に実習室で行う各種の観察会、講習会。内容に応じて実体顕微鏡、電子顕微鏡等の機器も併用して観察を行っている。

「標本の名前を調べる会」は、毎年8月下旬に行う恒例の行事で、学芸員のほか8名の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけにならないで、いっしょに調べる姿勢で取り組むよう留意している。

4月17日（日）	アンモナイト標本をつくろう	18人
4月24日（日）	春の野草かんさつ	22人
5月29日（日）	ミクロの世界－電子顕微鏡で昆虫を見よう①	30人
6月19日（日）	ミクロの世界－電子顕微鏡で化石を見よう①	23人
7月17日（日）	タンگرامをつくろう	22人
8月7日（日）	かんたんな貝の標本のつくり方	58人

8月23日(火)	標本の名前を調べる会	83人
9月18日(日)	ジグソー地図をつくろう①	14人
9月25日(日)	ミクロの世界-電子顕微鏡で植物を見よう①	12人
10月16日(日)	秋の野草かんさつ	17人
11月13日(日)	ジグソー地図をつくろう②	6人
12月4日(日)	ミクロの世界-電子顕微鏡で化石を見よう②	9人
12月18日(日)	恐竜の歯のレプリカをつくろう	22人
1月15日(日)	貝化石標本の作り方	14人
1月29日(日)	ミクロの世界-電子顕微鏡で昆虫を見よう②	19人
2月19日(日)	ミクロの世界-電子顕微鏡で植物を見よう②	14人
3月18日(土)	古美術品の保存と取りあつかい	18人

■みどりの工作隊

自然の材料を使い、遊びの要素を取り入れた実習。

7月31日(日)	花のTシャツをつくろう	15人
8月28日(日)	葉脈標本でしおりをつくろう	47人
11月20日(日)	リースをつくろう	47人
11月27日(日)	雑草で年賀状をつくろう	23人

■ミュージアムトーク

土曜日の午後に、学芸員が各自の研究テーマや身近な話題について話をするシリーズ。申し込み不要・定員先着50名。

8月27日(土)	滅びゆく魚たち	15人
11月26日(土)	経巻が語る中世の阿波	17人
2月11日(土)	阿波侯のお抱え蒔絵師・飯塚桃葉	17人
3月11日(土)	海女・海士道具が語るもの	7人

■歴史文化講座(移動講座)

移動博物館の試みとして、学芸員が講師をつとめて館外の社会教育施設と共催で行う講座。17年度は5～7月に阿波海南文化村で実施した。

5月22日(日)	亀ヶ岡文化と喜田貞吉	35人
6月26日(日)	中世阿波の熊野信仰	41人
7月24日(日)	銅鐸製作の技術	57人

■企画展・特別陳列等関連行事

企画展や特別陳列等の開催中に、展示解説等を行った。

●企画展「縄文の美」展示解説

第1回: 5月1日(日)	参加者	52人
第2回: 5月15日(日)	参加者	22人

●企画展「縄文の美」関連行事

5月1日(日)	土偶スケッチ①	98人
5月8日(日)	記念講演会	131人
5月15日(日)	土偶スケッチ②	184人
5月29日(日)	土製耳飾りをつくろう	15人

●企画展「絶滅」展示解説

第1回: 7月24日(日)	参加者	80人
第2回: 7月31日(日)	参加者	72人



「絶滅」展、展示解説

●企画展「ふるさと再発見」関連行事

10月22日(土)	オープニング記念「三番叟」	86人
10月23日(日)	記念講演会	500人
10月30日(日)	徳島ゆかりの民謡大会	247人
11月4日(金)	太布織り実演	223人
11月5日(土)	太布織り実演	51人
11月12日(土)	映画上映会「鳴門秘帖」	183人

●特別陳列「トクシマ・木工芸の道具と技」展示解説

1月15日(日)	参加者	30人
第1回: 2月19日(日)	参加者	21人
第2回: 2月26日(日)	参加者	20人

●特別陳列「吉野川の渡し」関連行事

2月26日(日)	特別陳列ストーンペインティング	28人
3月12日(日)	オカリナ演奏	56人

●部門展示「阿波忌部の世界」展示解説

第1回: 7月2日(日)	参加者	10人
第2回: 7月24日(日)	参加者	11人
第3回: 8月14日(日)	参加者	21人

●部門展示「旅行みやげ」展示解説

第1回：9月11日（日） 参加者 6人
 第2回：10月16日（日） 参加者 14人

■クイズラリー

毎月第2・第4土曜日（祝日を除く）に、小・中・高校生を対象にクイズラリーを実施している。この行事は、常設展の活用と入館者の獲得を目的に始めたもので、参加者が展示資料に関する簡単な問題を解きながら観覧することで、新しい発見につながることを期待している。参加者全員に簡単な記念品を贈呈している。

4月9日（土）	126人	（小 121・中 5・高 0）
4月23日（土）	142人	（小 132・中 10・高 0）
5月14日（土）	91人	（小 91・中 0・高 0）
5月28日（土）	131人	（小 128・中 3・高 0）
6月11日（土）	108人	（小 106・中 2・高 0）
6月25日（土）	98人	（小 87・中 6・高 5）
7月9日（土）	109人	（小 106・中 3・高 0）
7月23日（土）	136人	（小 124・中 11・高 1）
8月13日（土）	94人	（小 86・中 8・高 0）
8月27日（土）	91人	（小 91・中 0・高 0）
9月10日（土）	73人	（小 66・中 7・高 0）
9月24日（土）	120人	（小 104・中 16・高 0）
10月8日（土）	84人	（小 83・中 1・高 0）
10月22日（土）	140人	（小 126・中 10・高 4）
11月12日（土）	101人	（小 101・中 0・高 0）
11月26日（土）	76人	（小 75・中 0・高 1）
12月10日（土）	103人	（小 103・中 0・高 0）
12月24日（土）	51人	（小 50・中 1・高 0）
1月14日（土）	78人	（小 76・中 2・高 0）
1月28日（土）	71人	（小 70・中 1・高 0）
2月11日（土）	104人	（小 104・中 0・高 0）
2月25日（土）	135人	（小 129・中 6・高 0）
3月12日（土）	123人	（小 118・中 5・高 0）
3月26日（土）	143人	（小 138・中 5・高 0）
参加者合計	2,528人	（小2415・中102・高11）

■その他の普及行事

●博物館こどもの日フェスティバル 5月5日（木）

小中学生を対象にクイズラリーを実施した。また、体験コーナーとして、化石の型どり・拓本をとろう・貝殻の絵をかこう・土偶と写真を撮ろうを行った。クイズラリーに参加した子どもたちには記念品を贈呈した。

参加者 414人

●夜の博物館 ドキドキ体験ツアー 8月6日（土）

夜間の常設展見学と文化の森での昆虫の夜間観察を

セットにした行事を行った。

参加者 36人

●博物館Vキング 9月23日（金）

博物館ボランティアの方が中心となって企画し、体験コーナーとして、木の葉の昆虫作り・化石発掘・海藻おしば・古代人に変身・古代米を食べよう・和歌を作ろうを行った。

参加者 429人

●博物館文化の日フェスティバル 11月3日（木）

小中学生を対象にクイズラリーを実施した。また、体験コーナーとして、博物館ボランティアの方が中心となって企画し、化石のレプリカづくり・どんぐりクッキー・LED工作・和歌づくり・化石発掘・スケッチ大会・古代人に変身を行った。クイズラリー・スケッチ大会に参加した子どもたちには記念品を贈呈した。

参加者 1,237人

11月3日（文化の日）は県立博物館で過ごそう！！

文化の日フェスティバル

博物館Vキング

11月3日（木）文化の日
9:30～16:30
（受付は9:30～16:00）
博物館常設展示室（2階）・実習室（3階）

入場無料

文化の森総合公園
徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向山
 TEL. 088-668-3636
<http://www.museum.comet.go.jp/>

「Vキング」チラシ

●シンポジウム「博物館と地域のこれからを考える」

3月5日（日） 参加者 60人

2. 学校教育支援事業

博物館は本来、実物資料に基づく体験的な学習ができる場であり、学校教育にとって遠足での博物館見学以外にも様々な活用ができる場であるはずである。また、教育改革に伴う学校完全週5日制や「総合学習」の導入等とも関連し、博物館等の社会教育機関に対して積極的な学校教育への支援が要請されるようになった。

当館では、平成12～13年度に「博物館と学校との連携に関する研究会」を組織し、博物館と学校との連携のあり方等について模索した。それを踏まえ、14年度から学校教育支援事業として、学校の授業での博物館利用への支援、学校の授業への講師派遣(出前授業)、学校への博物館資料の貸し出し、職場体験の受け入れ等を積極的に行うことにしている。

(1) 学校の授業での博物館利用への支援

理科や社会科の授業、「総合学習」での活動と関連して、クラスやグループ単位で博物館を利用する例が増えてきた。受け入れに当たっては、展示資料だけでなく必要に応じて収蔵資料を見てもらったり、学芸員が助言するなどの支援を行った。

- ①上八万小学校 4月26日(火) 6年生 71名
火おこし 魚島
- ②中野島小学校 5月6日(金) 6年生 26名
火おこし 魚島
- ③鳴門教育大学 9月26日(月) 2年生 117名
博物館と人権 長谷川
- ④八万南小学校 11月2日(水) 3年生 126名
博物館探険 大原
- ⑤城西高校 11月4日(金) クラブ 6名
太布織り実演 磯本
- ⑥八万南小学校 1月13日(金) 3年生 88名
博物館探険1 大原
- ⑦八万南小学校 1月27日(金) 3年生 88名
博物館探険2 大原

(2) 学校の授業への講師派遣(出前授業)

学校からの依頼に応じて、学校での授業に学芸員を派遣した。授業では教員と協同し、持参した博物館資料を活用するなどして、児童・生徒の理解を助けるよう工夫した。

- ①三本松高等学校(香川県) 5月11日(水)
2年生 34名
香川県立三本松高等学校におけるスーパーサイエンスハイスクール研究開発の取り組みで、国営讃岐

まんのう公園の自然生態園で自然の多様性のすばらしさについて講義を行った。(講師:小川)

- ②一宮小学校(徳島市) 5月23日(月) 全校 98名
水生生物の採集と観察を通して、鮎喰川の水質について考える。(講師:大原)
- ③藍畑小学校(藍住町) 6月7日(火) 4年生 44名
環境教育の一環として、や帰化植物の悪影響や少なくなってきた植物の在来種について指導した。(講師:茨木)
- ④板野南小学校(板野町) 6月8日(水) 3年生 36名
モンシロチョウの成長と世界の昆虫について話をした。(講師:大原)
- ⑤八万南小学校(徳島市) 7月8日(金) 4年生 中止
水生生物調査(講師:大原)
- ⑥入田小学校(徳島市) 7月14日(木)
1～6年生 80名
水生生物の採集と観察を通して、鮎喰川の水質について考えた。(講師:大原)



入田小学校「水生生物調査」

- ⑦上八万小学校(徳島市) 10月14日(金)
4年生 73名
園瀬川の水生動物の観察を行った。(講師:佐藤)
- ⑧鴨島小学校(吉野川市) 10月26日(水)
4年生 68名
昔の農具を実際に見せながら、使い方について指導した。(講師:磯本)
- ⑨北島小学校(北島町) 10月26日(水) 6年生 78名
鳴門市鳴門町竜宮の磯周辺で地層の観察を指導した。(講師:中尾)
- ⑩富田小学校(徳島市) 10月27日(木)
3年生・保護者 77名
アンモナイトの殻を削り、内部の構造が観察でき

る標本作りを行った。(講師：辻野)

- ⑪中野島小学校(阿南市) 11月9日(水)
6年生 23名
「大地のつくり」についての授業を行った。(講師：中尾)
- ⑫馬路小学校(池田町) 11月14日(月) 6年生 6名
大地のつくり、地層のできかた、いろいろな化石等について授業を行った。(講師：中尾)
- ⑬小松島小学校 小松島市 11月15日(火)
6年生 21名
大地のつくり、地層のできかた、いろいろな化石等について授業を行った。(講師：辻野)
- ⑭鴨島小学校(吉野川市) 11月15日(火)
6年生 69名
地層や化石のできかた、火山活動等について授業を行った。(講師：中尾)
- ⑮中野島小学校 阿南市 11月16日(水)
4年生 28名
昔の道具を実際に見せながら、使い方について指導し、昔の暮らしについて考えさせた。(講師：磯本)
- ⑯馬路小学校 池田町 11月17日(木)
4年生 6名
昔の道具を実際に見せながら、使い方について指導し、稲作の一年と関連づけさせた。(講師：磯本)
- ⑰北島南小学校 北島町 11月17日(木)
6年生 53名
大地のつくり、地層のできかた、いろいろな化石等について授業を行った。(講師：辻野)
- ⑱皆瀬小学校 つるぎ町 11月17日(木)
6年生 1名
総合的な学習で、スズカケソウについて指導した。(講師：小川)
- ⑲論田小学校(徳島市) 11月29日(火)
6年生 77名
「大地をさぐる」として地層のできかたやできた地層、化石のできかたと化石の観察の授業を行った。(講師：中尾)
- ⑳南部中学校 徳島市 11月29日(火)
1年生 250名
義経と遍路の道について、講演した。(講師：長谷川)
- ㉑富岡小学校 阿南市 12月9日(金)
6年生 29名
6年生社会科の学習で、徳島大空襲について指導した。(講師：山川)

(3) 博物館資料の学校への貸出し

学校の授業等で活用してもらうため、平成10年度から博物館資料の学校への貸出しを行っている。学校貸出用資料リストを学校に配布して利用を呼びかけているが、まだ利用は少ない。

貸出用資料の一層の利用促進を図るため、平成15年度末に学校貸出用資料解説シートを印刷し、今年度小中学校および高校に配布した。また、来館した教職員には必要に応じて解説シートを配布し利用を勧めた。

- ①川内中学校(徳島市) 9月20日～30日
貸出資料：徳島大空襲解説・写真パネル他
利用目的：行事(文化祭)
- ②城東小学校(徳島市) 10月22日～28日
貸出資料：三葉虫ほか 5点
利用目的：理科
- ③馬路小学校(池田町) 11月1日～14日
貸出資料：火おこし道具
利用目的：総合
- ④北島小学校(北島町) 11月7日～11月11日
貸出資料：アンモナイトほか(和泉層群産化石) 13点
利用目的：理科

(4) 職場体験の受け入れ

中学校・高校での職場体験事業の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらうことによって、博物館に対する認識を高めることができた。

- ①八万中学校 7月12日～13日 3年生 5名
博物館の現状、歴史・考古・美術工芸資料の整理、企画展準備見学
- ②富岡東高校 7月22日 1、2年生 5名
博物館の現状・企画展見学(キャリアリサーチ)

(5) 教員のための研修

徳島県教育委員会等からの依頼により、教員対象の研修会を実施し、当館職員が指導に当たった。

- ①高校・障害児教育諸学校人権教育主事研修会
4月27日(水)
同和問題解決への取り組み(講師：長谷川)
- ②小・中学校人権教育主事研修会 5月11日(水)
同和問題解決への取り組み(講師：長谷川)
- ③城東高校職員研修会 7月8日(金)
同和問題解決への取り組み(講師：長谷川)
- ④国府養護学校職員研修会 7月15日(金)
人権教育の見直し(講師：長谷川)
- ⑤阿南市小中学校理科合同研修会 7月26日(火)
化石標本・「絶滅」解説(講師：佐藤)

博物館の裏側見学 (講師：魚島)

⑥地域学習のための臨地研修会 7月27日(水)
勾玉づくり (講師：魚島)

⑦平成16年度10年経験者研修

- ・ 8月2日(火) 参加者30名
展示スケッチ (講師：田辺)
古代の乳製品「蘇」をつくる (講師：長谷川)
- ・ 8月3日(水) 参加者22名
植物標本 (講師：茨木)
石像物見学 (講師：磯本)
- ・ 8月4日(木) 参加者25名
民具資料整理 (講師：庄武)
ミクロの世界 (化石) (講師：中尾)

(6) その他

博物館での授業、講師派遣、資料の貸出しに限らず、学校の授業やクラブ活動等で自然観察、生活体験、歴史学習等をしようとする場合、どんなことをしたらおもしろいか、どんな資料が活用できるかなどについて、学芸員が博物館での普及行事等の経験を踏まえて



10年経験者研修「植物標本づくり」(上) および
「古代の乳製品「蘇」をつくる」(下)

教員の相談に応じることにしている。

①2月11日 ボーイスカウト「火おこし」(午前)、「裏側見学」(午後) (こども20名・大人23名)

3. 博物館友の会

●会員 (平成17年度末)

個人会員 (年会費 2,000円)	130人
家族会員 (年会費 3,000円)	94組353人
賛助会員 (年会費 10,000円)	1人

●役員 (平成17年度)

会長：石原 侑
副会長：和田賢次・関真由子・両角芳郎(博物館長)
幹事：多田精介・榎原剛一・南部洋子・木下
覚・澤祥二郎・大杉洋子
監査：石尾和仁・川下浩子

●事業

①博物館出版物の増刷・頒布

17年度博物館企画展の図録および徳島の自然と歴史ガイド④「徳島大空襲」、⑤「徳島の銅鐸」の印刷、同じく徳島の自然と歴史ガイド①「徳島城」の増刷・頒布を行った。

②広報活動

17年度会員に対し、博物館ニュース、企画展チラシ、月間行事案内、年間催し物案内などを送付した。また、友の会会報「アワーミュージアム」No.28~30を発行し、会員に送付した。

③野外活動等

会員を対象とした行事を9行事実施した。

○日帰り研修会

日時：6月5日(日)

場所：須磨海浜水族館、明石天文科学館、明石城
参加者：42人

○地引き網体験

日時：7月31日(日)

場所：阿南市中林海岸
参加者：68人

○バッタの観察会

日時：9月4日(日)

場所：園瀬川河川敷
参加者：13人

○雑草の名前を調べる会

日時：9月11日(日)

場所：園瀬川河川敷
参加者：5人

○花のペンダントをつくろう

日時：10月9日(日)



友の会行事「地引き網」(左)、獲れた魚を料理してもらって食べる参加者(右)

場 所：博物館実習室

参加者：10人

○一泊研修会

日 時：10月22日(土)～10月23日(日)

場 所：奈良県桜井市、天理市

参加者：32人

○徳島城絵図ウォーク

日 時：11月13日(日)

場 所：徳島城山

参加者：17人

○八万の昔を調べる

日 時：11月20日(日)

場 所：八万町法花

参加者：24人

○神山の梅見と二宮神社

日 時：3月5日(日)

場 所：神山町阿野二宮神社

参加者：19人

4. 普及教育関係出版物

■徳島の自然と歴史ガイド④「徳島大空襲」

2005年12月25日発行、B6判53ページ(35カラーページ)、700部+友の会増刷300部

■徳島の自然と歴史ガイド⑤「徳島の銅鐸」

2006年3月31日発行、A4判72ページ、700部+友の会増刷400部

■博物館ニュース

館の広報誌で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する“Culture Club”、館蔵品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンスQ&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。A4判・8ページ(全ページカラー)で6,000部を印刷している。

平成17年度には次の4号を発行した。また、当館ホームページでも公開している。

●No. 59 (2005年6月25日発行)

Culture Club

「保存する」ということ

館蔵品紹介 キュウシュウエゾゼミ

企画展

「絶滅-生きものはなぜ滅びるのか？」

情報ボックス

標本交換:オレゴンの花がやってきた

レファレンスQ&A

クラゲ、サンゴ、イソギンチャクは同じグループなのに形が違っていて不思議です



一泊研修で山辺の道を歩く

●No.60 (2005年9月15日発行)

Culture Club

「似ている？似ていない？」

館蔵品紹介

ナノナビス類の化石（白亜紀二枚貝）

企画展

「ふるさと再発見－15の人・もの・場所－」

情報ボックス

焼け野原の徳島市街

レファレンス Q&A

昨年、園瀬川沿いで噴砂が見られたというのはほんとうですか？

●No.61 (2005年12月1日発行)

Culture Club

南北朝時代の写経と山伏－神山町勧善寺所蔵大般若経を例として－

館蔵品紹介

ナルトサワギクとヒロハフウリンホオズキ

平成17年度第1回特別陳列

「トクシマ・木工芸の道具と技」

平成17年度第2回特別陳列

「失われた交通路・吉野川の渡し」

情報ボックス

須木一胤の資料が寄贈されました

レファレンス Q&A

阿波踊りはもともと、死者の霊を慰めるための踊りだと聞いたことがありますか…県内にはほかにどんな盆踊りがありますか？

●No.62 (2006年3月25日発行)

Culture Club

蜂須賀家の御家騒動

野外博物館

加茂谷川沿いの遺跡

企画展

「奇跡の化石たち」

博物館イベント企画運営スタッフの活動

■その他

●年間催し物案内

1年間の普及行事予定を掲載したB4判4つ折のリーフレット。14万部印刷し、県内の小・中・高校生及び教職員全員に配布した。また、博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

●月間催し物案内

各月の普及行事の実施要領、申し込み方法等の案内

を印刷したB4判のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

●博物館引率の手引き

学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどについて説明した印刷物。年度初めに県内各学校に送付している。

●博物館の学校支援事業案内

博物館が行っている学校への支援事業を、内容別に紹介したパンフレットを作製し、各学校へ送付した。

V シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、博物館活動を通じて様々な資源（資料・情報・学芸員の知識）を蓄積している一種のシンクタンクであるということができる。これらの資源を活用して地域社会等に貢献する活動を行うことは、博物館の重要な役割であると考え、博物館の他の事業に差し支えない範囲で積極的に取り組んで行くことにしている。

1. 各種委員会委員等の受諾

平成17年度に博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、学会役員等は次のとおり。

両角芳郎

日本博物館協会評議員（平成16. 6. 21～18. 3. 31）

徳島県博物館協議会会長

（平成17. 6. 8～18. 3. 31）

徳島県教育委員会スーパーサイエンスハイスクール

運営指導委員会委員（平成15. 7. 3～18. 3. 31）

第22回全国国民文化祭徳島県実行委員会委員

（平成16. 8. 6～20. 3. 31）

大原賢二

東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アドバイザー（平成16. 8. 16～）

徳島大学汽水域生態系モニタリング手法研究会委員

（平成17. 3. 15～18. 3. 31）

徳島県田園環境検討委員会委員

（平成18. 1. 17～2年間）

マリニピア沖洲環境調査検討委員会委員

（平成18. 2. 1～20. 1. 31）

環境省希少野生動植物種保存推進員

（平成15. 7. 1～18. 6. 30）

佐藤陽一

とくしま川づくり委員会委員

（平成13. 12. 15～19. 12. 14）

徳島県田園環境検討委員会委員

（平成15. 11. 26～17. 11. 25）

徳島県ビオトープアドバイザー

（平成17. 4. 11～18. 3. 31）

環境省希少野生動植物種保存推進員

（平成15. 7. 1～18. 6. 30）

日本魚類学会標準和名検討委員会委員

（平成15. 4. 1～）

東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アドバイザー（平成16. 8. 16～）

徳島県土木工事環境配慮アドバイザー

（平成17. 4. 1～18. 3. 31）

徳島大学汽水域生態系モニタリング手法研究会委員

（平成17. 3. 15～18. 3. 31）

国土交通省アゴヒゲアザラシに関する検討会メンバー（平成17. 11. 15～18. 5. 31）

小川 誠

徳島県田園環境検討委員会委員

（平成15. 11. 26～17. 11. 25）

徳島県ビオトープアドバイザー

（平成17. 4. 11～18. 3. 31）

環境省希少野生動植物種保存推進員

（平成15. 7. 1～18. 6. 30）

徳島県土木工事環境配慮アドバイザー

（平成17. 4. 1～18. 3. 31）

徳島大学汽水域生態系モニタリング手法研究会委員

（平成17. 3. 15～18. 3. 31）

田辺 力

環境省希少野生動植物種保存推進員

（平成15. 7. 1～18. 6. 30）

日本昆虫学会編集委員（平成14. 4. 1～18. 3. 31）

中尾賢一

日本第四紀学会博物館連絡委員

（平成17. 8. 1～19. 7. 31）

茨木 靖

東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アドバイザー（平成16. 8. 16～）

徳島大学汽水域生態系モニタリング手法研究会委員

（平成17. 3. 15～18. 3. 31）

徳島県田園環境検討委員会委員

（平成18. 1. 17～2年間）

山川浩實

徳島市立考古資料館協議会委員

（平成17. 7. 1～18. 3. 31）

高島芳弘

徳島市立考古資料館資料展示検討委員会委員

（平成16. 7. 1～18. 6. 30）

長谷川賢二

徳島県人権資料収集検討委員会委員
(平成14. 6. 28～)

徳島県人権問題啓発をすすめる会専門委員
(平成17. 4. 1～18. 3. 31)

「人権教育指導者用手引書」作成委員会委員
(平成17. 7. 29～18年度)

徳島地方史研究会評議員
(平成17. 4月～18. 3月)

日本山岳修験学会理事
(平成17. 11月～19. 11月)

庄武憲子

松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館資料館
協議会委員 (平成17. 4. 1～19. 3. 31)

「人権教育指導者用手引書」作成委員会委員
(平成17. 7. 29～18年度)

第22回国民文化祭徳島県実行委員会吉野川文化探訪
フェスティバル企画委員会委員
(平成17. 10. 3～)

磯本宏紀

第22回国民文化祭徳島県実行委員会人形浄瑠璃企画
委員会委員 (平成17. 8. 4～)

川田純子

徳島県道州制等研究会公募研究員
(平成16. 8. 24～)

2. 講師の派遣

館外からの依頼を受けて行った講師派遣等を、月日・担当者・内容（依頼者）の順に記す（内容に依頼者が表現されている場合は依頼者を省略）。

4月19日 長谷川賢二

平成17年度新規採用職員研修で講演「人権問題2（同和問題1）部落史を考える」（徳島県自治研修センター）

7月14日 魚島純一

徳島県立文書館『古文書保存講座』で講演「文書資料の保存科学」

11月12日 長谷川賢二

NHK大河ドラマ『義経』とその時代テレビセミナーで講演「奥州平泉の黄金文化」（NHK徳島放送局）

11月16日 長谷川賢二

池田町人権教育推進講座で講演「部落史から考える私たちの課題」（池田町人権教育推進協議会）

12月7日 長谷川賢二

シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「修験

道史再考」、「中世の熊野信仰」

12月14日 長谷川賢二

シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「中世における三宝院流山伏」、「戦国 軍記の世界」

1月26日 長谷川賢二

第12回美術館・歴史博物館学芸員専門研修会で講演「来館者調査の意義と方法」（文化庁）

2月5日 長谷川賢二

徳島の古文書を読む会総会で講演「史料と歴史の広がり」

2月8日 長谷川賢二

人権問題研修で講演「部落史を考える」（徳島県自治研修センター）

2月9日 長谷川賢二

平成17年度第3回徳島県教育委員会事務局職員等人権問題研修会で講演「部落史から考える私たちの課題」

2月15日 長谷川賢二

第26回部落解放・人権徳島地方研究集会第6分科会で講演「博物館と人権問題のあいだ」

3月13日 小川 誠

第3回自然史系博物館における標本情報の発信に関する研究会で講演「標本データベースの整備と発信 徳島県立博物館の場合」

3月16日 長谷川賢二

平成17年度人権問題講演会で講演「部落史から考える私たちの課題」（徳島県立図書館）

3. 大学教育への寄与

(1) 大学非常勤講師の受諾

平成17年度に博物館職員が委嘱を受けた大学非常勤講師は次のとおり。

高島芳弘

徳島大学総合科学部非常勤講師（博物館概論）
(平成17. 4. 6～18. 3. 24)

長谷川賢二

鳴門教育大学非常勤講師（博物館特論）
(平成17. 10. 3～18. 3. 31)

磯本宏紀

四国大学非常勤講師（博物館実習Ⅰ）
(平成17. 4. 1～17. 9. 30)

(2) 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第1条において学芸員となる資格を取得するために「大学において修得すべき博物館に関する科目」と規定されているものの

●徳島県立博物館・博物館実習カリキュラム2005

月/日	午前 (9:30~12:00)			午後 (13:00~16:00)		
8/22(月)	ガイダンス (磯本)			展示替え作業 (庄武)	部門展示室	A 班
	博物館の管理・運営 (両角館長)	実習室十講座室	全員	化石の標本作製 (中尾)	地学収蔵庫十作業室	B 班
	館内施設見学 (磯本)			展示・普及行事立案実習 (田辺)	講座室	C 班
8/23(火)	美工資料取扱実習 (大橋)	資料鑑定室	A 班	歴史資料の整理 (山川)	資料鑑定室	A 班
	「標本の名前を調べる会」行事補助 (大原)				実習室十講座室	B 班
	文献資料の整理 (高島)				書庫	C 班
8/24(水)	友の会運営・発送作業 (幸坂・古東)	実習室	A 班	受付案内実習 (幸坂・古東)	展示室	A 班
	X線透過撮影実習 (魚島)	X線撮影室	B 班	博物館企画展示評価 (佐藤)	企画展示室	B 班
	友の会運営・発送作業 (幸坂・古東)	実習室	C 班	X線透過撮影実習 (魚島)	X線撮影室	C 班
8/25(木)	X線透過撮影実習 (魚島)	X線撮影室	A 班	歴史資料の整理 (長谷川)	歴史収蔵庫 or 資料鑑定室	A 班
	植物標本の整理 (茨木)	分析室	B 班	化石の写真撮影 (辻野)	地学収蔵庫	B 班
	巡見行事企画実習 (磯本)	自習室十野外	C 班	受付案内実習 (幸坂・古東)	展示室	C 班
8/26(金)	文献資料の整理 (高島・茨木)				書庫	A 班
	セミ・トンボの採集と標本作製 (大原)				分析室	B 班
	博物館の情報発信 (小川)	講座室	C 班	化石の標本作製 (中尾)	地学収蔵庫十作業室	C 班

ひとつで、登録博物館または博物館相当施設における実習で修得することになっている。

当館では、大学からの依頼により、原則として県出身の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実習を行っている。4月1日～5月15日が受付期間で、希

望者が多い場合は調整を行い、20数名をめぐりに受け入れることにしている。

平成17年度は、8月22日(月)～26日(金)に実習生の受け入れを行った。実習生は24人で、大学別の内訳は次のとおりである。

鳴門教育大学	6人	四国大学	5人
高知大学	4人	愛媛大学	4人
徳島大学	2人	高知女子大学	1人
明治大学	1人	日本女子大学	1人

カリキュラムは別表のとおりである。

学芸員と普及係職員が指導にあたり、資料の整理や調査などについての実習を行った。

4. 学会・研究会等の運営への寄与

(1) 学会・研究会等の開催

17年度に当館学芸員がお世話し、当館および文化の森の施設を会場として開催された学会・研究会等は次のとおり。

●日本動物分類学会第41回大会

開催日：6月11日(土)～12日(日)

会場：博物館講座室、実習室

参加者：59名

●日本昆虫学会四国支部第44回大会

開催日：7月23日(土)

会場：博物館講座室、実習室

参加者：29名

●徳島博物館研究会例会

開催日：2月23日(木)

会場：博物館応接室

参加者：5名



博物館実習、昆虫採集と標本作り(上)、化石の標本作り(下)

(2) 当館が事務局等を引き受けている学会・研究会等

●植物談話会

植物に関心のある県内同好者が、毎月1回（土曜日の18：30から）、博物館講座室で植物分類の勉強会や採集情報等に関する意見交換を行っている。

会員は約25名で、毎回10～15名の参加者がある。

●四国貝類談話会

四国地域および近隣地域在住の日本貝類学会会員を中心に構成されており、観察会・談話会（年1回）、機関誌『まいご』（年1冊）を行っている。観察会・談話会には20～30名程度の参加者がある。

●四国中世史研究会

四国地域をフィールドとしている中世史研究者によって構成されており、研究会・史料見学（年2回）、機関誌『四国中世史研究』の刊行（隔年1冊）を行っている。

●徳島地域文化研究会

徳島における地域文化研究（民俗学的・文化人類学的視点を中心とする）の発展と普及に寄与するとともに、徳島の地域文化研究に携わる者相互の情報交換と連絡を図ることを目的とする研究会である。

5. 博物館ネットワーク

(1) 四国地区博物館協議会及び日本博物館協会 四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在94館（園）が加盟している。4県が持ち回りで2年ずつ事務局をつとめることになっており、平成16・17年度は愛媛県立美術館が事務局館をつとめた。当館は徳島県幹事館になっている。

平成17年度の役員会及び総会は次のとおり松山市で開催された。

●17年度役員会・総会

日時：7月7日（木）10：30～16：30

会場：愛媛県美術館

議事：平成16年度事業報告及び決算報告について
平成17年度事業計画及び予算について
その他

講演：進悦子氏（愛媛県総合科学博物館学芸員）
「アメリカ・エクスプロラトリウムでの研修報告」

●研修・視察

日時：7月8日（金）9：00～12：00

場所：愛媛県美術館

内容：日本博物館協会専務理事の報告及び国立美術館巡回展「名作とは何か？近代の日本美術」の視察

(2) 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、平成8年2月27日に設立された。加盟館は、設立時は31館であったが、その後、年々増え、平成18年3月末現在では52館になっている。当館が事務局をつとめている。

●17年度事業

①役員会の開催

6月8日（水）、徳島県立博物館応接室にて開催した。

②総会の開催

日時：6月8日（水）14：30～16：30

場所：徳島県立博物館講座室

議事：16年度事業報告並びに決算報告

監査報告

17年度役員選出

17年度事業計画並びに予算案

会則の改正

その他

講演：篠雅廣氏（高知県立美術館長）

「ミュージアムの危機管理と地域社会」

③加盟館園の職員状況と入館者数一覧を作成して配布した。

④徳島県博物館協議会ニュースの発行

No.19、20、21を発行・配布した。

⑤研修会の開催 参加者45名

日時：18年2月28日（火）13：00～16：30

場所：松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館
内容：施設見学および講演会

講演：松下師一氏（松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館主任学芸員）

「松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館の運営方針と実践－「松茂文化」の向上と学校教育支援－」

⑥博物館マップの改訂・発行

博物館マップを改訂し、6月に発行した。市町村合併に伴い、次期マップの作成委員会も開催した。

改訂した博物館マップをホームページに掲載した。

⑦先進地の博物館施設の調査 参加者19名

日時：11月9日（水）8：30～18：00

訪問先：北淡震災記念公園野鳥断層保存館及び洲本市立淡路文化史料館

(3) 人権資料・展示全国ネットワーク

人権資料・展示全国ネットワーク（略称「人権ネット」）は、人権確立のための研究、教育、啓発に寄与することを目的に、人権に関する資料の収集保管、調査研究、展示等を行う博物館、資料館、人権センター、研究所等により、平成8年に結成された。現在、35機関・団体が加入している。

平成17年度は、第10回総会（10月16～17日）が熊本県水俣市で開催され、21機関・団体から31名の参加があった。

当館は発足時から加入しており、総会に職員を派遣してきたほか、加入機関・団体との個別的な協力も行っている。また、第10回総会において、事務局構成団体に入ることが決まった。

(4) 西日本自然史系博物館ネットワーク

平成12・13年度に文部科学省の委嘱を受けて行われた環瀬戸内地域自然史系博物館ネットワーク推進事業の継承と発展をはかるため、大阪市立自然史博物館および兵庫県立人と自然の博物館の主導により、個人参加によるゆるやかな連携組織としてNPO法人西日本自然史系博物館ネットワークが平成16年4月27日付けで設立された。17年12月末時点で34館園・団体の学芸員等74名（当館からは3名）が参加している。

平成17年度（事業年度は1月～12月）は、インターネットGIS（いきものマップ）事業の推進、友の会サミットの開催、学芸員技術講習会（鳴く虫聞き分け講座）の開催、超高解像度人間大昆虫写真展の巡回（国際花と緑の博覧会記念協会等との共催）、広島「自然の博物館」をつくる会シンポジウムへの協力等の事業が行われた。

Ⅵ 情報の発信と公開

博物館を有効に活用する利用者が増えるよう、博物館活動に関する様々な情報を発信していくことは博物館にとって非常に重要な活動である。最近インターネットによる情報発信も重要な手段になっている。

博物館の事業の広報に留まらず、様々なメディアを通じて積極的に情報を発信するよう努めている。

1. 博物館の広報活動

博物館ニュース・企画展ポスター・年間催し物案内リーフレット・月間催し物案内等の定期的発行と配布、県庁だよりへの掲載、県庁記者クラブを通じての資料提供、催し物案内の電子メールサービス等により、博物館の事業の広報活動を行っている。

●博物館ニュース、ポスター等の主な県内定期発送先

小学校	236ヶ所
中学校	93
高等学校・その他学校	54
学会・研究所・同好会等	102
県および県教育委員会各課・機関	62
市町村教育委員会	24
公民館・隣保館	226
市町村および大学図書館	32
博物館施設	441
宿泊施設	38
報道関係機関等	77

●催し物案内の電子メールサービス

登録者（18年3月末現在の登録者251名）

●報道機関への資料提供

17年度は次のような資料提供を行った（各月の催し物あんない以外）。

- 4月1日 平成16年度3月期の購入資料について
- 4月15日 『思い出のランドマーク』写真募集について
- 4月6日 部門展示「徳島城下町」の開催について
- 4月22日 「県立博物館子どもの日フェスティバル」の開催について
- 6月1日 部門展示「阿波忌部の世界」の開催について
- 7月5日 企画展「絶滅一生きものはなぜ滅びるのか？」の開催について
- 7月8日 移動展示「写真に撮られた出羽島のくらしー写真民俗誌の試み」の開催について

8月2日 部門展示「旅行みやげー土鈴・郷土玩具」の開催について

8月19日 「昆虫パラタクソノミスト養成講座(初級)の開催について

8月26日 平成17年度文化庁芸術拠点形成事業「元気な博物館づくりプロジェクトー親しまれる博物館をを目指す評価手法の開発ー」の実施について

9月16日 「博物館Vキング」ーボランティアスタッフが贈る秋の博物館まつりーの開催について

10月6日 企画展「ふるさと再発見ー15の人・もの・場所ー」の開催について

10月11日 部門展示「博物館の誕生」の開催について

10月31日 文化の日フェスティバル「博物館Vキング」の開催について

12月6日 特別陳列「トクシマ・木工芸の道具と技」の開催について

1月18日 特別陳列「失われた交通路 吉野川の渡し」の開催について

2月15日 シンポジウム「博物館と地域のこれからを考える」の開催について

3月3日 トピック展示「朱の精製の広がりー若杉山遺跡とその周辺ー」の開催について

●企画展の新聞広告

企画展の広報として、徳島新聞に広告を出した。(各1回)

●文化の森橋への懸垂幕の設置

企画展の広報として、県に都市公園占用許可申請をして、企画展の期間中、文化の森橋に懸垂幕を設置した。

2. テレビ・ラジオへの出演等

博物館事業のPR等のためのテレビ・ラジオへの出演等を、月日・出演者・内容の順に記す。

5月31日 佐藤陽一 四国放送テレビ「530フォーカス徳島」(今切川で目撃されたエイについて)

6月3日 小川 誠 四国放送テレビ「おはようたくしま」(吉野川で見つかった帰化植物メリケントキンソウについて)

6月12日 魚島純一 四国放送ラジオ出演「サンデーウエーブ」(トピック展示「きみは万博を見たか?」

の紹介)

- 8月18日 佐藤陽一 四国放送テレビ「朝630」(企画展「絶滅」の紹介)
- 8月21日 魚島純一 ケーブルテレビ徳島「フレッシュ情報局」(普及行事『火おこし』)
- 8月21日 魚島純一 四国放送テレビ「530フォーカス徳島」(普及行事『火おこし』)
- 11月10日 小川 誠 四国放送テレビ「おはようとしま」(勝浦川のフジバカマについて)
- 12月22日 佐藤陽一 四国放送テレビ「530フォーカス徳島」(2006年度 ナカちゃんはどうなるのかの予想)
- 3月14日 佐藤陽一 四国放送テレビ「530フォーカス徳島」(徳島県版レッドデータブック絶滅危惧種スナヤツメについて)

3. インターネットによる情報提供

(1) 電子メール

希望者には電子メール(以下メール)による催し物案内を毎月行っている(17年3月末現在の登録者251名)。
また、ホームページ等を見た人からの質問もメールで寄せられており、各担当より回答を行っている。平成17年度には記録されたものだけで44件の問い合わせが寄せられている。

(2) ホームページ

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でもその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。平成11(1999)年7月よりホームページ <http://www.museum.comet.go.jp/> を開設した。トップページ(図1)のアクセス数の累計および1日あたりのアクセス数は図2のとおりである。どちらも順調に増加しており、平成17年度1年間でトップページに約35,600件のアクセスがあり、前年の9%増となっている。

ホームページの内容は下記のとおりである。

- ・博物館の紹介(開館日・交通案内など)
- ・展示案内(企画展、常設展)
- ・催し物、普及行事の案内
- ・調査研究活動の紹介
- ・収集保存活動(データベース)
- ・学校等への利用案内
- ・出版物(展示解説、研究報告、博物館ニュースなどの案内)
- ・関連活動紹介(友の会、博物館協議会など)
- ・学芸員関連のページ

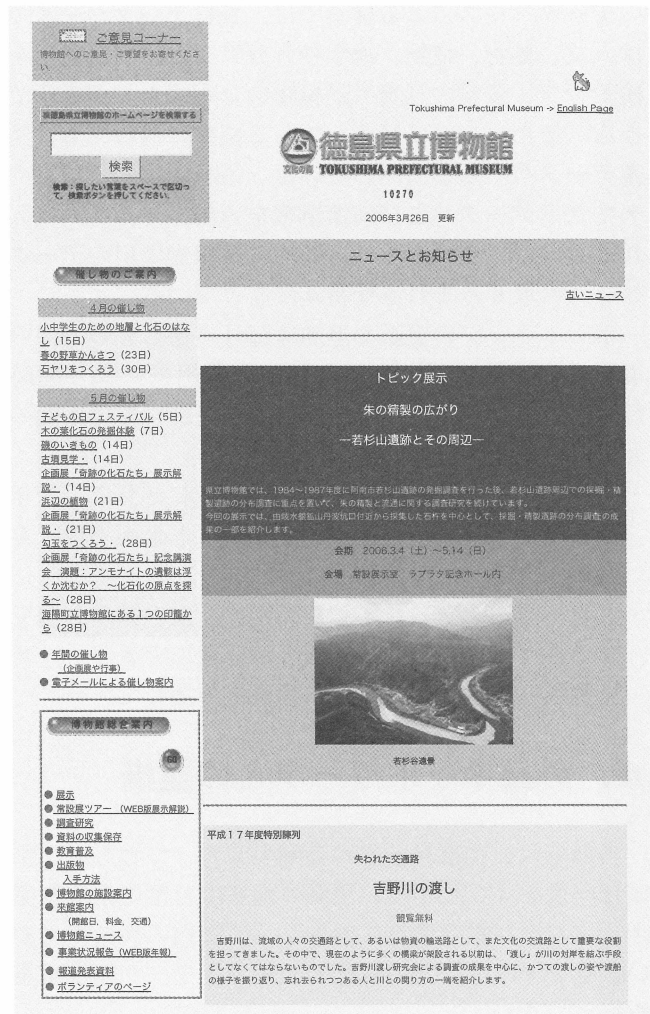


図1 トップページ

・特別メニュー(子供向けメニュー、映像コーナーなど)

ホームページには内容の全文検索やサイトマップを設置し、閲覧者が目的の内容にたどり着きやすくしている。全文検索についてはシソーラス(同義語)辞書を用いて、たとえば、「やまざくら」、「山桜」、「ヤマザクラ」などの言葉で、検索しても検索できるようにしている。

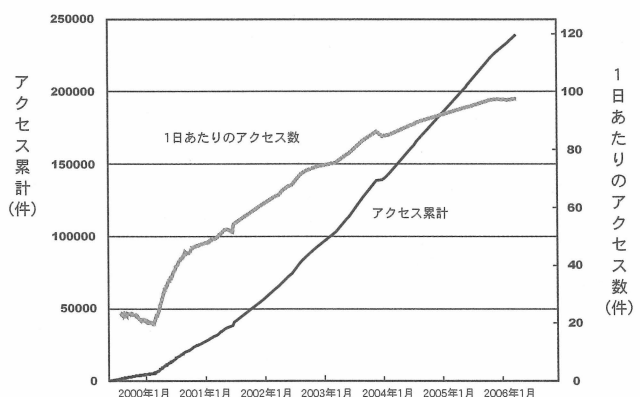


図2 アクセスマン

データベースによる検索では、資料データベースでは人文、動物、植物、地学の各分野ごとに収蔵資料を検索でき、資料の写真や動植物の分布図などが表示できる。また、当館に収蔵している図書についても、図書データベースを公開している。情報提供する項目のテキストデータおよび画像情報を専用フォルダーに入れておけば、夜のうちに自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

ホームページの更新や追加は毎月の催しもの案内のように定期的に行うもののほか、各担当により随時行っている、平成17年度の追加内容については下記のとおりである。

- ・「イベント企画運営スタッフの活動」として、今年度行ったボランティアによるイベント企画の様子を掲載した。
- ・ブロードバンドに対応した高精度画像の試みとしてブラウザ上で画像の拡大縮小が任意にできるツールを利用し、植物写真や標本画像を公開した。

4. 外部ネットワークとの連携

当館では、文部科学省の委嘱事業の一つとして、平成12年度および13年度に環瀬戸地域内自然史系博物館ネットワーク推進事業に参加し、博物館の横断検索やいきものマップなどの外部とのネットワーク連携事業を行ってきた。

平成17年度は国立科学博物館が行っている自然系博物館における収蔵品データ整備事業に参加し、更なる連携を深めた。事業の内容は全国の科学系博物館のホームページの内容の横断検索で、サイエンスミュージアムネット (<http://science-net.kahaku.go.jp/j>) で160館以上のホームページを一度に検索することができる。また、収蔵品データの検索も準備されており、当館からは赤澤時之維管束植物コレクションと徳島県産淡水魚類コレクションのデータを整備し提供した。日本語の検索およびGBIF (Global Biodiversity Information Facility: 地球規模生物多様性情報機構) のデータとしても横断検索できる予定である。

5. 情報システムの更改

平成17年度は4期目となるCOMET (徳島県文化・学習情報システム) のコンピュータシステム更改が行われ、それに伴う博物館システムの更改作業を行った。

(1) システムの構成

博物館のコンピュータシステムは、職員が日常的に使う業務用、来館者や館外者が利用する情報提供用の2つに大別できる。博物館システムの更改については次のような方針で望んだ。

- ・博物館の業務システムは基本的に現状をベースに改良を加える。
- ・情報提供はインターネットを用い、ブロードバンド (大容量通信) や携帯電話等の新しい通信手段に対応する。

その結果、次のような構成で4期システムを運用することになった。

a) 業務用システム

業務用システムでは、コンピュータ室・研究室・作業室・収蔵庫・事務室等をイーサネット (1000 BaseT) のLANでつないだ。ファイルサーバ (MacOS Xサーバ) とデータベースサーバ (FileMaker Server 8) の2台のサーバを設置した。サーバのデータは、21世紀館に常駐するSEによって毎日バックアップがとられている。職員1人に1台の端末を配置し、データベースやファイルを共有している。これらの端末は、作業の内容に応じた仕様となっており、たとえば収蔵庫では常設の端末ではなくノート型パソコンを活用している。

b) 情報提供用システム

情報提供用としては、Linuxサーバを用いて、WWWサーバと資料データベースを構築した。また、文化の森で共通で使用される全文検索用サーバを1台設置した。さらに、柔軟なデータベース公開ができるように

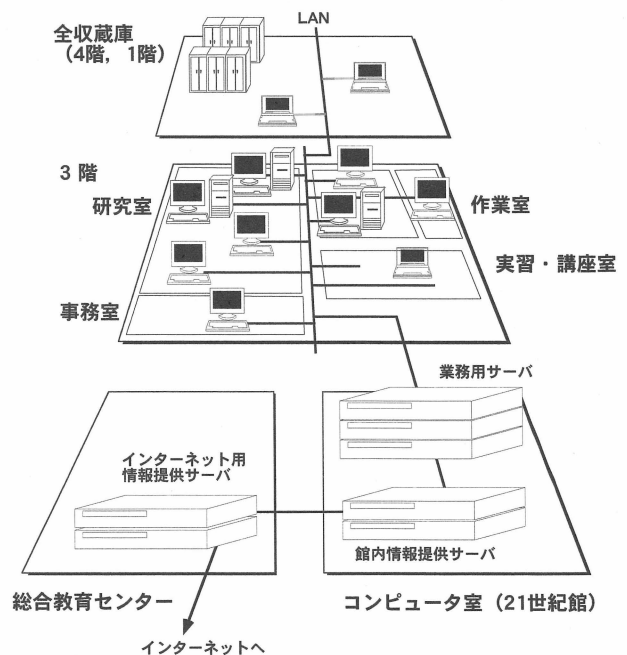


図3 新システム構成図

MacOS X サーバと FileMaker Server 8 Advanced による Web データベースを構築した。インターネットの回線が徳島県教育総合センターに集約されたために、これらの情報提供用サーバを2組用意し、館内用は文化の森のコンピュータ室に、外部（インターネット）用は教育総合センターに設置し、館内用サーバから自動的にデータが更新される仕組みを用意した（図3）。

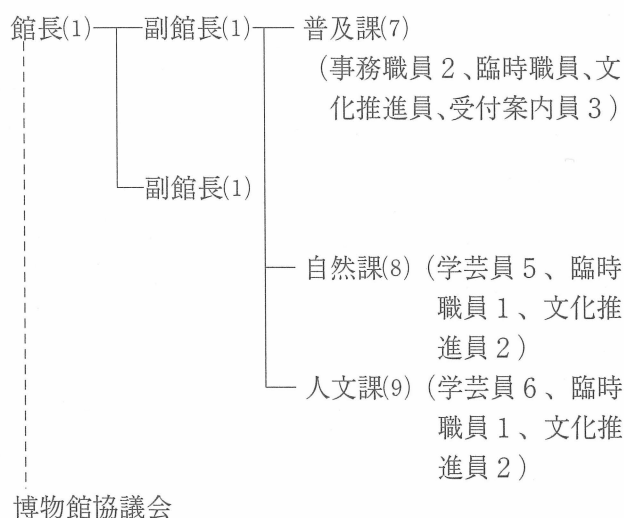
(2) 新システムの運用とデータの移行

新システムは2006年3月27日から運用が開始された。ドメイン名が comet.go.jp から tokushima-ec.ed.jp に変更になり、ホームページのアドレスは <http://www.museum.comet.go.jp/> から <http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/> に変更になった。あわせて職員のメールアドレスも変更になった。このため、ホームページのメールアドレスやリンクの書き換えが必要となった。

Ⅶ 管理運営・マネジメント

1. 組織・職員

(1) 組織図 (平成18年5月1日現在)



(2) 職員名簿 (平成18年5月1日現在)

館長	長	両角 芳郎
副館長	長	吉田 廣
副館長兼自然課長		大原 賢二

<普及課>

普及課長 (吉田副館長の兼務)

係長	幸坂 敏行
事務主任	鈴木 康司
臨時補助員	吉田 英司
文化推進員	市原 孝枝
受付案内員	尾崎 敏美
〃	河野 怜子
〃	石山 昌代

<自然課>

自然課長	(大原副館長 (動物) の兼務)
専門学芸員	佐藤 陽一 (動物)
主任学芸員	小川 誠 (植物)
〃	中尾 賢一 (地学)
学芸員	茨木 靖 (植物)
〃	辻野 泰之 (地学)
臨時補助員	田代 優秋
文化推進員	武田 佳子
〃	廣澤 祥子

<人文課>

人文課長	高島 芳弘 (考古)
主任学芸員	大橋 俊雄 (美術工芸)
〃	長谷川賢二 (歴史)
〃	魚島 純一 (考古・保存科学)
〃	庄武 憲子 (民俗)
学芸員	磯本 宏紀 (民俗)
臨時補助員	佐藤 麻衣
文化推進員	尾方めぐみ
〃	坂島美津子

(3) 人事異動

退職：田邊 力・主任学芸員、平成17年12月31日付退職、熊本大学教育学部へ

山川 浩實・人文課長、平成18年3月31日付定年退職

<平成18年4月1日付異動、カッコ内は前職>

転出：森口 正一・主幹兼総務課長、教育委員会事務局福利厚生課主幹へ

川田 純子・事務主任、21世紀館事務主任へ

古東 謙司・主事、小松島中教諭へ

転入：鈴木 康司・普及課事務主任 (小松島中教諭)

昇格：高島 芳弘・人文課長 (専門学芸員)

(4) 平成17年度非常勤・臨時職員

●臨時補助員

宮城 佳代	(平成17.4.1～18.3.31)
市原 孝枝	(平成17.4.1～18.3.31)
埴淵 裕子	(平成17.4.1～18.3.31)

●文化推進員 (非常勤特別職)

新居 京	(平成15.4.1～18.3.31)
武田 佳子	(平成17.4.1～)
尾方めぐみ	(平成17.4.1～)
坂島美津子	(平成17.4.1～)
廣澤 祥子	(平成17.5.1～)

●受付案内員 (非常勤特別職)

鈴木 真弓	(平成15.4.1～18.3.31)
北西 奈々	(平成15.4.1～18.3.14)
飯沼 美喜	(平成15.5.1～)
尾崎 敏美	(平成15.11.1～)
河野 怜子	(平成16.4.1～)

●平成17年度博物館費（2月現計予算額）

（単位：千円）

科 目	予 算 額 計	管 理 運 営	展 覧 事 業	調 査 研 究	資 料 収 集 保 存	普 及 教 育
報 酬	27,490	27,490				
賃 金	6,555	6,555				
報 償 費	925	0	350	325	0	250
旅 費	5,447	671	1,626	2,585	465	100
需 用 費	26,315	3,143	13,350	3,558	4,480	1,784
役 務 費	12,655	1,595	8,049	464	1,782	765
委 託 料	13,630		3,615	480	9,535	
借 損	920	566	100	0	74	180
備 品 費	8,306	1,562	640	1,604	4,500	0
負 担 金	149	81	0	68	0	0
計	102,392	41,663	27,730	9,084	20,836	3,079

石山 昌代（平成16.9.1～ ）
 古東 由加（平成17.2.1～18.2.18）
 福島 千晶（平成17.2.1～18.3.31）

●徳島県立博物館協議会委員名簿

（平成18年3月31日現在）

区 分	氏 名	役 職 等
学校教育	野崎 知子	県小学校教育研究会理科部副会長 伊沢小学校校長
	藤田 憲夫	県中学校社会科教育研究会会長 貞光中学校校長
	計盛眞一朗	県高等学校教育研究会地歴学会副会長 勝浦高等学校教頭
社会教育	澤田 英敏	徳島市立徳島城博物館館長
	一山 典	徳島市考古資料館館長
	大石 雅章 （副会長）	鳴門教育大学教授
学識経験	中村 昌宏 （会長）	徳島文理大学教授
	佐野佳代子	四国放送報道制作局美術部部長代理
	友滝 洋子	藍住町国際交流協会会長
	田中 育代	車いすテニスサークル「フィフ ティーン・ラブ」選手

2. 予 算

2月現計予算額（2月補正後の予算額）を上表に示す。

3. 博物館協議会

博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

17年度は協議会を1回開催した。

●17年度博物館協議会

日時：平成17年8月19日（金）13：30～16：00

会場：博物館講座室

- 議事 (1) 平成16年度事業の実施状況について
 (2) 平成17年度予算及び事業概要について
 (3) その他

4. 県民参加の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討

(1) ボランティア企画型行事の実施

普及関係の所でも紹介したが、より新しい視点からの博物館の利用促進を図るための試みとして、県民参

加による常設展示室を使った企画事業を進めることになり、9月23日（秋分の日）と11月3日（文化の日）に常設展示室内でイベントを開催することを目標にして、博物館職員といっしょにイベントの企画運営に携わるボランティアを公募し、活動を行った。

応募者は13名で、5月から8月にかけて月2回程度の会合を持ち、ボランティアスタッフを中心に企画案の創出から、企画の決定、企画に必要な道具の準備、作成、広報など一連の作業を進め、下記のイベントを開催した。

ボランティア参加者からは、活動を通して博物館をより深く知ることができたことや、自身の特技を活かしたイベントを開催できて楽しめたなど、おおむね好評の意見を得た。今後、今回の成果を継承・発展していくための取り組みを考える予定である。

●博物館Vキングー博物館ボランティアスタッフが贈る秋の博物館まつりー

日時：平成17年9月23日（金）秋分の日
9：30～16：00

場所：博物館常設展示室・博物館実習室

内容：楽しい館☆ものしりクイズ
和歌（うた）で詠む博物館
木と葉で昆虫づくり
変身!! 古代ヘタイムスリップ
食べてみませんか？古代の食事
あなたも化石発掘名人
海藻おしばをつくろう

参加者：886名



木と葉で昆虫づくり

●文化の日フェスティバル 博物館Vキングー博物館とボランティアスタッフが贈る秋まつり第2弾ー

日時：平成17年11月3日（木）文化の日
9：30～16：30

場所：博物館常設展示室・博物館実習室

内容：楽しい館☆ものしりクイズ
和歌（うた）で詠む博物館
フルカラーLEDで貝のアクセサリーをつくろう（阿南工業高等専門学校協賛）
変身!! 古代ヘタイムスリップ
食べてみませんか？ドングリクッキー
あなたも化石発掘名人
レプリカ作りと拓本どり
スケッチ大会

参加者：1,237名



拓本どり

(2) 昆虫パラタクソノミスト養成講座

生物分類学や生物多様性研究、環境調査、環境教育等の分野で、自然史系の学術標本・サンプルを正しく同定し、整理する能力を有する者で、博物館や環境調査・教育において必要とされる人材「準自然分類学者（＝パラタクソノミスト）」が求められる機会が多くなっている。

北海道大学では文部科学省21世紀COEプログラム事業（卓越した拠点づくり）の一環として、平成15年度から各種の「準自然分類学者（＝パラタクソノミスト）養成講座」を開催している。こうした講座の受講については徳島県技術士会等からも要望があったように、大学に自然史系を持たない県内ではいろいろな分野で、かなり需要があると考えられる。そこで、この講座を北海道大学総合博物館と連携して徳島でのサテライト講座の実施検討を行った。

その結果、北海道大学の了解を得て17年度に開催することが許され、9月に昆虫分野での講座を実施した。

講座名：昆虫パラタクソノミスト養成講座（初級）
主催：徳島県立博物館・北海道大学総合博物館
日時：平成17年9月17（土）～18日（日）
場所：博物館実習室・文化の森総合公園

内容：・昆虫類の採集方法と基本的な標本作製技術の修得をめざす。

・目 (order) までの同定ができるように昆虫分類の基礎の修得をめざす。

対象：一般・学生（高校生以上）で、昆虫類の標本作製や分類等に関心があり、2日間とも受講できる者。

参加者：18名

5. 平成17年度文化庁芸術拠点形成事業「元気な博物館づくりプロジェクト」の実施

平成17年度文化庁芸術拠点形成事業として申請していた「元気な博物館づくりプロジェクト—親しまれる博物館を目指す評価手法の開発—」が採択された。

このプロジェクトは、当館で取り組んでいる中期活動目標にもとづく自己点検・評価に加えて、利用者の視線を付加させた博物館評価の手法を開発することで、多くの人に親しまれる文化・学習拠点としての博物館を実体化させるための道筋を考えることを目的としたものである。

申請に先立って鳴門教育大学・徳島文理大学・県立近代美術館・県立文書館と連携して「元気な博物館づくりプロジェクト実行委員会」を設立しており、そこを実施主体として取り組んだ。また、県内の学芸員等による自主研究団体である徳島博物館研究会とも連携した。

事業内容は次のとおりである(実施期間：8月1日～3月15日)。



実行委員会

文化庁芸術拠点形成事業 元気な博物館づくりプロジェクト

シンポジウム

博物館と地域のこれからの考える

2006.3.5 (日) 13:30 ~ 16:30

主催 元気な博物館づくりプロジェクト実行委員会・徳島県立博物館

21世紀に生きる博物館の課題をさぐる：

- アンケート調査から見た博物館の意義と課題
- 長谷川賢二(徳島県立博物館主任学芸員)
- 市民の拠点としての博物館に求められるもの
- 山本 準(実行委員会副会長・鳴門教育大学教授)
- 若者と博物館
- 中村 昌宏(実行委員会副会長・徳島文理大学教授)
- 複合文化施設の可能性
- 仲田 耕三(実行委員・県立近代美術館専門学芸員)

会場 文化の森・21世紀館イベントホール

徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町西山 文化の森総合文化センター
電話 0878-256111(内線)
URL http://www.museum.tokushima.ac.jp

シンポジウム案内チラシ

● アンケート調査の実施

博物館が県民の生涯にわたる学習プロセスの中にもどのような位置を占めているのかということを探ることで、博物館の社会的役割の現状把握を試み、博物館利用の質的な意義を明らかにしようとして実施した。当館を含む文化の森内、高校・大学、近隣の博物館等で調査を行い、徳島県内在住者からの1,358件の回答を分析対象とした。その結果、利用者像が明確になるとともに、多くの情報(例えば、幼少期の博物館利用の重要性がうかがえることなど)が得られた。

● シンポジウムの開催

上記のアンケート調査の結果を公にするとともに、今後の当館のあり方について検討する場としてシンポジウムを開催した。

日時：平成18年3月5日(日) 13:30~16:45

会場：文化の森・21世紀館イベントホール

内容：テーマ「博物館と地域のこれからの考える」
趣旨説明 両角 芳郎(実行委員会会長・館長)
アンケート調査から見た博物館の意義と課題
長谷川賢二(実行委員・主任学芸員)
市民の拠点としての博物館に求められるもの
山本 準(実行委員会副会長・鳴門教育大学教授)
若者と博物館
中村 昌宏(実行委員会副会長・徳島文理大学教授)
複合文化施設の可能性
仲田 耕三(実行委員・県立近代美術館専門学芸員)



シンポジウム風景

パネルディスカッション

コーディネーター

大石 雅章(実行委員・鳴門教育大学教授)

コメンテーター

松下 師一(徳島博物館研究会代表・松茂町歴史民俗資料館主査兼主任学芸員)

参加者：60名

●報告書の刊行

上記の調査やシンポジウムの内容をまとめた冊子を刊行した。

体裁：A4判、150ページ

構成：序一元気な博物館づくりへの道

第1章 元気な博物館づくりプロジェクトの経過

第2章 アンケート調査から見た徳島県立博物館の意義と課題

第3章 博物館と地域のこれからを考える

参考資料 徳島県立博物館の中期活動目標と自己点検・評価

発行部数：1,000冊

6. 視察等博物館関係来訪者

- 5月26日 JICA 青年招聘事業(フィリピン教育代表团)一行 33名
- 5月31日 JICA 青年招聘事業(東南アジア諸国教育関係者)一行 23名
- 6月3日 鳥居龍蔵を考える会 鳥居貞義氏ほか2名
- 7月10日 NPO 法人四国自然史科学研究センター一行 7名
- 7月25日 京都大学大学院理学研究科教員および北京大学教官・学生一行 16名
- 11月16日 徳島大学総合科学部長 和田 眞氏ほか3名
- 12月14日 文化庁文化財部記念物課文化財調査官 清野孝之氏
- 1月23日 東京人権啓発企業連絡会関係者 3名
- 1月24日 八尾市人権協会 笠原秀己氏
- 1月25日 福岡県人権啓発情報センター 松尾正美氏
- 1月27日 神戸大学教授 高橋昌明氏
- 2月23日 東京女子大学教授 水藤 真氏
- 3月2日 鹿児島県立博物館学芸主事 中峯浩司氏
- 3月5日 衆議院議員 後藤田正純氏
- 3月29日 国立歴史民俗博物館助手 上野祥史氏

VIII 中期活動目標と自己点検・評価

徳島県立博物館の中期活動目標

平成16年9月9日策定

中期活動目標の目的

徳島県立博物館（以下「県博」という。）は、「徳島県立博物館基本構想」（昭和59年1月）に基づいて設置された。この基本構想には県博の基本理念と基本的性格が次のように示されており、これらが県博の活動の目標・指針となってきた。

<基本理念>

- ①郷土に根ざし世界に広がる博物館――徳島の自然、歴史、文化の資料を総合的に展示し、全国的・世界的なかかわりについても理解できる施設
- ②開かれた博物館――博物館の活動に県民のだれでもが参加でき、楽しみながら学び、考え、豊かな知識を高めることのできる施設
- ③研究を大切にする博物館――学術的な調査研究、資料の収集を通して、常に新しい展示と情報を広く提供する施設
- ④文化財を守り自然の保全をめざす博物館――県民の貴重な文化的資料を永久に保管するとともに、文化財と自然の保護に努める施設

<基本的性格>

- ①人文科学（考古、歴史、民俗、美術〈近代美術を除く〉）・自然科学（動物、植物、地学）の両者が有機的に結びついた総合博物館とします。
- ②収集保存、調査研究、展示、普及教育の4つの機能を備え、本県の文化、学術、教育及び生涯学習センターとしての役割を果たします。
- ③国内外の博物館、研究機関等と緊密な協力体制をとります。

また、文化の森総合公園に建設が予定されている民家資料展示場、植物園等の施設はもちろん、県内の博物館、博物館相当施設、類似施設等と相互協力し、その中核的博物館としての性格をもつものとします。

これらの「基本理念」及び「基本的性格」は今でも県博の指針であることには変わらない。しかしながら、生涯学習社会の進展等に伴う最近の博物館をとりまく状況の急速な変化に伴い、博物館に対して学校教育支援、社会貢献、博物館活動への県民参画等の新たな課題への取り組みが求められるようになった。その一方で、財政状況の悪化による運営予算の削減、事業評価、公的施設の運営の見直し等も進められている。こうした状況を踏まえ、「博物館の望ましい姿」についての議論に基づき県博が今後5年間（平成16年度～平成20年度）に推進すべき活動の目標（中期活動目標）を明確にするとともに、活動の点検・評価を行う際の評価指標を示して共有することとした。この目標に沿って計画的に活動を推進し、点検・評価を行うことにより、博物館活動の改善・活性化を図ることとしたい。

中期活動目標の構成

中期活動目標では、県博の果たすべき機能を従来の4つ（資料収集保存、調査研究、展示、普及教育）に新たに社会貢献、情報の発信、マネジメント（経営）を加えた7分野に整理・区分し、それぞれに数項目の活動目標を掲げるとともに、活動を評価する際の評価指標、指標の目標値を設定した。各評価指標には、年次あるいは計画年度（5年）を通じての目標値を設けることが望ましいが、博物館評価には必ずしも数的評価にはなじまない内容も多く含まれることから、全ての評価指標に目標値を設けるには至っていない。今後、順次改訂して行きたい。

中期活動目標の推進方法

- ①中期活動目標は、博物館協議会での協議を経た上で公表する。
- ②それぞれの活動目標に基づき、館内で具体的な取り組みの年度・年次計画を立てて活動を行う。
- ③年度末に活動実績の評価指標に基づく自己点検・評価を行い、結果を年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動計画に反映させる。
- ④活動実績および自己点検・評価の結果を博物館評議会に報告して議論していただき、外部評価意見として年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動の改善に役立てる。

1. 資料の収集・保存と活用

資料の収集・保存は、博物館の最も基本的な機能です。様々な方法で徳島及び関連する地域の自然や歴史、文化に関する資料の継続的な収集を行います。また、収蔵資料は社会の公共的な財産として安全に保管し、次世代に伝えるとともに、その活用を図ります。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の目標値	14年度実績	15年度実績
1-1 継続的な資料の収集	資料収集方針に基づき、採集・購入・寄贈等による継続的な収集を進め、バランスのとれた特色あるコレクションづくりを行います。	収蔵資料点数	2008年度末で50万点	445,811点	454,853点
		寄贈資料件数	80件/年	77件	93件
		受入図書冊数(雑誌類以外)	400冊/年	419冊	339冊
1-2 寄託の受け入れ促進	県内の貴重な資料の安全な保管と展示公開の促進を図るため、資料の寄託の受け入れを促進します。	新規寄託受入件数	10件/年	9件	12件
1-3 収蔵資料データベースの整備	収蔵資料の整理・登録を進めるとともに、収蔵資料データベースの整備を図ります。	収蔵資料D B登録率	2008年度末で100% (昆虫、植物を除く)		
1-4 資料の適切な保管	収蔵庫や展示室の定期点検、資料の燻蒸等により、収蔵資料の安全な保管を図ります。	収蔵庫等の点検回数	10回/年		
1-5 収蔵資料の活用の促進	資料の特別利用(閲覧、撮影・出版物掲載、貸出ほか)等による収蔵資料の活用を図ります。	資料特別利用件数	50件/年	45件	40件
1-6 常設展示室の資料保存環境の改善	常設展示室での安全な資料の保存環境を確保するため、空調に除湿機能を付加するよう関係方面に働きかけます。	常設展示室空調改善の検討状況			
1-7 収蔵スペース確保の検討	将来の収蔵資料の増加に備え、収蔵スペースの確保に向けた方策を探ります。	収蔵スペース確保の検討状況			

2. 調査研究

調査研究は、博物館活動の学術的基盤となる重要な機能です。徳島及び関連する地域の自然や歴史、文化に関する基礎的な調査研究、資料の保存や展示、普及教育活動等に関する博物館学的調査研究を行うとともに、成果の博物館の諸活動へのフィードバックを図ります。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の目標値	14年度実績	15年度実績
2-1 調査研究活動の強化	調査研究方針に沿って課題調査及び分野別調査研究等を積極的に行い、徳島県における自然史・人文科学及び博物館学の中核を担う水準を維持します。	課題調査実施状況		4件(外部との共同4)	3件(外部との共同3)
		個別調査研究の実施状況			
2-2 調査研究成果の公表	研究報告の出版のほか、学術論文、著述、学会発表等により調査研究成果を公表するとともに、展示や普及教育活動を通じて成果の活用を図ります。	学術論文数	10本/年	5+研報6本	6+研報8本
		図書・雑誌等の一般著述	50本/年	48本(普及記事含む)	58本(普及記事含む)
		学会・研究会での発表	25回/年	26回	26回
2-3 外部研究機関等との連携の推進	他の博物館や大学、研究団体、学会等との連携による共同研究等を積極的に進めます。	共同研究プロジェクト数	10件/年	4件(課題調査以外)	7件(課題調査以外)
2-4 県民参画型調査研究の推進	調査研究活動にも県民が参画できるよう、県民参画型調査等のプロジェクトを企画します。	県民参画型調査の実績		79キマウのマーキング調査	79キマウのマーキング調査
2-5 外部資金の獲得による研究活動の推進	科学研究費補助金や民間の研究助成金等の外部資金を獲得し、研究活動の推進とレベルアップを図ります。	科研費申請・採択数	申請7・採択1件/年	0件	申請1・採択1(奨励)
		民間研究助成金獲得状況		0件	0件

3. 展示

実物資料や最新の情報に基づき、徳島及び関連する地域をはじめ世界の自然や歴史、文化について幅広く展示し、楽しく学べ、新しい発見や家族のふれあいのきっかけとなる場を創出します。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の目標値	14年度実績	15年度実績
3-1 常設展の改善・充実	新しい資料の追加、研究成果の反映、展示技法の改善などにより、常設展の改善・充実を図ります。	常設展観覧者数	40,000人/年	37,349人	39,797人
		観覧者のリピーター率		13年度65%、以降のデータなし	
		観覧者の満足度	70%	13年度88%、以降のデータなし	
		展示改善の実施状況			5件
3-2 多様なテーマの企画展の計画的開催	収蔵資料の特色や調査研究成果を活かすとともに、県民のニーズを反映しながら、多様なテーマの企画展を計画的に開催します。	企画展観覧者数	15,000人/年	13,325人(3回)	24,877人(3回)
		観覧者の満足度	80%		
		企画展の検討状況			
3-3 収蔵資料の公開促進と企画展示室の有効利用	企画展のほか、特別陳列、部門展示(人文)、トピック展示等の多様な展示を行うことにより、収蔵資料の公開促進と企画展示室の有効利用を図ります。	特別陳列等の開催回数	10回(特3・部4・ト3)	10回(特4・部5・ト1)	12回(特4・部5・ト3)
		企画展示室活用回数	企画展以外に1回/年	2回(特陳)	1回(特陳)
3-4 館外での展示の促進	移動展、パッケージ展示の貸出等により、館外での展示を促進するとともに、県内の博物館施設を支援します。	移動展等の実施状況	1回/年	1回(昆虫の世界)	0回
		パッケージ展示の貸出数	1件/年	0回	1回(海南町立博・化石)

3-5	展示解説等の推進	図録や解説書の発行，学芸員や受付案内員による展示解説等により，観覧者が展示を理解し楽しめるよう手助けします。	図録等の発行状況 展示解説等の実施状況		企画展図録3 企画展・特陳解説12回 クイズラリー（第2・4上）	企画展図録2 企画展解説6回 クイズラリー（第2・4上） びっくり箱を使った解説
3-6	常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	開館20周年（平成22年）での常設展のリニューアルを目標に，館内での検討を進めるとともに，関係方面の理解が得られるよう努力を継続します。	リニューアルに向けての進捗状況		先進館調査1館	先進館調査2館

4. 普及教育

取蔵資料や学芸員の能力を活かし，自然や歴史，文化について体験したり，楽しく学ぶことができる多様な学習機会を提供することにより，県民の生涯学習を支援します。また，学校教育を積極的に支援します。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の目標値	14年度実績	15年度実績
4-1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	県民のニーズに対応した多様な普及行事を企画し，多様な学習機会を提供します。また，移動講座等のアウトリーチ活動にも積極的に取り組みます。	普及行事実施回数	70回/年	70回	72回
		普及行事参加者数	3,000人/年	3,414人	4,501人
		参加者の満足度	満足した者の割合80%		
		アウトリーチ活動数	3回/年	移動講座4回	移動講座2回
4-2 学校教育支援事業の推進	学校への資料貸出，出前授業，教員研修や職場体験の受け入れ等により，学校教育を支援します。	学校教育支援事業件数	出前授業15件/年 資料貸出15件/年 その他 20件/年	11件 12件 18件	18件 10件 19件
		教員・生徒の満足度	80%		
		ガイドブックの出版等の促進	身近な自然や歴史，文化に関する理解を手助けするため，ガイドブックの出版や，新聞・雑誌等への解説記事の執筆を進めます。	ガイドブック出版状況 普及記事の執筆数	1冊/年 20件/年
4-4 友の会活動の充実と活性化	友の会の指導・育成に努めるとともに，自主的な活動を支援し，友の会活動の充実，活性化を図ります。	友の会会員数	500人/年	425人	419人
		会員の継続率	前年度会員の70%		73%
		友の会行事実施回数	10回	12回	10回
		常設展・企画展観覧者率	50%		27.6%

5. シンクタンクとしての社会貢献

博物館は，博物館活動を通じて様々な資源（資料・情報・学芸員の知識）を蓄積しているシンクタンクです。これらを活用し，自治体や地域社会，学会等の事業推進に貢献します。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の目標値	14年度実績	15年度実績
5-1 レファレンス利用者の拡大	来館による相談のほか，手紙や電話，メールでの質問等に親切に対応し，「何でも相談のつてもらえる博物館」との評価の定着を図ります。	レファレンス件数	300件/年		264件
5-2 講師派遣等の推進	他機関が主催する講演会，研修会等に学芸員を講師として派遣します。	講師派遣等の件数 講演会等の受講者数	15件/年	9件	12件
5-3 自治体等の政策課題への提言	各種検討委員会委員等として，自然環境保全や文化財保護等に関する自治体等の政策課題への提言を行います。	各種委員会委員の受諾数	15件/年	15件	21件
5-4 大学教育への寄与	大学の非常勤講師の受諾，学生・院生の研究指導，博物館実習生の受け入れ等により，大学教育に寄与します。	非常勤講師の受諾状況 博物館実習生の受入状況 学生・院生の指導状況	3件/年 20人/年	4件 8大学・23人	3件 11大学・25人
5-5 学会・研究会の運営への寄与	学会・研究会を博物館で開催するほか，役員や各種委員等を引き受けるなど，学会等の活動に貢献します。	学会・研究会の開催状況 学会役員等の状況		3回+植物談話会12回	6回+植物談話会12回
5-6 民間団体等への専門知識の提供	博物館が蓄積した専門知識を幅広く活かすため，各種民間機関・団体等との連携を進めます。	各種機関・団体等との連携の状況			
5-7 博物館施設の連携強化への貢献	県内の中核的博物館として，博物館施設への助言を行うとともに，県博物館協議会の活動等を通じて博物館施設の連携強化のために尽力します。	他館協議会委員等の受諾状況 連携事業の実施状況		4件	4件

6. 情報の発信と公開

博物館の催し物案内等だけでなく，博物館活動に関連する様々な情報をより多くの人に知ってもらい，博物館を有効に活用する利用者が増えるよう，インターネットや様々なメディアを通じて積極的に情報を発信します。

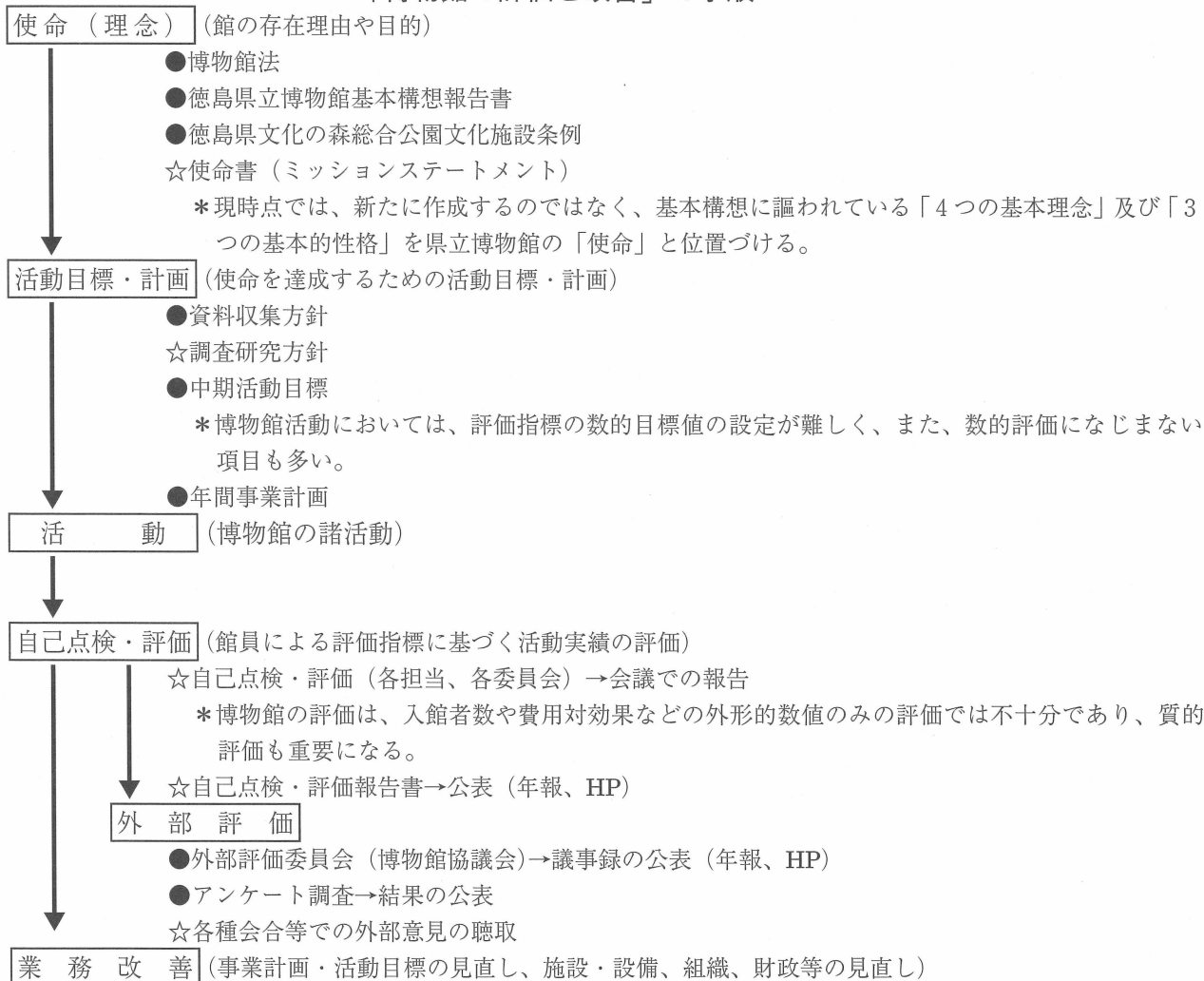
中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の目標値	14年度実績	15年度実績
6-1 積極的な資料提供の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく，博物館に関する情報を積極的に資料提供するよう努めます。	資料提供件数	30件/年	25件	25件
6-2 様々なメディアの活用による広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善，配布ルートの開拓，マスコミ出演や新聞・雑誌への寄稿を行うなど，様々なメディアを活用して広報活動を強化します。	マスコミ取材報道件数			
		広報手段の新規開拓状況		道の駅への*79-掲示	2-0への*79-掲示
		マスコミ出演等件数	15件/年	12件	6件
6-3 インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため，学芸員による積極的な情報発信を促し，ホームページの充実を図ります。	Eメールへの登録件数	500人/年	393人	430人
		HPアクセス数	32,000件/年	28,000件	31,000件
		新規コンテンツ数 内容の更新頻度	30ページ/年 月3回以上		

7. マネージメント（経営）

利用しやすい博物館とするための施設の改善，博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討，職員の意識改革と資質の向上，適切な博物館評価システムの確立等により，博物館活動の改善と活性化，利用者の増大を図ります。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の目標値	14年度実績	15年度実績
7-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	わかりやすい案内表示，バリアフリー化や安全対策等に配慮し，高齢者や障害者にとっても快適で安全な利用しやすい施設となるよう，日常的な点検・改善を行います。	点検・改善の状況			新しい掲示板の設置
7-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	博物館活動の活性化と広報の強化により，県内及び近隣地域での博物館の認知度を高め，博物館利用者の範囲の拡大と利用者増に結びつけます。	県民の博物館利用状況 県外利用者の割合		「貝化石」9.1% 「海道をゆく」14.9% 「古代のわざ」9.4%	「歴史を決めた戦い」11.3% 「アイヌ」15.3%
7-3 県民参画の仕組みづくり，博物館運営支援組織のあり方等の検討	友の会会員やボランティア等による様々な博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討を行うとともに，友の会を母体とした博物館の運営支援組織のあり方について，NPO法人設立も含めて検討します。	ボランティア導入事業数 ボランティア活動参加者数 運営支援組織の検討状況		1回 3人	5回 13人 大阪市立自然史博，兵庫 県立人博のNPO調査
7-4 設置者による理解の獲得	博物館の使命，当館が果たしている幅広い役割等に対する県及び県教育委員会の理解を得るとともに，財政的支援等が得られるよう努力します。	博物館予算の状況		2月補正後143,140千円	2月補正後136,497千円
7-5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	地震等の自然災害や火災，盗難，けが人の発生等に備え，文化の森他館と協力して防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。	防災訓練の実施状況 危機管理マニュアルの整備状況		防火避難訓練2回	防火・地震避難訓練2回
7-6 職員の意識改革と資質の向上	職員が博物館の社会的役割及び当館の使命を認識し，博物館活動の活性化と健全な経営に主体的に取り組めるよう，意識改革と資質の向上を図ります。				
7-7 博物館評価システムの構築	博物館活動の中期活動目標に基づく自己点検評価，博物館協議会による外部評価，結果の公開という適切な博物館評価システムを確立し，博物館活動の改善に役立てます。	中期活動目標の状況 自己点検評価の状況 外部評価の状況			素案の作成と検討

「博物館の評価と改善」の手順



17年度実績と自己点検・評価

1. 資料の収集・保存と活用

●中期活動目標および17年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	15年度実績	16年度実績	17年度実績
1-1	継続的な資料の収集	収蔵資料点数(年度当たりの増加点数)	H20年度末で50万点(9,030点/年)	454,853点(9,042/年)	462,174点(7,321/年)	468,294点(6,120点/年)
		寄贈資料件数	80件/年	93件	82件	111件
		受入図書冊数(雑誌類以外)	400冊/年	339冊	424冊	108冊
1-2	寄託の受け入れ促進	新規寄託受入件数(総寄託件数)	10件/年	12件	3件(60件)	5件(65件)
1-3	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料DB登録率(登録点数)			40.0%(184,980点)	41.20%(192,740点)
1-4	資料の適切な保管	収蔵庫等の点検回数	10回/年			
1-5	収蔵資料の活用の促進	資料特別利用件数	50件/年	40件	53件	45件
1-6	常設展示室の資料保存環境の改善	常設展示室空調改善の検討状況				
1-7	収蔵スペース確保の検討	収蔵スペース確保の検討状況				

●自己点検・評価

<1-1>

・H15年度を基準とした収蔵資料点数の年度増加目標値は2,910点下回った。昨年度も1,709点下回っていたので、2年連続して下回ったことになる。もともと年間の資料収集点数はバラツキが非常に大きいので、これをもって直ちに低下傾向にあるとはいえないが、昨年度は購入による収集が0点であったことが関係しているかもしれない。

平成12～16年度の購入資料点数の平均値および中央値はそれぞれ15,416点と1,596点であり、資料収集に少なからず貢献していたと考えられる。

・寄贈資料件数は、目標値より31件多かった。

・受入図書冊数は予算に依存しているため、予算が縮小している中では今後の目標達成は困難と思われる。

<1-2>

・新規寄託受入件数は、目標値より5件少なかった。

<1-3>

・昨年同様、収蔵資料点数に対するDB登録点数の割合として算出した。昨年度は40.0%であったので、わずかに向上している。ただし、この数値は大きなコレクションを1つでも受け入れると低下してしまうので、これによる評価には注意が必要である。

<1-4>

・収蔵庫等の点検回数は、実施要領がまだ定まっていないので、今回は評価できなかった。

<1-5>

・資料特別利用件数は、目標値より5件下回った。

・なお、資料特別利用件数には貸出以外の件数も含まれている。

〈1-6〉

- ・常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間でなく、展示室全体の燻蒸が不可能なため、害虫などの侵入による資料の劣化の可能性が大きい。実際、植物乾燥資料等で害虫が確認されている。
- ・常設展示室内の空調は温度設定のみ可能で、湿度のコントロールができない。そのため、時期によってはカビの発生が懸念される。
- ・常設展示室の構造的・設備的な問題であるので、現時点では抜本的な対策およびその検討はなされていない。

〈1-7〉

- ・昨年度は鳥居記念館博物館の資料を受入れる前提で収蔵スペースについて検討した。しかし、鳥居記念博物館の移転に関する結論がまだでないため、今年度はこの件についての検討は行われていない。
- ・不定形で大型の資料の多い民俗分野では、すでに収蔵スペースがほとんどなく、考古収蔵庫に一時的に収蔵している状況である。
- ・民俗分野以外でも、収蔵スペースに余裕がなくなりつつあることから、収納方法を工夫するなどして対応している。

2. 調査研究

●中期活動目標及び17年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	16年度実績	17年度実績
2-1	調査研究活動の強化	課題調査実施状況		3件(外部との共同2)	4件(外部との共同2)
		個別調査研究の実施状況			
2-2	調査研究成果の公表	学術論文数	10本/年	3+研究報告8本	26(査読付き5)
		図書・雑誌等での一般著述	50本/年	34本(普及記事含む)	29本
		学会・研究会での発表	25回/年	28回	21回
2-3	外部研究機関等との連携の推進	共同研究プロジェクト数	10件/年	14件 (課題調査以外)	14件 (課題調査以外)
2-4	県民参画型調査研究の推進	県民参画型調査の実績		アサギマダラのマーケティング調査	アサギマダラのマーケティング調査、貝化石調査、漂着物の調査
2-5	外部資金の獲得による研究活動の推進	科研費申請・採択数	申請7・採択1件/年	申請4・採択0	申請4・採択1
		民間研究助成金獲得状況		0件	

●自己点検・評価

〈2-1〉

- ・課題別、分野別に調査研究を実施し、それぞれ成果をえた。

〈2-2〉

- ・成果の公表数では学芸員毎に偏りがみられた。
- ・研究報告や外部機関の紀要の掲載論文は、昨年度までは一般著述に含めていたが、今年度から学術論文に入れることにした。そのため、学術論文数が増え、一般著述が減っているように見えている。
- ・学会・研究会での発表は、目標25回に対して21件と、やや低調であった。

〈2-3〉

- ・増加傾向が見られる。しかし、科研費による共同研究は減少している。

〈2-4〉

- ・アマチュア研究者との共同研究を〈2-3〉からこの項目に移した。今後とも、新たな角度からの取り組みを検討する必要がある。

〈2-5〉

- ・今年度は、科研費、民間研究助成金ともに獲得することができた。今後、これらの申請には積極的にとりくむ必要がある。

3. 展示

●中期活動目標及び17年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	16年度実績	17年度実績
3-1	常設展の改善・充実	常設展観覧者数	40,000人/年	44,669人	35,637人
		観覧者のリピーター率		75%(3月)	47.8% (4～5月) 71.4% (8～10月)
		観覧者の満足度	70%	68%(3月)	87% (4～5月)
		展示改善の実施状況		4件	準備1件
3-2	多様なテーマの企画展の計画的開催	企画展観覧者数	15,000人/年	32,810人(3回)	18,444人 (3回)
		観覧者の満足度	80%	74%(エビとカニ)	69% (縄文)
		企画展の検討状況		19年度以降の計画の協議	19年度以降の計画の協議
3-3	収蔵資料の公開促進と企画展示室の有効利用	特別陳列等の開催回数	10回 (特3・部4・ト3)	16回 (特3・部6・ト4・他3)	21回 (特4・部6・ト6・共2・他3)
		企画展示室活用回数	企画展以外に1回/年	3回(特陳・全国高文祭・ひまわり作品展)	2回 (特陳)
3-4	館外での展示の促進	移動展等の実施状況	1回/年	1回(藍の館)	5回(藍住町図2回、出羽島・牟岐・松茂各1回)
		パッケージ展示の貸出数	1件/年	1回(あすたむらんど)	2回(松茂・ガレの森)
3-5	展示解説等の推進	図録等の発行状況		企画展図録2+自然と歴史ガイド1(化石)	企画展図録3、自然と歴史ガイド1(空襲)
		展示解説等の実施状況		企画展解説 9回 クイズラリー(第2・4土) 24回 びっくり箱を使った解説 5回 受付案内員による常設展解説 48回	企画展解説 4回 特陳解説 3回 部門展示解説 5回 クイズラリー(第2・4土) 24回 常設展示室活用イベント 2回 受付案内員による常設展解説 14回
3-6	常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	リニューアルに向けての進捗状況		先進館調査1館 次期常設展の考え方を踏まえた企画展(石とくらし)	先進館調査2館 (九博、大阪人権博)

●自己点検・評価

<3-1>

- ・常設展観覧者数は目標を下回った(前年度比9,032人減)。企画展観覧者数の減少の影響が大きいと思われる。ただし、閑散期にあたる2、3月の観覧者は増加している(2月;前年比115人増、3月;同211人増)。この時期に開催した特別陳列の効果と思われる。
- ・今年度の利用状況調査は4～5月に行ったほか、8～10月に文化庁芸術拠点形成事業の一環で行ったものもある。前者と後者ではリピーター率に差があるが、回答数の差が大きいこともあり、一概に比較はできない。

- ・総合展示を中心とする展示の改善件数（部門展示〔人文〕の展示替えを除く）は実質ゼロで、取り組みが不足した。

< 3-2 >

- ・企画展観覧者数は目標を達成しているものの、前年比14,366人の減。
- ・企画展は、テーマとタイミングがうまくマッチすれば大量動員が可能になるが、その見極めは難しい。娯楽性、新規性、学術性等の諸要素を取り合わせた計画的運営が求められるところだが、予算の見通しが立たない状況のもと、将来的な開催計画についての検討はあまり進んでいない。
- ・観覧者の満足度を調査したのは「縄文の美」の1回だけだが、総合的に満足感を示した割合は69%であった。目標値に満たなかったが、質的に一定の評価が得られたものとする。

< 3-3 >

- ・特別陳列等の開催回数は21回あり、目標の10回を大きく超えている。ただし、特別陳列のうち2回は近代美術館ギャラリーを会場とする文化の森人権啓発展であり、共催展も2回ある。これらを差し引いた博物館独自の取り組み回数は17回となる。常設展示室ロビーを利用した展示もあった。
- ・15年度から始めた部門展示（人文）の計画的な展示替え、トピック展示の開催は、17年度も継続した。これらの展示替えコーナーを目的にした観覧者もあることから、一定の成果を挙げていると考えられる。

< 3-4 >

- ・移動展、パッケージ展示の貸し出しを、継続して意識的に取り組みを進めた。パッケージの貸し出しについては、県内の博物館等に案内チラシを配布して、活用を呼びかけた。移動展・共催展5回、パッケージ展示2件となり、目標を達成できた。
- ・移動展については、簡単には来館できない遠隔地住民へのサービス強化や地域振興への協力の観点から、取り組みを強化する必要があると考え、組立式展示ケースを制作して態勢整備を進めた。

< 3-5 >

- ・常設展の内容に関する冊子として、徳島空襲コーナーに関連する『徳島の自然と歴史ガイド』が刊行できた。
- ・展示解説等については、昨年度までのものに加え、部門展示（人文）における解説を2本の展示において試行した。企画展ほどの情報が行き渡らないこともあり、参加者は少なかった。18年度には、普及行事の広報に組み込み、参加状況を見ることで今後の取り組みを考えていきたい。部門展示（人文）やトピック展示などの、常設展における期間限定の展示をクイズラリーの設問に組み込む試みも行った。また、クイズラリー自体もポイントカードの導入などの改善を進めた。
- ・常設展示室の活性化や新しい利用方法について、利用者の目線に立って考えていくため、公募ボランティアを募り、ボランティアと学芸員が共同でイベントを開催し、成果を得た。

< 3-6 >

- ・先進館調査は継続しているが、リニューアルに向けての実質的な検討はできなかった。開館20周年を機にしたリニューアルの実現を目指して、再起動を図りたい。

4. 普及教育

●中期活動目標及び17年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	16年度実績	17年度実績
4-1	県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数	70回/年	76回	92回
		普及行事参加者数	3,000人/年	3,692人	5,944人
		参加者の満足度	満足した者の割合80%	92.0%(24行事)	90.8%(15行事)
		アウトリーチ活動数	3回/年	移動講座4回	移動講座3回
4-2	学校教育支援事業の推進	学校教育支援事業件数	出前授業 15件/年	20件	20件
			資料貸出 15件/年	18件	4件
			その他 20件/年	13件	19件
		教員・生徒の満足度	80%	8割強	8割強
4-3	ガイドブックの出版等の促進	ガイドブック出版状況	1冊/年	1冊	2冊
		普及記事の執筆数	20件/年	3件	17件
4-4	友の会活動の充実と活性化	友の会会員数	500人/年	460人	483人
		会員の継続率	前年度会員の70%	76%	69%
		友の会行事実施回数	10回	10回	9回
		常設展・企画展観覧者率	50%	38.6%(462件)	38.6%(394件)

●自己点検・評価

< 4-1 >

- ・企画展・特別陳列の関連行事が増えたり、部門展示の展示解説を行ったりしたため、行事数・参加者数とも増えた。
- ・ボランティアが中心になって行ったVキングと文化の日フェスティバルでは、新しい行事もあり、参加者数を伸ばした。
- ・普及行事の参加者の満足度は、15行事で行ったアンケート結果から算出したが、おおむね好評であった。

< 4-2 >

- ・出前授業は前半は少なかったが、後半は広報の成果か依頼が増えた。資料貸出件数は少なかった。
- ・博物館が学校教育支援事業を行っていることを知らない教職員もまだ多い。今後は時期を考え、機会を捉えて広報する。

< 4-3 >

- ・ガイドブック2冊「徳島大空襲」、「徳島の銅鐸」を出版した。
- ・普及記事は全般的に少なく、分野的には動物(魚類関係)及び人文系に集中し、それ以外の分野では特に少なかった。新聞記事の執筆など、機会あるごとにはたらきかけていきたい。

< 4-4 >

- ・友の会では、会員数・継続率ともに順調に推移している。また、会員が自主的に行事を立案・企画し、継続的に実施できているものもある。

5. シンクタンクとしての社会貢献

●中期活動目標及び17年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	指標の目標値	16年度実績	17年度実績
5-1 レファレンス利用者の拡大	レファレンス件数	300件/年	レファレンス DB 記録 334件	レファレンス DB 記録 361件
5-2 講師派遣等の推進	講師派遣等の件数	15件/年	33件	12件
	講演会等の受講者数		未カウント	未カウント
5-3 自治体等の政策課題への提言	各種委員会委員の受諾数	15件/年	29件	28件
5-4 大学教育への寄与	非常勤講師の受諾状況	3件/年	4件	3件
	博物館実習生の受入状況	20人/年	11大学・27人	8大学・24人
	学生・院生の指導状況		徳島大院生1人、徳島文理大卒論生2人	徳島大院生 1人
5-5 学会・研究会への運営への寄与	学会・研究会の開催状況		植物談話会12回、徳島博物館研究会1回	植物談話会12回、徳島博物館研究会例会、日本動物分類学会大会、日本昆虫学会四国支部大会、四国民俗学会研究発表会
	学会役員等の状況		10件	5件
5-6 民間団体等への専門知識の提出	各種機関・団体等との連携の状況			
5-7 博物館施設の連携強化への貢献	他館協議会委員等の受諾状況		3件	3件
	連携事業の実施状況		移動展1回(藍の館)、共同企画「道と交通」の開催準備	移動講座 3回、移動展 5回、県博協連携事業「歴史の道」の開催準備

●自己点検・評価

< 5-1 >

・レファレンスが年々増えているのは、博物館の存在と役割が県民に浸透してきている結果として評価できる。この他にも、電話での問い合わせなど記録として残されていないものも相当数あると思われるので、きちんと記録することを心がけたい。

< 5-2 >

・講師派遣依頼が昨年比べて少なかった。また、特定の分野の学芸員に集中した。
・受講者数をカウント・記録する方法を検討したい。

< 5-3 >

・各種検討委員会委員の受諾数は、ほぼ昨年と同じである。17年度での新規委嘱は6件で、昨年度からの継続及び再委嘱がほとんどである。

< 5-4 >

・当館での博物館実習を希望する学生がやや減少したが、今後とも減少傾向になるかどうかはまだ判断できない。

< 5-5 >

・日本動物分類学会大会、日本昆虫学会四国支部大会の大きな学会が2つあった。

< 5-7 >

・藍住町立図書館、出羽島漁村センター、松茂町歴史民俗資料館等との共催による移動展など、館外での展示活動への積極的な取り組みが見られた。
・県博物館協議会連携事業「歴史の道」の開催準備を当館が主導して行った。その結果、平成18年4月から19年3月にかけて、全部で13の企画展等が順次開催されることになった。

6. 情報の発信と公開

●中期活動目標及び17年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	16年度実績	17年度実績
6-1	積極的な資料提供の推進	資料提供件数	30件/年	28件	25件
		マスコミ取材報道件数		50件	55件
6-2	様々なメディアの活用による広報活動の強化	広報手段の新規開拓状況		文化の森橋への懸垂幕の設置	ちらし配布場所の新規開拓及び増数
		マスコミ出演等件数	15件/年	10件	9件
		Eメールサービス登録件数	500人/年	445人	251人
6-3	インターネットによる情報発信の推進	HP アクセス数	32,000件/年	32,600件	35,600件/年
		新規コンテンツ数	30ページ/年	180ページ/年	224ページ/年
		内容の更新頻度	月3回以上	4.1回/月(49回/年)	4.6回/月(56回/年)

●自己点検・評価

< 6-1 >

- ・資料提供件数は目標の30件/年には達せず、前年よりやや減少している。博物館からのより効果的な情報発信として、マスコミに対する資料提供を今後とも積極的に続けていく必要がある。
- ・マスコミ取材・報道件数については、新聞のみの数であるが55件となっており、活発な取材や報道が行われていることが伺える。

< 6-2 >

- ・広報手段の新規開拓状況では、企業に対するちらし配布場所の新規開拓を行った。また、フェリー発着場でのチラシ配布枚数を増やし、特別陳列「吉野川の渡し」では吉野川流域にチラシを重点的に配布するなどの工夫を行った。今後ともこうした改善努力を続けていくことが望まれる。
- ・マスコミ出演等件数は前年より1件減少した。
- ・Eメールサービス登録件数は前年度より減っているが、エラーメール等が戻ってきていたアドレスを削除するなどしたためであり、それに従い目標数値の見直しが必要である。なお、平成17年度には13名の新規登録者があった。

< 6-3 >

- ・インターネットによる情報発信はすべて目標値に達しており、良い状態である。ただ、発信している情報に偏りがあり、より広い内容での発信が求められる。

7. マネージメント（経営）

●中期活動目標及び17年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	指標の目標値	16年度実績	17年度実績
7-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	点検・改善の状況			
7-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	県民の博物館利用状況		徳島文理大学生による博物館認知度調査	「元気な博物館づくりプロジェクト」事業によるアンケート調査
	県外利用者の割合		「サメの世界」 12.6% 「エビとカニ」 15.5% 収蔵品展 10.9%	「縄文の美」 10.0% 「絶滅」 14.0%
	ボランティア導入事業数		2回(こどもの日、七草)	2回(9/23、11/3)
7-3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	ボランティア活動参加者数		5人	19人
	運営支援組織の検討状況		NPO調査、17年度文化庁芸術拠点形成事業への応募	文化庁芸術拠点形成事業「元気な博物館づくりプロジェクト」の実施
7-4 設置者による理解の獲得	博物館予算の状況		2月補正後 109,648千円	2月補正後 102,392千円
7-5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	防災訓練の実施状況		自衛消防隊総合訓練 5月、12月	自衛消防隊総合訓練 6月、12月
	危機管理マニュアルの整備状況			
7-6 職員の意識改革と資質の向上				
7-7 博物館評価システムの構築	中期活動目標の状況		9月に中期活動目標策定	16年9月に中期活動目標策定
	自己点検・評価の状況			16年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載
	外部評価の状況		博物館協議会 9月、3月	博物館協議会 8月

●自己点検・評価

< 7-1 >

- ・17年度は特段の取り組みは行われなかった。

< 7-2 >

- ・文化庁芸術拠点形成事業「元気な博物館づくりプロジェクト」の一環として、アンケート調査を実施した。
- ・県外利用者の割合は、2つの企画展で調査した。

< 7-3 >

- ・初めての試みとして公募ボランティアを募り、ボランティアが主体になって企画するイベントを2回実施した。のべ19名が準備及び当日の運営に参加した。
- ・文化庁芸術拠点形成事業「元気な博物館づくりプロジェクト」の実施に当たっては、館外の委員を含めた実行委員会を組織した。

< 7-4 >

- ・厳しい財政状況を反映し、館運営予算は16年度より約7,000千円減少した。昨年度に引き続き企画展開催経費の削減(3,753千円)が主なものである。
- ・これまで博物館資料の購入に充ててきた美術品等取得基金が16年度末で廃止された。それに伴い、17年度から博物館費(一般会計予算)に13,000千円の資料購入費が計上されたが、諸般の事情から1点の購入もできず、2月補正予算での全額減額を余儀なくされた。

< 7-5 >

- ・法令に定められた年2回の防災訓練は、3館合同で実施された。
- ・停電、盗難、けが人や病人の発生等に備えた防災マニュアルも整備していく必要がある。

< 7-6、7-7 >

- ・16年9月に策定した「徳島県立博物館の中期活動目標」に基づき、16年度事業の自己点検・評価を行い、その内容を年報やホームページに掲載した。また、8月の博物館協議会において討議いただいた(外部評価)。
- ・中期活動目標を単なる作文に終わらせないよう、活動目標に基づく実践、自己点検・評価をきちんと行い、博物館活動の改善・活性化に結びつけるために、全職員がいま一層の意識統一を図ることが大切である。

Ⅸ 観 覧 者 統 計

平成14年度から小・中・高校生の土曜、日曜、祝日および長期休業中は、常設展、企画展とも無料になったため、無料観覧者数が大きく増えている。そのために13年度までの無料入館者とまったく同質の表示はできなくなった。累計表においてはすべての区分での入館者数を表示するのは困難であるため、13年度までの方式で表示したものである。

●平成17年度 博物館常設展観覧者数

(単位：人)

月 開 館 日 数	有 料 観 覧 者												無 料 観 覧 者												観 覧 者 総 数				
	個 人			団 体 (割引20%)			減 免 (割引50%)						有 料 観 覧 者 計	学 校 教 育						個 人				無 料 観 覧 者 計					
	一般	高校・ 大学生	小・中 学 生	一般	高校・ 大学生	小・中 学 生	大 人			高校・ 大学生	小・中 学 生	園 数		人数	校 数	人数	校 数	人数	校 数	人数	計	小 学 生	中 学 生			高 校 生	そ の 他		
							高齢者	障害者	計																				
4月	26	677	19	11	28	75	0	193	92	285	0	0	1,095	3	63	3	248	4	321	1	196	11	828	764	78	45	590	2,305	3,400
5月	26	694	24	6	25	16	0	167	9	176	0	0	941	2	70	19	1,321	3	178	1	118	25	1,687	1,125	83	105	2,051	5,051	5,992
6月	26	603	30	3	46	0	0	120	7	127	0	1	810	3	93	0	0	1	225	0	0	4	318	433	29	50	253	1,083	1,893
7月	27	861	22	7	41	1	0	127	38	165	0	0	1,097	2	57	0	0	0	0	0	2	57	925	83	81	777	1,923	3,020	
8月	27	1,382	50	0	69	0	0	233	33	266	0	0	1,767	2	33	1	16	1	24	0	0	4	73	1,340	155	87	572	2,227	3,994
9月	26	607	33	14	46	0	0	161	38	199	0	0	899	0	0	0	0	1	29	0	0	1	29	883	73	26	1,187	2,198	3,097
10月	26	527	23	4	10	1	0	121	8	129	0	0	694	6	291	15	1,032	0	0	0	0	21	1,323	594	51	29	495	2,492	3,186
11月	26	321	9	10	26	0	0	69	3	72	0	0	438	5	102	9	574	0	0	0	0	14	676	987	48	37	1,364	3,112	3,550
12月	23	305	5	1	17	0	0	81	19	100	0	0	428	1	61	0	0	0	0	0	0	1	61	326	19	21	301	728	1,156
1月	23	465	17	3	14	0	2	67	8	75	0	0	576	2	188	2	182	0	0	0	0	4	370	447	26	33	480	1,356	1,932
2月	24	463	10	2	12	0	0	152	4	156	0	0	643	1	14	2	61	0	0	0	0	3	75	496	43	16	540	1,170	1,813
3月	27	665	39	12	22	2	0	125	12	137	0	0	877	5	268	1	6	1	12	0	0	7	286	769	68	57	547	1,727	2,604
計	307	7,570	281	73	356	95	2	1,616	271	1,887	0	1	10,265	32	1,240	52	3,440	11	789	2	314	97	5,783	9,089	756	587	9,157	25,372	35,637

●常設展観覧者数累計 (平成2年度～平成17年度)

(単位：人)

年 開 館 日 数	有 料 観 覧 者												無 料 観 覧 者												観 覧 者 総 数			
	個 人			団 体 (割引20%)			減 免 (割引50%)						有 料 観 覧 者 計	学 校 教 育						そ の 他	無 料 観 覧 者 計							
	一般	高校・ 大学生	小・中 学 生	一般	高校・ 大学生	小・中 学 生	大 人			高校・ 大学生	小・中 学 生	園 数		人数	校 数	人数	校 数	人数	校 数			人数	計	休 業 期 間		土 日 ・ 祝		
							高齢者	障害者	計																			
2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	9,788	571	10,359	57	48	88,722				55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489		1,066	8,555	97,277
3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	9,319	709	10,028	19	53	99,282				202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568		2,267	37,835	137,117
4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,482	446	4,928	48	13	57,861				114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	2,076	21,272	79,133
5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,306	239	3,545	2	3	48,943	5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398	2,871	20,537	69,480	
6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,399	150	2,549	5	18	35,369	38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195	1,080	16,778	52,147	
7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,639	243	2,882	3	0	33,048	27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,085	7,493	23,325	56,373	
8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,699	144	1,843	3	15	22,434	30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390	19,839	34,687	57,121	
9	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,563	219	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060	829	14,258	26,147	44,720	
10	307	10,039	700	4,008	446	28	93	1,129	135	1,264	1	11	16,590	16	990	52	3,823	8	988	5	954	81	6,755	1,337	14,209	22,301	38,891	
11	307	8,778	642	3,595	390	148	89	1,027	179	1,206	1	21	14,870	25	913	62	4,323	12	1,472	7	583	106	7,291	1,881	13,846	23,018	37,888	
12	306	8,653	484	3,351	456	153	132	1,371	241	1,612	1	10	14,852	33	1,270	58	3,654	11	1,905	6	546	108	7,375	2,161	13,744	23,280	38,132	
13	306	6,950	418	2,810	608	3	56	1,217	132	1,349	3	8	12,205	20	920	58	2,771	14	1,409	6	441	83	5,541	2,275	12,017	19,833	32,038	
14	306	7,661	372	130	381	68	89	1,126	206	1,332	1	0	10,034	25	1,158	42	3,382	8	1,006	6	630	81	6,176	11,373	9,766	27,315	37,349	
15	307	8,724	363	111	380	117	2	1,490	125	1,615	1	0	11,313	27	1,365	55	4,105	5	447	6	571	92	6,488	11,732	10,264	28,484	39,797	
16	305	9,769	393	114	608	63	1	1,803	208	2,011	1	4	12,964	38	1,393	73	4,063	13	730	8	282	132	6,468	13,532	11,705	31,705	44,669	
17	307	7,570	281	73	356	95	2	1,616	271	1,887	0	1	10,265	32	1,240	52	3,440	11	789	2	314	97	5,783	10,432	9,157	25,372	35,637	
計	4,679	300,145	23,129	99,109	27,372	2,039	4,968	45,974	4,218	50,192	163	208	507,325	340	16,680	1,291	114,382	258	35,325	126	15,378	1,999	181,765	63,021	145,658	390,444	897,769	

●平成17年度 博物館企画展観覧者数

(単位：人)

企画展名	開催期間	開催日数	有料観覧者										無料観覧者										観覧者総数							
			個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)				有料観覧者計	学校教育					個人					無料観覧者計						
			一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般			高校生		小・中学生	計	小学生	中学生	高校生	その他											
									高齢者	障害者	計																			
第1回企画展「縄文の美」	H.16.4.24 H.16.5.30	30	2,254	100	20	3	12	0	619	26	645	0	0	3,034	1	47	17	988	3	178	1	118	22	1,331	1,095	127	69	603	3,225	6,259
第2回企画展「絶滅」	H.16.8.12 H.16.9.20	36	3,482	157	0	9	0	0	355	27	382	0	0	4,030	2	58	0	0	1	24	0	0	3	82	2,953	378	227	1,470	5,110	9,140
第3回企画展「ふるさと再発見」	H.16.10.22 H.16.11.28	32	595	14	6	0	0	0	411	10	421	0	0	1,036	0	0	15	1,102	0	0	1	12	16	1,114	323	6	17	529	2,009	3,045
合計		98	6,331	271	26	12	12	0	1,385	63	1,448	0	0	8,100	3	105	32	2,090	4	202	2	130	41	2,527	4,371	531	313	2,602	10,344	18,444

●企画展観覧者数累計(平成3～17年度)

(単位：人)

年度	開催日数	有料観覧者										有料観覧者計	無料観覧者計	観覧者総数	
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)							
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	障害者	計	高校生				小・中学生
平成3年度	120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,541	84	2,625	20	2	22,949	1,288	24,237
平成4年度	86	12,269	915	6,856	476	55	147	1,176	50	1,226	0	5	21,949	1,143	23,092
平成5年度	104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	980	28	1,008	2	0	17,443	1,732	19,175
平成6年度	112	7,593	708	1,060	222	0	277	1,264	36	1,300	0	6	11,166	8,592	19,758
平成7年度	94	8,432	769	4,374	83	10	744	862	55	917	0	3	15,332	17,213	32,545
平成8年度	114	7,044	869	2,681	28	37	1,330	1,054	64	1,118	33	1	13,141	2,960	16,101
平成9年度	95	6,022	472	1,525	47	13	820	1,262	53	1,315	4	1	10,219	1,981	12,200
平成10年度	107	6,364	266	3,766	53	3	1,367	660	71	731	0	15	12,565	3,476	16,041
平成11年度	83	5,802	469	1,056	114	78	904	1,449	86	1,535	0	7	9,965	2,773	12,738
平成12年度	145	5,225	336	2,186	30	0	79	914	58	972	0	6	8,834	24,581	33,415
平成13年度	90	6,302	444	734	146	37	197	2,137	85	2,222	2	5	10,089	2,070	12,159
平成14年度	93	4,381	135	36	34	0	0	857	36	893	0	0	5,479	7,756	13,235
平成15年度	102	4,822	173	50	32	0	0	1,082	54	1,136	0	0	6,213	18,664	24,877
平成16年度	99	12,474	310	118	65	35	0	1,211	94	1,305	0	3	14,310	18,500	32,810
平成17年度	98	6,331	271	26	12	12	0	1,385	63	1,448	0	0	8,100	10,344	18,444
合計	1,444	111,321	7,946	32,713	2,009	325	6,922	17,449	854	18,303	61	54	179,654	112,729	310,827

●特別陳列観覧者数累計(平成4～17年度)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
第1回館藏品展	平5.2.16～3.21	29	6,712
掘ったでよ阿波	平6.2.1～2.27	23	4,090
掘ったでよ阿波	平7.1.13～2.5	21	3,165
第2回収藏品展	平8.2.16～3.17	27	5,358
第3回館藏品展「自然コレクション」	平11.7.17～8.29	38	22,372
写生大会作品展	平12.12.5～12.24	18	1,850
勝瑞時代-細川・三好氏と阿波-	平13.10.25～11.25	32	5,605
丹波マンガン鉱山の記録-在日コリアンの労働史-	平14.6.25～7.7	12	1,195
楠コレクションの美術・歴史資料	平15.1.21～3.2	36	4,655
知里幸恵誕生100年記念巡回展自由の天地を求めて-知里幸恵「アイヌ神謡曲集」への道-	平15.7.19～7.27	8	1,317
日本刀の美-赤羽刀とその他の館藏品-	平16.1.27～3.7	35	8,698
収藏品展	平16.6.18～7.19	28	5,703
ひまわり作品展	平16.12.17～12.19	3	3,221
トクシマ・木工芸の道具と技	平18.1.8～1.29	19	3,475
吉野川の渡し	平18.2.18～3.19	26	3,848
合計		167	81,264

●移動展観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
昆虫の世界(海南町立博物館)	平14.10.26～11.24	26	1,328
「日本画書展-江戸から昭和まで-」(藍住町歴史館藍の館)	平16.12.2～12.27	26	898
戦争の資料展(藍住町立図書館)	平17.8.3～8.18	14	2,342
昆虫展(藍住町立図書館)	平17.8.19～9.11	21	3,210
北アメリカの植物(松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館)	平18.2.4～3.5	26	1,867
合計		113	9,645

●人権啓発等観覧者

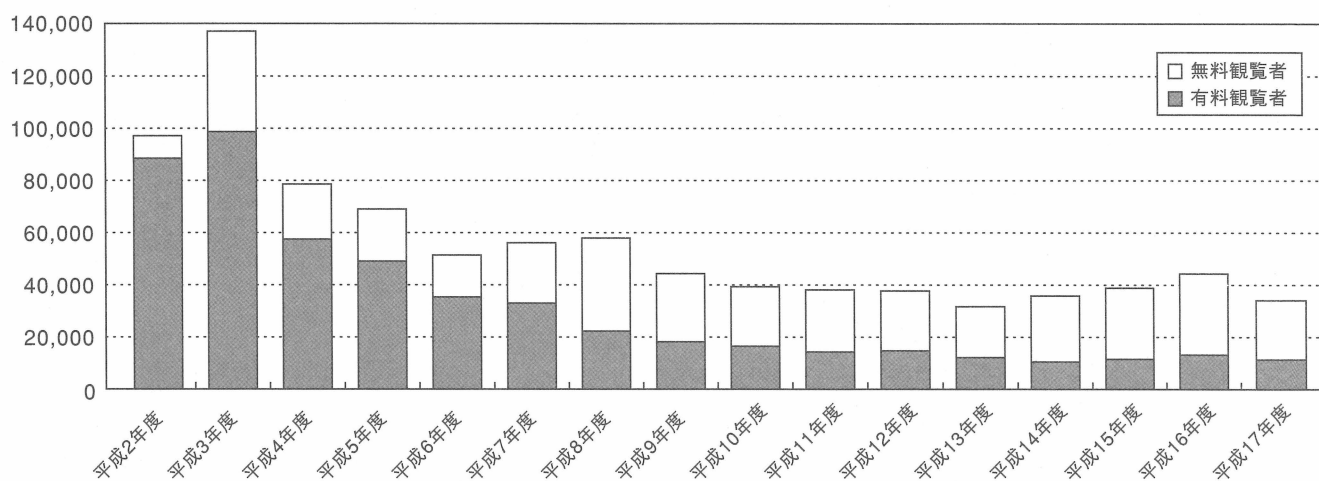
展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
2000年度同和問題啓発展	平12.8.26～9.8	12	1,561
2001年度同和問題啓発展	平13.8.4～8.12	8	1,290
〃第2回	平13.12.4～12.9	6	847
2002年度同和問題啓発展	平14.7.27～8.4	8	1,066
〃第2回	平14.12.3～12.8	6	669
2003年度人権問題啓発展	平15.8.2～8.10	8	1,414
〃第2回	平15.12.2～12.7	6	911
2004年度人権問題啓発展	平16.8.7～8.15	8	1,568
〃第2回	平16.12.7～12.12	6	753
2005年度人権問題啓発展	平17.8.6～8.14	8	1,594
〃第2回	平17.12.6～12.11	6	656
合計		82	12,329

●博物館利用者総数年度別一覧

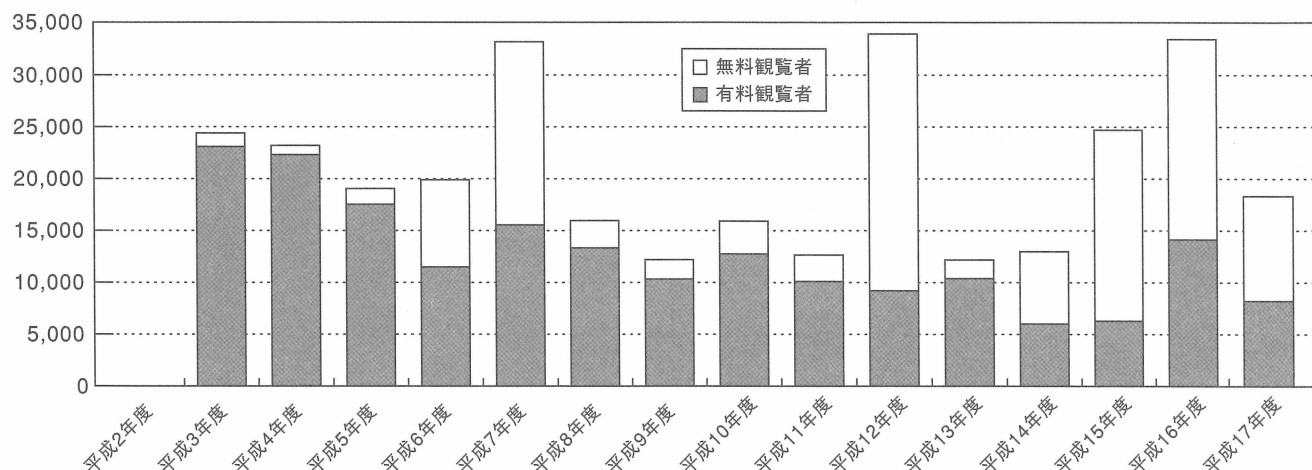
	常 設 展		常 設 展 者 観 覧 者 合 計	企 画 展 者 観 覧 者	特 別 陳 列 観 覧 者	移 動 展	普 及 行 事 参 加 者	そ の 他 * (啓 発 展 等 の 共 催 事 業)	利 用 者 総 数
	有 料 観 覧 者	無 料 観 覧 者							
2 年 度	88,722	8,555	97,277	0	0		646		97,923
3 年 度	99,282	37,835	137,117	24,237	0		1,387		162,741
4 年 度	57,861	21,272	79,133	23,092	6,712		1,718		110,655
5 年 度	48,943	20,537	69,480	19,175	4,090		1,686		94,431
6 年 度	35,369	16,778	52,147	19,758	3,165		2,843		77,913
7 年 度	33,048	23,325	56,373	32,545	5,358		4,132		98,408
8 年 度	22,434	34,687	57,121	16,101	0		2,419		75,641
9 年 度	18,573	26,147	44,720	12,200	0		2,232		59,152
10 年 度	16,590	22,301	38,891	16,041	0		1,890		56,822
11 年 度	14,870	23,018	38,888	12,738	22,372		2,461		75,459
12 年 度	14,852	23,280	38,132	33,415	1,850		4,513	1,561	79,471
13 年 度	12,205	19,833	32,038	12,159	5,766		3,634	2,137	55,734
14 年 度	10,034	27,315	37,349	13,235	5,850	1,328	3,414	1,735	62,911
15 年 度	11,313	28,484	39,797	24,877	10,015		4,501	2,630	81,820
16 年 度	12,964	31,705	44,669	32,810	5,703	898	3,692	8,050	95,822
17 年 度	10,265	25,372	35,637	18,444	9,573	7,419	5,944	2,379	79,396
累 計	507,325	390,444	897,769	310,827	88,212	9,645	47,112	10,734	1,364,299

* 特別陳列観覧者は自主事業のみの観覧者数とし、共催事業の観覧者はその他として扱った。

●常設展観覧者数（平成2～17年度）



●企画展観覧者数（平成3～17年度）



X 施設の概要

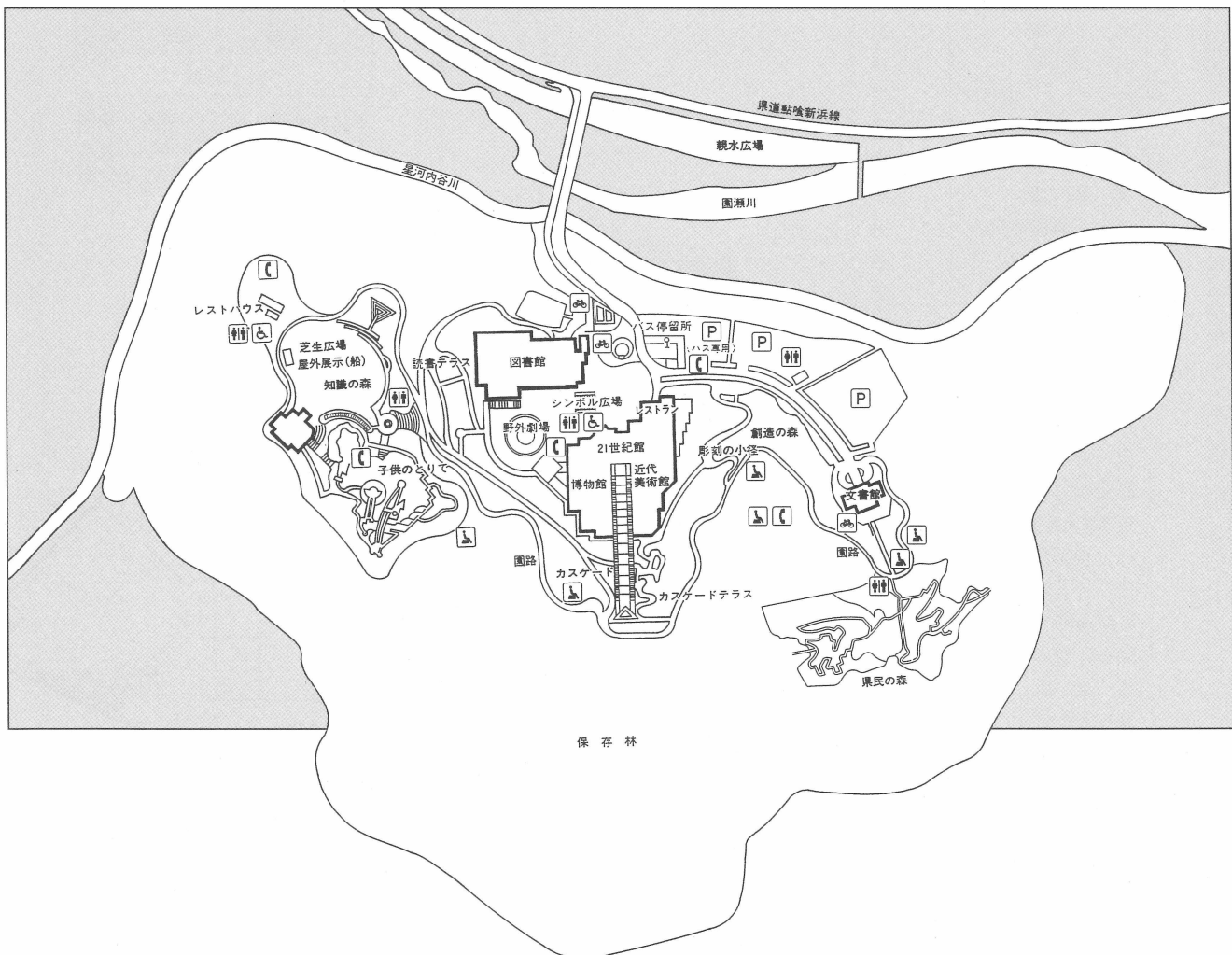
1. 沿革

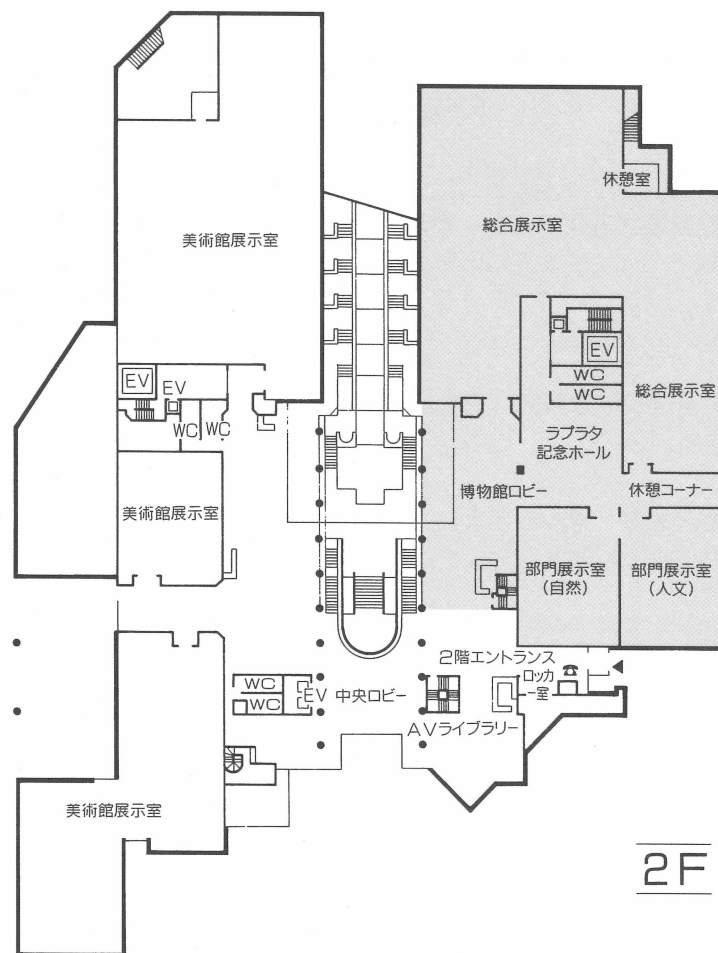
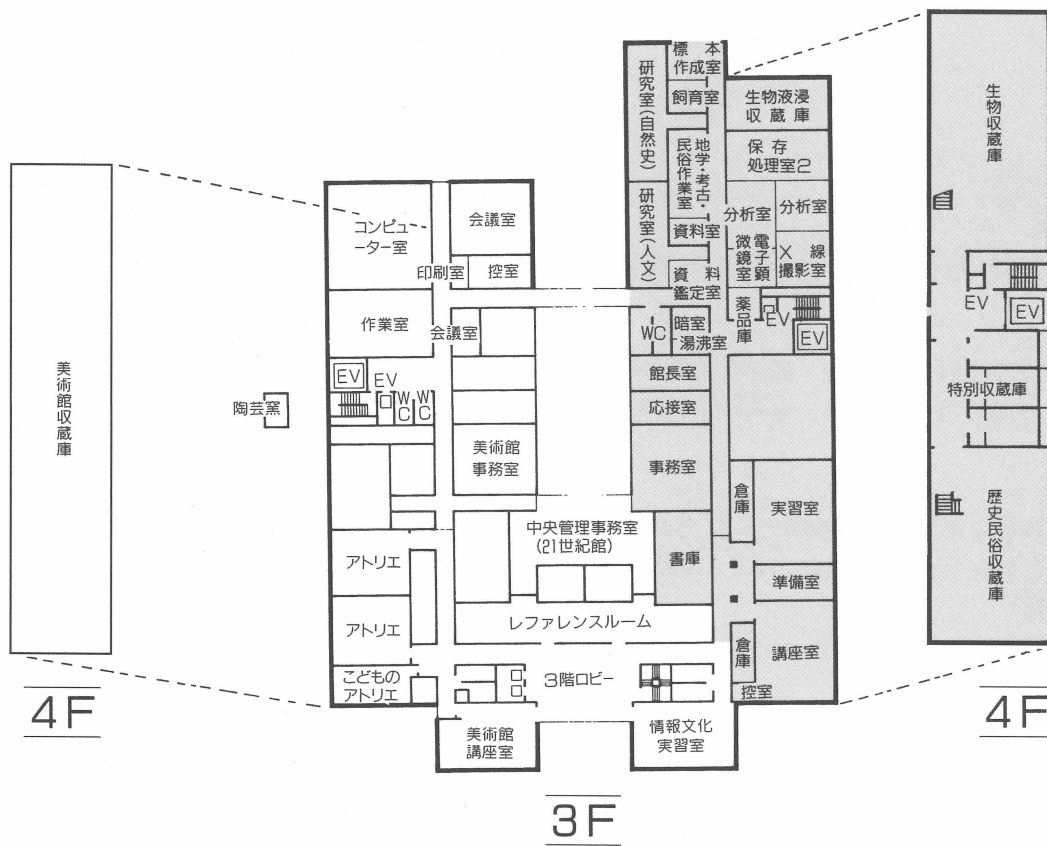
昭和34年12月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館 （旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館30年史」参照）
昭和55年1月	文化の森構想発表
4月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和56年2月	文化の森懇話会報告書提出
昭和57年3月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和58年3月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和59年1月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
4月	美術品等取得基金設置
5月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和60年8月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手 徳島県とアルゼンチン共和国ラプラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和61年3月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和62年3月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
8月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和63年7月	博物館展示工事着手
平成元年4月	旧博物館展示室閉室
12月	博物館・近代美術館・21世紀館棟本体工事竣工
平成2年3月	旧博物館閉鎖
4月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10月	博物館展示工事竣工
11月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成3年2月	博物館資料収集委員会設置
平成4年3月	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等に指定される
平成8年4月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施
平成15年7月	科学研究費補助金の申請を行うことができる学術研究機関に指定される

2. 施設の概要

- 所在地 徳島市八万町向寺山
- 敷地面積 40.6ha（文化の森総合公園全体）
- 建築面積 8,363m²（3館棟）
- 延床面積 22,382m²（3館合計－積層部分を含めると23,814m²）
8,133m²（博物館占用スペース）
- 構造規模 鉄筋鉄骨コンクリート造 地上4階・塔屋1階・地下1階

- 設計 (株)佐藤武夫設計事務所・(株)日建設計・(株)環境建築研究所 共同企業体
- 施行
- 建築 ----- 大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組 共同企業体
- 電気 ----- 四国電気工業・近畿電気工事 共同企業体
- 空調 ----- 東洋熱工業・三機工業・ナミレイ 共同企業体
- 管 ----- 朝日工業社・大成設備 共同企業体
- エレベータ ----- (株)東芝
- 家具 ----- 富士ファニチア(株)
- 移動展示ケース ----- (株)三井
- 展示 ----- (株)丹青社





Ⅵ 例 規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例 [抜粋]

制 定 平成2年3月26日 徳島県条例第11号
最近改正 平成9年3月28日 徳島県条例第34号

(設置)

第1条 個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

(名称及び業務)

第2条 文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名 称	業 務
徳島県立博物館 (以下「博物館」という。)	(1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。 (4) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(徳島県立図書館、徳島県立近代美術館、徳島県立文書館、徳島県立21世紀館の業務は省略)

(利用の許可)

第3条 (省略)

(観覧料等)

第4条 博物館が展示する博物館資料又は美術館が展示する美術館資料を観覧する者に対しては、別表第1に掲げる額の観覧料を徴収する。

2 (省略)

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

4 観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

(損害の賠償)

第5条 文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

(職員)

第6条 図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

(協議会)

第7条 教育委員会の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協 議 会 の 名 称	所 掌 事 務
徳 島 県 立 博 物 館 協 議 会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

(4館の各協議会の所掌事務は省略)

- 2 協議会は、委員10人以内で組織する。
- 3 (省略)
- 4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 委員は、再任されることができる。
- 6 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。
(教育委員会規則への委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表第1 (第4条関係)

区 分	単 位	金 額			
		常 設 展		企 画 展	
		個 人	団体 (20人以上をいう。以下同じ。)	個 人	団 体
小学校の児童及び中学校の生徒	1人1回	50円	40円	知事とその都度定める額	
高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者	1人1回	100円	80円		
その他の者(学齢に達しない者を除く。)	1人1回	200円	160円		

●徳島県立博物館管理規則

制定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第9号

改正 平成8年3月29日 徳島県教育委員会規則第7号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県立博物館(以下「博物館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。
(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日 ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは、その後においてその日に最も近い休日でない日
- (2) 12月28日から翌年の1月4日までの日

2 徳島県立博物館長(以下「館長」という。)は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 館長は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

(遵守事項)

第4条 博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例(平成2年徳島県条例第11号)及びこの規

則並びに館長が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
- (2) 前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第6条 学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、館長の承認を受けなければならない。

(補則)

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、館長が定める。

●徳島県立博物館協議会規則

制定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第6項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長1人を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

- 2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県教育委員会行政組織規則 [抜粋]

制定 昭和45年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

最近改正 平成18年3月31日 徳島県教育委員会規則第6号

第1章 総則（省略）

第2章 事務局（省略）

第3章 教育機関 [博物館に該当する条項のみの抜粋]

第3節 徳島県立博物館

(名称及び位置)

第24条 徳島県文化の森総合公園文化施設条例により設置された徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
徳 島 県 立 博 物 館	徳島市八万町向寺山

(内部組織等)

第25条 博物館に普及課、自然課及び人文課を置く。

2 前項の課の分担事務は、館長が定める。

(業務)

第26条 博物館の業務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。
- (4) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(所長等の職務)

第32条 総合教育センター、少年自然の家及び埋蔵文化財総合センターの所長、文書館及び二十一世紀館の館長は、上司の命を受け当該教育機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

(次長等)

第33条 上司の命を受け、教育機関の長を補佐させるため、次の表の上欄に掲げる職を同表の相当下欄に掲げる教育機関に置く。

職	教 育 機 関
副 館 長	図書館、博物館、美術館、文書館、21世紀館、鳥居記念館

(総合教育センターその他の次長は省略)

2 教育機関の長に事故があるとき、又は教育機関の長が欠けたときは、当該機関に属する次長又は副館長（2人以上が置かれているときは、当該教育機関の長が指定する次長又は副館長）が、その職務を代行する。

(主幹等)

第34条 前条に規定する職のほか、教育機関に、次の表の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の相当下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
主 幹	上司の命を受け、当該教育機関の事務に関し特に命ぜられた事項を処理する。
課 長	上司の命を受け、課の事務を処理する。
主 査	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする事務又は技術に従事する。
専 門 学 芸 員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする博物館又は美術館の専門的事務に従事する。
係 長	上司の命を受け、当該教育機関の事務に関し命ぜられた事項又は係の事務を処理する。
事 務 主 任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
主 任 学 芸 員	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする博物館又は美術館の専門的事務に従事する。
主 事	上司の命を受け、事務に従事する。
学 芸 員	上司の命を受け、博物館又は美術館の専門的事務に従事する。

(司書、技師その他の博物館に置いていない職は省略)

第4章 附属機関

第37条 附属機関の名称、庶務を担当する課又は教育機関は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	庶務を担当する課又は教育機関
徳島県立博物館協議会	博物館

(事務局の各審議会、他館の各協議会等は省略)

●徳島県立博物館観覧料減免要綱

制 定 平成2年11月3日

最近改正 平成17年4月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例(平成2年徳島県条例第11号。以下「条例」という。)

第4条第3項の規定に基づき、徳島県立博物館の観覧料の減免について必要な事項を定めるものとする。

(観覧料の減免)

第2条 観覧料を減免することができるとき及びその減免の割合は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者並びにこれらの引率者が、教育課程に基づく学習活動として観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (2) 身体障害者手帳の交付を受けている者及び第一種身体障害者(昭和57年1月6日付け社更第4号厚生省社会局長・児童家庭局長通知に定めるところによる。)の介護者(1名に限る。)、療育手帳の交付を受けている者及びその介護者(1名に限る。)並びに精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護者(1名に限る。)が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の額に百分の五十を乗じて得た額
- (3) 年齢満65歳以上の者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の額に百分の五十を乗じて得た額
- (4) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する祝日及び休日(1月1日を除く。以下「祝日」という。)に観覧するとき。常設展観覧料の全額
- (5) 祝日に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。企画展観覧料の全額
- (6) 土曜日(祝日を除く。)に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (7) 日曜日(祝日を除く。)に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (8) 各学校の学則等に規定する学年始休業日、夏季休業日、秋季休業日、冬季休業日及び学年末休業日(土曜日、日曜日及び祝日を除く。)に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (9) その他徳島県立博物館長(以下「館長」という。)が特に必要と認めるとき。館長が必要と認める額(観覧料の免除申請等)

第3条 前条第1号により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ徳島県立博物館観覧料免除申請書(様式第1号)を館長に提出し、承認を受けなければならない。

2 館長は、前項の申請を適当と認めるときは、観覧料の免除を承認するものとする。

3 前条第2号又は第3号に該当する者は、身体障害者手帳、療育手帳並びに精神障害者保健福祉手帳又は年齢を証明する資料を提示し、承認を受けるものとする。

様式第1号(省略)

●徳島県立博物館資料特別利用要綱

制 定 平成3年12月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県立博物館管理規則（平成2年徳島県教育委員会規則第9号）第6条の規定に基づき、徳島県立博物館が所蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の特別利用について必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 資料の特別利用とは、学術その他の研究及び展示、又は出版物掲載等のため、資料を特別に閲覧、模写、複写、複製、撮影しようとする場合、あるいは資料の貸出を受けようとする場合をいう。

(手続)

第3条 資料の特別利用をしようとする者は、あらかじめ徳島県立博物館長（以下「館長」という。）に資料特別利用申請書（様式第1号）を提出し、資料特別利用許可書（様式第2号）の交付を受けなければならない。

2 資料の特別利用のうち、資料の館外貸出を受けようとする者は、貸出を受けようとする日の30日前までに、特別利用申請書を提出するものとする。

3 館長は、資料の館外貸出をする際、借受者から資料借用書（様式第3号）を提出させるものとする。

(許可基準等)

第4条 資料の特別利用ができる場合は、学術その他の研究及び教育又は文化に関する事業の用に供することを目的とするときに限るものとし、次の各号のいずれかに該当するときは許可しないものとする。

- (1) 特別利用によって、資料の保存に悪影響を及ぼす恐れがあるとき。
- (2) 特別利用によって、博物館の業務に支障をきたす恐れがあるとき。
- (3) 寄託資料の特別利用をしようとする場合で、寄託者の同意を得ていないとき。
- (4) その他、館長が不相当と認めるとき。

2 資料の館外貸出を受けることができる者は、次のとおりとする。ただし、貸出期間は原則として45日以内とする。

- (1) 国立の博物館、博物館法に定める博物館及び博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法に定める公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法に定める図書館
- (4) 学校教育法に定める学校
- (5) その他、館長が適当と認める者

(条件)

第5条 資料の特別利用を許可された者は、特別利用に際し次の各号を遵守しなければならない。

- (1) 資料特別利用申請書に記載した目的以外に資料を利用しないこと。
- (2) 係員の指示に従って資料を取り扱うこと。
- (3) 資料の借受及び返納に当たっては、係員立ち会いのもとで、資料の確認、点検を行うこと。
- (4) 特別利用に伴って必要となる経費は、特別利用する者が負担すること。

(損害賠償)

第6条 資料の特別利用を受けた者が、資料を損傷又は亡失したときは、速やかに館長に届け出てその指示するところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

様式第1号～第3号（省略）

●徳島県立博物館資料寄託取扱要綱

制 定 平成3年12月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県立博物館管理規則（平成2年徳島県教育委員会規則第9号）第7条の規定に基づき、博物館資料（以下「資料」という。）の寄託に関する取扱について必要な事項を定めるものとする。

(手続)

第2条 徳島県立博物館に資料を寄託しようとする者（以下「寄託者」という。）は、あらかじめ徳島県立博物館長（以下「館長」という。）に資料寄託申請書（様式第1号）を提出し、資料寄託許可証（様式第2号）の交付を受けなければならない。

2 館長は、資料の寄託を受けたときは、寄託者に資料受託書（様式第3号）を交付するものとする。

3 寄託者に寄託資料を返還するときは、資料受託書と引き替えに行うものとする。

(許可基準)

第3条 館長は、資料の寄託の申請があったときは、次の各号のいずれかに該当する資料について受け入れるものとする。

- (1) 国指定文化財及び県・市町村指定文化財に指定されている資料、若しくはそれに準ずる資料
- (2) 博物館資料として展示等に活用できる資料
- (3) 博物館資料として保存すべき価値が高く、かつ現状のままでは資料の保存が危惧される資料
- (4) その他、館長が特に必要と認める資料

(寄託期間等)

第4条 資料の寄託期間は、5年とする。

2 寄託者が、寄託期間満了後において引き続き資料を寄託しようとする場合は、改めて第2条による手続を行わなければならない。

3 寄託者が、寄託期間満了以前に寄託資料の返還を求めるときは、返還を希望する日の30日前までに館長に申し出なければならない。

4 寄託者は、寄託期間内に寄託資料の所有権に変更があったときは、速やかに館長に申し出なければならない。

5 館長は、前項の申し出を受けたときは、新たに所有権を有することになった者と協議し、引き続き資料の寄託を希望する場合は、改めて第2条による手続を行うものとする。

(寄託資料の特別利用)

第5条 徳島県立博物館又は第三者が、徳島県立博物館資料特別利用要綱に基づく寄託資料の特別利用をしようとするときは、あらかじめ寄託者の承諾を得なければならない。

2 第三者が寄託資料を特別利用しようとするときは、寄託者の承諾を得た後、資料特別利用要綱に基づく手続を行い、館長の許可を得るものとする。

(経費等)

第6条 寄託資料の運搬等に要する費用については、寄託者が負担するものとする。

2 寄託資料の保管料については徴収しない。

3 寄託資料に補修等の必要が生じたときは、館長と寄託者と協議して行うものとする。

(管理)

第7条 寄託資料の管理は、徳島県立博物館が所蔵する資料に準じて行うものとする。

様式第1号～第3号（省略）

徳島県立博物館年報 第15号 (平成17年度)

平成18年(2006)7月31日 発行

編集・発行：徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

(文化の森総合公園内)

TEL (088) 668-3636 FAX (088) 668-7197

Eメール museum@mt.tokushima-ec.ed.jp

ホームページ <http://www.museum.tokushima-ec-ed.jp/>

印 刷：(株)教育出版センター
